

江南厚生病院年報

(平成20年度)



江南厚生病院

江南厚生病院基本理念・病院訓

江南厚生病院基本理念

1. 私たちは「患者さん中心の医療」を実践します
1. 私たちは患者さんの安心と信頼を得るように努力します
1. 私たちは医療人としての誇りと自信を持って行動します

病院訓

1. 自分を見直し、甘えを反省しましょう
1. 患者さんの気持ちで、接しましょう
1. お互いを理解し、仲良く働きましょう

創刊に寄せて

院長 加藤 幸男

愛北病院・昭和病院を統合した江南厚生病院は、昨年5月開院して以来、早いものでもう1年が経ちました。ここに年報を創刊し、その第1号を発刊できるのは、ひとえに多くの職員の努力の賜物であり、特に二病院の統合、慣れない新しい建物、電子カルテの導入等、幾多の困難を乗り越えて、短期間に病院の診療、運営が順調になるよう努力して頂いた結果であり、深く感謝申し上げます。

そして、この江南厚生病院設立の意義は何度も申し上げていますが、理不尽な国の医療政策により、全国至る所で医療崩壊がおきようとも、ここ江南を中心とする尾北の地の地域医療を最後まで守り抜くことであり、どうかこのことを忘れることなく、病院の更なる発展に一層の努力を心よりお願い申し上げます。

最後に新病院のあわただしいなかで、年報の編集に尽力いただいた広報委員会の諸君に深甚なる謝意を表します。

江南厚生病院年報（平成20年度）

目 次

江南厚生病院基本理念・病院訓

創刊に寄せて

1. 病院概要	1
2. 事業報告	11
3. 病院診療機能概要	17
4. 診療協助部門概要	
・薬剤・供給科	41
・診療放射線技術科	43
・臨床検査技術科	44
・臨床工学技術科	46
・リハビリテーション技術科	48
・栄養科	56
・診療情報管理室	58
・医療安全対策室	62
・看護部	66
・訪問看護ステーション	73
・江南中部地域包括支援センター	81
・病診連携室	85
・江南厚生介護相談センター	96
・地域医療保険福祉連携室	99
5. 論文発表	103
6. 学会・研究会発表	113
7. その他	
・会議・委員会の開催状況	129
・病理解剖報告	131
・愛昭会活動報告	132

1. 病 院 概 要

1. 病院概要

- 1) 名称 愛知県厚生農業協同組合連合会 江南厚生病院
 2) 所在地 〒483-8704
 愛知県江南市高屋町大松原 137 番地 TEL 0587-51-3333
 FAX 0587-51-3300
<http://www.jaaikosei.or.jp/konan/>
- 3) 開設者 愛知県厚生農業協同組合連合会 代表理事理事長 山田孝正
 4) 開設年月日 平成 20 年 5 月 1 日
 5) 病院施設 敷地面積 80,375.5 m²
 建物面積 21,221.9 m²
 延床面積 67,015.9 m²
- 6) 管理者 院長 加藤 幸男
 7) 診療科 31 科
 内科、神経内科、呼吸器内科、消化器内科、循環器内科、血液・腫瘍内科、
 腎臓内科、内分泌・糖尿病内科、内科（緩和ケア）、精神科、小児科、外科、
 消化器外科、乳腺・内分泌外科、呼吸器外科、心臓血管外科、整形外科、
 リウマチ科、脳神経外科、皮膚科、泌尿器科、産婦人科、眼科、
 耳鼻いんこう科、リハビリテーション科、放射線科、病理診断科、臨床検
 査科、救急科、歯科口腔外科、麻酔科
- 8) 病床数 678床（一般624床 療養54床） (20.5.1)

病棟名	病床数	看護体制	科名
3階西病棟	30	10:1	救命救急 ICU・CCU・HCU
3階南病棟	50	10:1	内科（循環器）
4階西病棟	54	—	療養病棟
4階東病棟	54	10:1	
5階西病棟	45	10:1	女性病棟（産科 婦人科）
5階南病棟	15	10:1	こども医療センター NICU GCU
5階東病棟	48	7:1	こども医療センター 小児科
6階西病棟	53	10:1	脊椎脊髄センター 整形外科
6階南病棟	53	10:1	内科（腎臓）泌尿器科 皮膚科
6階東病棟	53	10:1	外科
7階西病棟	53	10:1	内科（呼吸器 内分泌 消化器）
7階南病棟	53	10:1	内科（消化器）
7階東病棟	51	10:1	脳神経外科 眼科 耳鼻いんこう科 歯科口腔外科
8階西病棟	20	10:1	内科（緩和ケア）
8階東病棟	46	10:1	内科（血液化学療法）
計	678		

特殊施設（再掲）

名 称	内 容	名 称	内 容
救急指定病床 (ICU 6 床、CCU 4 床含む)	3 0 床	重症者収容室	(個室) 2 8 床
		クリーンルーム	1 7 床
N I C U	9 床	差額ベッド	1 人室 1 9 4 床
小児専用病床	2 8 室 5 4 床		
うち未熟児室	1 室 6 床		

9) 教育指定・認定施設

1	臨床研修病院指定
2	日本内科学会認定医制度教育病院
3	日本血液学会認定血液研修施設
4	非血縁者間骨髄採取・移植認定施設
5	日本循環器学会認定循環器専門医研修施設
6	日本呼吸器内視鏡学会専門医制度認定施設
7	日本呼吸器学会認定施設
8	日本消化器病学会認定制度関連認定施設
9	日本消化器病学会専門医制度認定施設
10	日本内分泌学会内分泌代謝科専門医制度教育施設
11	日本糖尿病学会認定教育施設
12	日本甲状腺学会認定専門医施設
13	日本腎臓学会研修施設
14	日本透析医学会専門医制度認定施設
15	日本小児科学会専門医制度研修施設
16	日本外科学会外科専門医制度修練施設
17	日本乳癌学会関連認定施設
18	日本消化器外科学会専門医制度専門医修練施設
19	日本整形外科学会専門医制度研修施設
20	日本脳神経外科学会専門医認定制度指定訓練施設
21	日本皮膚科学会認定専門医研修施設
22	日本アレルギー学会教育施設（皮膚科）
23	日本泌尿器科学会専門医教育施設
24	日本産科婦人科学会専門医制度卒後研修指導施設
25	日本眼科学会専門医制度研修施設
26	日本耳鼻咽喉科学会専門医研修施設
27	歯科口腔外科学会専門医制度研修施設
28	日本麻酔科学会認定病院研修施設
29	日本プライマリ・ケア学会認定医制度研修施設
30	日本臨床腫瘍学会認定研修施設
31	日本感染症学会認定研修施設
32	日本臨床細胞学会認定施設
33	日本病理学会病理専門医制度認定病院B
34	エイズ治療協力医療機関

10)施設基準届出事項

名 称	指定日	受理番号
一般病棟入院基本料(10:1)	H20.5.1	(一般入院) 第 1875 号
(一般病棟)療養環境加算	H20.5.1	(療) 第 175 号
小児入院医療管理料2	H20.5.1	(小入2) 第 35 号
療養病棟入院基本料	H20.5.1	(療養入院) 第 631 号
(療養病棟)療養環境加算	H20.5.1	(療養1) 第 72 号
臨床研修病院入院診療加算	H20.5.1	(臨床研修) 第 101 号
診療録管理体制加算	H20.5.1	(診療録) 第 126 号
重症者等療養環境特別加算	H20.5.1	(重) 第 1176 号
栄養管理実施加算	H20.5.1	(栄養管理) 第 342 号
医療安全対策加算	H20.5.1	(医療安全) 第 135 号
褥瘡患者管理加算	H20.5.1	(褥) 第 347 号
褥瘡ハイリスク患者ケア加算	H20.5.1	(褥瘡ケア) 第 16 号
ハイリスク分娩管理加算	H20.5.1	(ハイ分娩) 第 92 号
ハイリスク妊娠管理加算	H20.5.1	(ハイ妊娠) 第 102 号
妊産婦緊急搬送入院加算	H20.5.1	(妊産婦) 第 73 号
入院時食事療養/生活療養(Ⅰ)	H20.5.1	(食) 第 1259 号
小児科外来診療料	H20.5.1	(小外) 第 2809 号
手術前医学管理料	H20.5.1	
高度難聴指導管理料	H20.5.1	(高) 第 233 号
地域連携診療計画管理料、地域連携診療計画退院時指導料	H20.5.1	(地連携) 第 136 号
薬剤管理指導料	H20.5.1	(薬) 第 360 号
検体検査管理加算(Ⅰ)	H20.5.1	(検Ⅰ) 第 329 号
検体検査管理加算(Ⅱ)	H20.5.1	(検Ⅱ) 第 65 号
ポジトロン断層撮影又はポジトロン断層・コンピューター断層複合撮影	H20.5.1	(ポジ) 第 35 号
医療機器安全管理料1	H20.5.1	(機安1) 第 103 号
外来化学療法加算	H20.5.1	(外化) 第 125 号
輸血管理料1	H20.5.1	(輸血Ⅰ) 第 16 号
コンタクトレンズ検査料 1	H20.5.1	(コン1) 第 833 号
CT撮影及びMRI撮影	H20.5.1	(C・M) 第 210 号
無菌製剤処理加算	H20.5.1	(菌) 第 186 号
脳血管疾患等リハビリテーション料(Ⅰ)	H20.5.1	(脳Ⅰ) 第 110 号
運動器リハビリテーション料(Ⅰ)	H20.5.1	(運Ⅰ) 第 507 号
呼吸器リハビリテーション料(Ⅰ)	H20.5.1	(呼Ⅰ) 第 121 号
麻酔管理料	H20.5.1	(麻管) 第 171 号
エタノールの局所注入(甲状腺)	H20.5.1	(エタ甲) 第 28 号
エタノールの局所注入(副甲状腺)	H20.5.1	(エタ副甲) 第 24 号
画像診断管理加算1	H20.5.1	(画1) 第 53 号
高エネルギー放射線治療	H20.5.1	(高放) 第 41 号
補綴物維持管理料	H20.5.1	(補管) 第 4665 号
手術(通則)	H20.5.1	(通手) 第 402 号
ペースメーカー移植術 心筋電極の場合	H20.5.1	(ぺ) 第 179 号
ペースメーカー移植術 経静脈電極の場合		
ペースメーカー交換術(電池交換を含む。)		
大動脈バルーンパンピング法(IABP法)	H20.5.1	(大) 第 110 号

10)施設基準届出事項

名 称	指定日	受理番号
体外衝撃波胆石破砕術	H20.5.1	(胆) 第 34 号
体外衝撃波腎・尿管結石破砕術	H20.5.1	(腎) 第 64 号
退院調整加算	H20.7.1	(退院) 第 107 号
後期高齢者退院調整加算	H20.7.1	(後期退院) 第 103 号
ニコチン依存症管理料	H20.8.1	(ニコ) 第 335 号
地域歯科診療支援病院歯科初診料	H20.8.1	(病初診) 第 34 号
重症皮膚潰瘍管理加算	H20.8.1	(重皮潰) 第 119 号
運動器リハビリテーション料 (I)の従事者変更	H20.8.1	
呼吸器リハビリテーション料 (I)の従事者変更	H20.8.1	
脳血管疾患等リハビリテーション料 (I)の従事者変更	H20.8.1	
小児食物アレルギー負荷検査	H20.9.1	(小検) 第 50 号
冠動脈CT撮影加算	H20.9.1	(冠動C) 第 20 号
心臓MRI撮影加算	H20.9.1	(心臓M) 第 27 号
回復期リハビリテーション病棟入院基本料	H20.10.1	(回2) 第 72 号
地域連携小児夜間・休日診療料	H20.10.1	(小夜1) 第 9 号
検体検査管理加算(II)	H20.10.1	辞退
検体検査管理加算(III)	H20.10.1	(検III) 第 73 号
一般病棟入院基本料(10:1)	H20.10.1	(一般入院) 第 1929 号
一般病棟入院基本料(10:1)9月実績	H20.10	
初診・再診の実施(変更)報告書	H20.12.1	
保険医療機関指定変更申請書(室料差額)等	H20.12.1	
ハイリスク妊娠管理加算(産科医療補償制度に伴う)	H21.1	
ハイリスク分娩管理加算(産科医療補償制度に伴う)	H21.1	
保険医療機関指定変更申請書(室料差額)等	H21.3	
酸素の購入価格に関する届出書(平成21年度)	H21.3	
地域歯科診療支援病院歯科初診料年間実績報告書(平成20年)	H21.3	

11) 各法承認指定状況

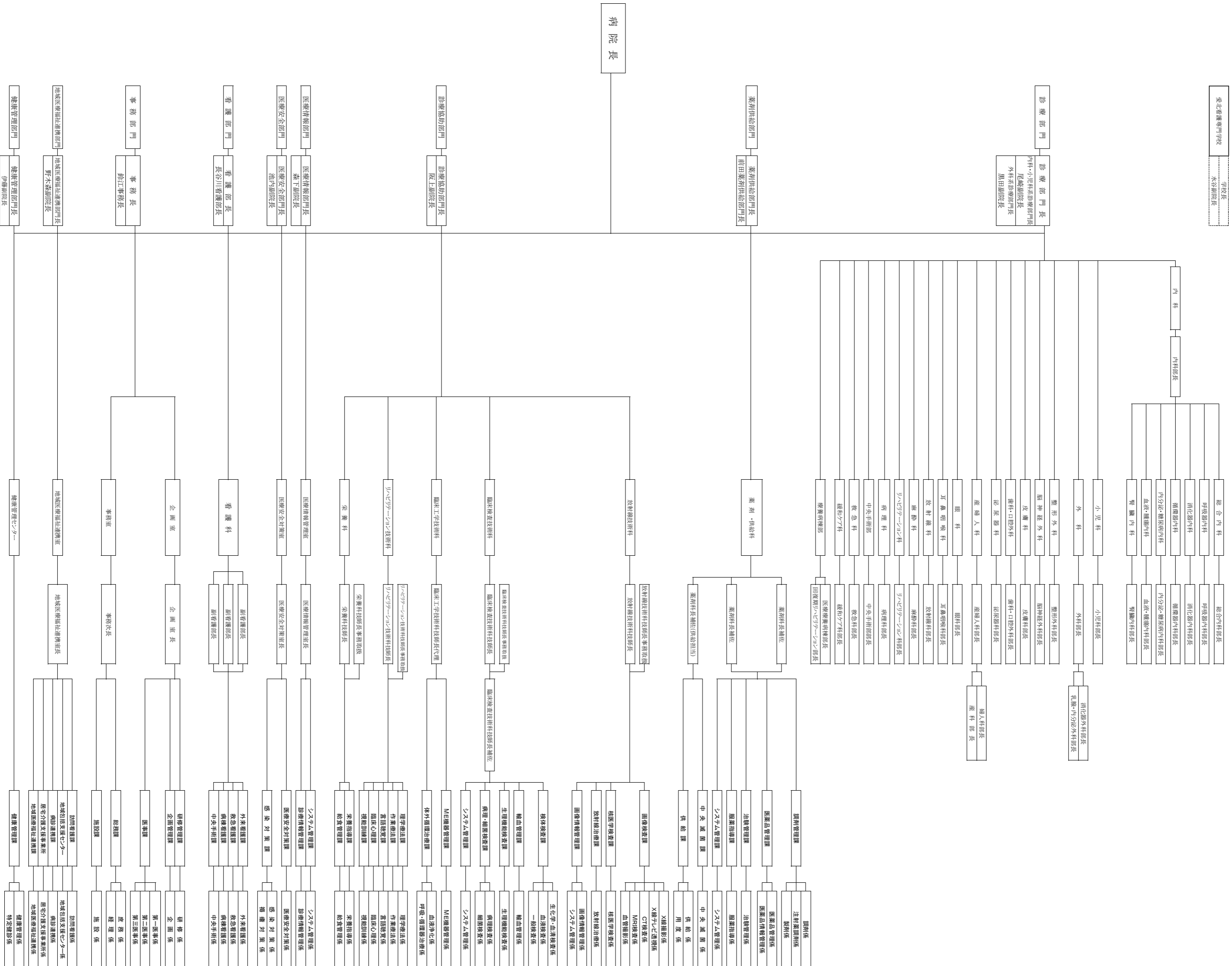
() 内…指定日

- ・ 保険医療機関 (平成20年5月1日)
- ・ 国民健康保険 (平成20年5月1日)
- ・ 結核予防法指定医療機関 (平成20年5月1日)
- ・ 労災保険指定病院 (平成20年5月1日)
- ・ 生活保護法指定医療機関 (平成20年5月1日)
- ・ 更生医療指定医療機関 (平成20年5月1日)
- ・ 原爆被爆者指定医療機関 (平成20年5月1日)
- ・ 救急告示病院 (平成20年5月1日)
- ・ 臨床研修指定病院 (平成20年5月1日)
- ・ 母体保護法指定医療機関 (平成20年5月1日)
- ・ 労災保険二次健診等給付医療機関 (平成20年5月1日)
- ・ 災害拠点病院 (平成20年5月1日)
- ・ 病原体取扱施設 (平成20年5月1日)
- ・ 放射線同位元素使用許可 (平成20年5月1日)
- ・ 肝疾患専門医療機関 (平成20年5月1日)
- ・ 養育医療指定医療機関 (平成20年5月1日)

12) 職員数

(平成21年3月1日現在)

	正職員	準職員	非常勤職員	計
医師	93	24	55	172
歯科医師	3			3
薬剤師	30			30
診療放射線技師	29			29
臨床検査技師	41	5	4	50
理学療法士	15			15
作業療法士	6			6
理療師	3			3
言語聴覚士	2	1		3
管理栄養士	9			9
栄養士		1		1
臨床心理士	1			1
ソーシャルワーカー	11			11
歯科衛生士	3	1		4
歯科技工士	2			2
臨床工学技士	12			12
視能訓練士	2		1	3
その他医療技術職	3			3
保健師	2			2
助産師	17			17
看護師	514	27	43	584
准看護師	38	6	12	56
事務職	78	2	11	91
技能職	45	4		49
作業職	56	11	7	74
合計	1,015	82	133	1,230



2. 事業報告

2.事業報告

1) 主な承認事項（病床変更・基準看護等）

月 日	承認事項
5月1日	一般病棟入院基本料（10：1）
10月1日	回復期リハビリテーション病棟入院料

2) 行政庁の指導事項（立入検査・食品衛生監視）

月 日	指導機関	指導事項
7月24日	春日井保健所	食品衛生監視（指摘事項なし）
11月25日	江南保健所	立入検査（指摘事項なし）

3) 関係機関との連携状況

関係機関	概況
江南保健所・江南市・犬山市・岩倉市・大口町・扶桑町・尾北医師会・岩倉市医師会・愛知北農協・愛知西農協・尾張中央農協・西春日井農協	・江南厚生病院運営協議会
江南市・犬山市・岩倉市・大口町・扶桑町	・三市二町第二次救急医療対策費補助

4) 主要処理事項（健康管理活動を除く）

月 日	処理事項
6 / 8	第46回東海四県農村医学会 於：浜松市
7 / 31	病院機能評価受審キックオフ
8 / 20	永年勤続者表彰式 於：名鉄グランドホテル
8 / 29	J Aあいち健康会議 於：安城市
9 / 13	厚生連球技大会（野球・排球） 於：安城市
9 / 26	東海四県企画・財務会議（病院見学）
10 / 3	愛知県下農協組合長セミナー 於：名鉄グランドホテル
10 / 19	江南厚生病院OB会設立総会
10 / 8	江南市農業まつり 於：すいとぴあ江南
10 / 13～14	第57回日本農村医学会 於：つくば市
11 / 25	江南保健所立入検査
1 / 28	平成20年度末定期監査

5) 患者数

20年度

科 別	外来延患者数	入院延患者数	合計延患者数
内 科	147,973	100,059	248,032
小 児 科	30,902	16,074	46,976
外 科	14,804	17,809	32,613
整 形 外 科	32,819	27,267	60,086
脳 神 経 外 科	7,527	7,355	14,882
皮 膚 科	19,868	1,282	21,150
泌 尿 器 科	19,533	7,283	26,816
産 婦 人 科	14,521	11,401	25,922
眼 科	19,635	2,777	22,412
耳 鼻 咽 喉 科	22,024	3,991	26,015
放 射 線 科	1,727	—	1,727
歯 科 口 腔 外 科	10,326	1,182	11,508
合 計	341,659	196,480	538,139
一日平均患者数	1,418	587	2,005

6) 市町村別実患者数

20年度

市町村	人 口 (A)	外 来			入 院		
		患者実数 (B)	人口対比 (×100)	構成比 (C)	患者実数	人口対比 (×100)	構成比
江 南 市	100,428	47,863	47.66	55.9	4,685	4.67	50.0
扶 桑 町	33,264	9,968	29.97	11.6	1,122	3.37	12.0
大 口 町	22,275	5,382	24.16	6.3	563	2.53	6.0
犬 山 市	75,568	5,649	7.48	6.6	876	1.16	9.3
一 宮 市	377,782	5,667	1.50	6.6	690	0.18	7.4
岩 倉 市	48,367	3,174	6.56	3.7	403	0.83	4.3
各 務 原 市	145,479	1,269	0.87	1.5	169	0.12	1.8
名 古 屋 市	2,250,569	779	0.03	0.9	104	0.00	1.1
小 牧 市	149,591	723	0.48	0.8	98	0.07	1.0
そ の 他	—	5,111	—	6.1	668	—	7.1
合 計	—	85,585	—	100.0	9,378	—	100.0

7) ドック部門 受健者数

(単位：人)

		平成20年度
市町村職員共済組合	江南市役所	515
	犬山市役所	128
	岩倉市役所	66
	大口町役場	52
	扶桑町役場	77
	その他	141
国保ドック	江南市	844
	大口町	215
	扶桑町	172
生活習慣病予防健診		3,467
健康保険組合		4,221
個人健診		777
合 計		10,675
(再掲)	P E T - C T	32
	脳ドック	874
	マンモグラフィー	1,783
	乳腺エコー	

8) 江南市住民健診 受健者数

(単位：人)

		平成20年度
実施日数		92
基本健診		2,774
眼底のみ		190
癌のみ		578
肝炎単独		0
実受健者		3,542
(再掲)	肝 炎	377
	胃 癌	1,411
	大 腸 癌	1,814
	肺 癌	1,593
	子 宮 癌	749
	乳 癌	

実施期間 7月～10月

その他健診 受健者数

(単位：人)

	特定健康診査	特定保健指導	被爆者健診
平成20年度	1,322	159	78

実施期間 特定健康診査 通年
 特定保健指導 平成20年12月より開始
 被爆者健診 6月、11月

9) 訪問看護件数

	江南市		扶桑町		大口町		川島市		岩倉市		一宮市		合計	
	実人数	延人数	実人数	延人数	実人数	延人数	実人数	延人数	実人数	延人数	実人数	延人数	実人数	延人数
5月	57	376	3	19	3	9	0	0	2	7	1	10	78	421
6月	71	405	3	21	3	8	0	0	3	7	1	8	81	449
7月	73	467	3	20	2	8	0	0	3	8	1	7	82	510
8月	71	473	3	21	2	5	0	0	2	6	1	9	79	514
9月	76	517	3	20	2	7	0	0	1	2	1	8	83	554
10月	75	505	3	19	2	8	0	0	1	3	0	0	81	535
11月	73	413	3	18	2	7	1	2	0	0	1	4	80	444
12月	79	490	3	21	2	3	1	8	0	0	1	8	86	530
1月	76	453	3	19	3	9	1	5	0	0	1	8	84	494
2月	76	447	3	19	3	8	1	7	0	0	1	8	84	489
3月	76	477	3	19	3	8	1	7	0	0	1	8	84	514
合計	803	5,023	33	216	27	80	5	29	12	33	10	78	902	5,454

3. 病院診療機能概要

3. 病院診療機能概要

内科

循環器、消化器、血液、内分泌代謝、呼吸器の専門医が各々の専門分野で地域中核病院にふさわしい医療レベルの維持、向上に努力しています。

① 循環器内科

氏名	免許取得	役職・専門分野・その他
齊藤 二三夫	S55	循環器センター長:虚血性心疾患
真野 謙治	S58	循環器科部長:虚血性心疾患
高田 康信	H 3	循環器科部長:不整脈
許 聖服	H14	循環器科医長
奥村 諭	H17	循環器科医員
水谷 吉晶	H18	循環器科医員
碓氷 章彦	S56	胸部外科

2008年5月1日より愛北病院と昭和病院が合併し、江南厚生病院(病床数678)の循環器センター(病床数50床)として、新たに高度先進機器を整備し循環器診療を行っています。

高血圧症、虚血性心疾患(心筋梗塞、狭心症、虚血性心筋症)、心不全(原因疾患は拡張型心筋症、虚血性心筋症、心房細動、弁膜症、慢性腎不全など)、不整脈(発作性心房粗・細動、発作性上室性頻拍症、心室頻拍、心室細動など)等の診断及び治療を行っています。

救急治療{急性冠症候群(院外心停止、急性心筋梗塞、不安定狭心症)、急性左心不全、大動脈解離等}に関しては24時間体制で診療を行っています。特に急性心筋梗塞は、来院時より再灌流まで30分以内に行うように診療体制を整えています。

尾北医師会との連携を深めるために2001年より毎年病診連携検討会を行い、救急治療と外来治療との連携を深めています。2007年より一宮・岩倉医師会とも症例検討会を行い、連携を深めています。

周辺住民の方々の信頼を得て来院される患者様は、江南市及び周辺地区(犬山市、扶桑町、大口町、岩倉市、一宮市東部、岐阜県川島町、各務原市など)に及び、下記の様に当院で治療をさせていただく患者様の数は増えています。

	2001年	2002年	2003年	2004年	2005年	2006年	2007年	2008年
循環器疾患入院	469	633	702	701	777	777	800	914
冠動脈撮影	347	466	592	552	591	619	683	788
冠動脈形成術	68	109	175	165	237	254	254	308
カテーテルアブレーション	0	2	11	14	28	30	21	43
ペースメーカー手術	17	31	24	26	35	20	30	47

《主な検査》

1. 心臓カテーテル(左心、右心、冠動脈造影、冠動脈形成術、心臓電気生理学的検査、カテーテルアブレーション、カルトシステム)
2. 心筋シンチグラフィ検査、
3. 心臓超音波検査(断層法、カラードプラー、組織ドプラー検査、経食道エコー)、
4. 冠動脈CT検査、
5. トレッドミル負荷検査、
6. ホルター心電図検査、
7. 24時間血圧計、
8. 上肢・下肢同時血圧測定

② 消化器内科

氏名	免許取得	役職・専門分野・その他
田原裕文	S54	療養病棟部長
堤靖彦	S57	消化器内科部長
寺澤康之	H1	第一消化器内科病棟部長
佐々木洋治	H6	内視鏡センター長・第二消化器科部長
吉田大介	H7	第二消化器内科病棟部長
古田武久	H11	消化器内科医長
板津孝明	H14	消化器内科医員
森島大雅	H16	消化器内科医員
加藤幸一郎	H16	消化器内科医員
富永雄一郎	H17	消化器内科医員
竹中宏之	H13	

消化管および肝、胆、膵臓疾患の診断、治療を行っています。新病院への移転により、内視鏡、レントゲンを使用する検査、治療のほとんどが内視鏡センター内で行えるようになりました。平成20年度は年間3,800件以上の上部消化管内視鏡検査、2,400件以上の下部消化管検査を施行しており、24時間態勢で緊急内視鏡検査に対応しています。近年の内視鏡技術の進歩に伴い、早期消化管腫瘍に対する内視鏡的粘膜下層切開・剥離法(ESD)、超音波内視鏡下穿刺吸引生検(EUS-FNA)、ラジオ波焼灼術(RFA)、内視鏡的総胆管結石砕石術、経鼻内視鏡、カプセル内視鏡など低侵襲かつ高度な検査、治療を積極的に行い、患者側のニーズに対応しています。

《主な検査》

1. 胃透視
2. 上部消化管内視鏡検査(色素内視鏡検査、超音波内視鏡検査)
3. 小腸造影(適宜)
4. 注腸透視
5. 大腸内視鏡
6. 腹部エコー
7. 腹部CT
8. MRCP・ERCP
9. 点滴胆嚢造影
10. 腹部血管造影

	平成20年度
上部消化管内視鏡検査	3,839
下部消化管内視鏡検査(ポリペク含む)	2,426
腹部エコー	2,362
ERCP(処置含む)	284
EUS(超音波内視鏡)	113
胃瘻造設・チューブ交換	328
肝生検	50
PTCD(留置、拡張、交換)	159
小腸透視	27

ESD(内視鏡的粘膜下層剥離術)	45
RFA(ラジオ波焼灼術)	21
EUS下穿刺吸引生検	3
胃透視	196
注腸	300
腹部血管撮影(TAE含む)	68
小腸カプセル内視鏡検査	4

③ 血液腫瘍内科

氏名	免許取得	役職・専門分野・その他
加藤 幸男	S47	院長:白血病化学療法
森下 剛久	S50	副院長・血液細胞療法センター長・医療情報部門長・血液腫瘍内科部長:白血病・骨髄移植
河野 彰夫	S62	第二血液化学療法科部長 輸血部部長:白血病・骨髄移植
綿本 浩一	H 8	第三血液化学療法科部長
尾関 和貴	H10	血液化学療法科医長
水野 紘樹	H16	血液化学療法科医員(～平成21年3月)
上田 格弘	H18	血液化学療法科医員

貧血、白血球増多、血小板減少等をきたす血液疾患の診断・治療を行っています。特に造血器悪性腫瘍（急性白血病、悪性リンパ腫、多発性骨髄腫）に対する強力な化学療法を成分輸血等の支持療法を厳重に行いながら実施しています。急性白血病は標準的治療を名古屋大学血液内科と協力して施行しています。悪性リンパ腫は病理組織型、international index を考慮した治療戦略をとり、積極的に自家末梢血幹細胞移植を施行しています。多発性骨髄腫は分子標的薬剤を含む最新の治療方針に従って治療しています。

また、同種造血幹細胞（骨髄、末梢血、臍帯血）移植は尾北地区唯一の骨髄バンク認定施設として年間15例以上実施しています。尾北地区のみならず、岐阜県からも紹介を受けています。

《主な検査》

1. 骨髄穿刺：入院不要
2. 骨髄生検：入院不要

平成20年度(2008/5～2009/3)

血液疾患	新規入院患者	のべ入院患者
骨髄系悪性腫瘍		
急性骨髄性白血病	22	63
骨髄異形成症候群	17	29
慢性骨髄性白血病・骨髄増殖症候群	9	11
リンパ系悪性腫瘍		
急性リンパ性白血病	4	13
悪性リンパ腫・ホジキン病	48	253
多発性骨髄腫	11	22
その他の血液疾患	8	13
計	119	404

造血細胞移植	平成 20 年度	累計
同種移植		
血縁骨髄・末梢血	1	1 1 0
非血縁骨髄	6	6 3
臍帯血	6	3 1
自家移植	5	5 8
計	1 8	2 6 2

④ 内分泌糖尿病内科

氏 名	免許取得	役職・専門分野・その他
野木森 剛	S49	副院長・内科部長・地域医療連携部門長： 糖尿病、甲状腺
有 吉 陽	H 5	内分泌糖尿病内科部長
吉 田 仁 美	H14	内分泌糖尿病内科医員(平成21年2月～)
福 岡 一 貴	H16	内分泌糖尿病内科医員
泉 田 久 和	H18	内分泌糖尿病内科医員

日本内分泌学会、日本糖尿病学会、日本甲状腺学会認定教育施設として、糖尿病を中心として、甲状腺疾患、副腎、性腺の疾患、摂食障害、低身長等の疾患の診断、治療をしています。糖尿病に対しては患者教育スタッフによる糖尿病教室、教育入院プログラムがあり、対応しています。また、アイソトープを使った甲状腺機能亢進症の治療も実施しております。

《主な検査》

1. 甲状腺エコー
2. 甲状腺、頭部、腹部のCT・MRI・RI
3. PET-CT
4. 甲状腺細胞診
5. 各種ホルモン負荷テスト

⑤ 呼吸器内科

氏 名	免許取得	役職・専門分野・その他
山 田 祥 之	S56	呼吸器科部長:肺癌化学療法
高 原 紀 博	H13	呼吸器科医長
織 田 恒 幸	H17	呼吸器科医員
林 信 行	H14	呼吸器科医員(平成 20 年4月～)
丹 羽 慶 樹	H18	呼吸器科医員(平成 20 年4月～6月)

日本呼吸器学会、日本呼吸器内視鏡学会認定施設として呼吸器疾患全般の診断、治療にあたっています。増加する肺癌に対して、化学療法や放射線療法を実施しています。慢性呼吸不全には包括的呼吸リハビリテーションの一環として、肺理学療法の実施、在宅酸素療法(HOT)や在宅人工呼吸療法(NIPPV)も導入しています。

1. 胸部CT・MRI・RI検査
2. 気管支鏡検査
3. 肺機能検査
4. CTガイド下肺生検など

⑥ 腎臓内科

氏名	免許取得	役職・専門分野・その他
平松 武幸	S56	透析センター長・腎臓内科部長:慢性腎炎・腎不全
古田 慎司	H5	腎臓内科部長:慢性腎不全
小野木 健詞	H11	腎臓内科医長(～H21.1.31):慢性糸球体腎炎
加藤 美奈	H14	腎臓内科医員:慢性糸球体腎炎

2008年5月1日より愛北病院と昭和病院が合併し、新たに透析センターという名前のもとで血液透析患者と腹膜透析患者をワンフロアの中で治療するシステムといたしました。血液透析患者の治療に関しては 愛北病院では30床であった透析ベッドを50床に増床し、個室4床で感染症・重症患者などの治療をおこなっております。また保存期腎不全の患者の透析医療へのスムーズな移行を目的とし指導もおこなっております。また各科と連携して各種疾患の血液浄化・術後の腎不全などの治療、慢性糸球体腎炎、糖尿病性腎症などの患者の診断治療（腎生検を含む）を通して腎機能の保護を目指した治療をおこなっております。周辺の透析施設との研究会（尾張北透析セミナー）を2007年より年2回開催すると共に、尾北地区医師会と共に勉強会を開催しております。周辺の診療所や透析センターより透析を含めた患者様の紹介も少しずつ増えております。

《血液浄化実績》

慢性維持透析(2008年末)

維持透析患者 血液透析 132名 腹膜透析 32名

維持透析導入患者 血液透析 22名 腹膜透析 12名

急性腎不全 17名

血液吸着：L-CAP（白血球除去） 11名 LDL吸着 2名 ビリルビン吸着 2名

血漿交換 4名 エンドトキシン吸着（PMX）4例

腎生検 19件

精神科

平成20年5月開院時より常勤医師不在の為、休診しています。

神経内科

氏名	免許取得	役職・専門分野・その他
池田 隆	S55	
竹内 有子	S63	

脳と神経の内科的病気を診察しております。神経難病、痴呆症、脳血管障害、てんかん、筋疾患、末梢神経障害などが中心です。症状としては、頭痛、めまい、しびれ、ふるえ、麻痺、意識障害、記憶障害などが対象となります。

《主な検査》

1. 頭部CT
2. 頭部MRI
3. 脳波
4. MRIによる脳血管撮影
5. 脳血流シンチ

<予約方法>

水曜日と木曜日の午後のみ診療があります。

初診、再診ともに予約制です。

小児科

氏名	免許取得	役職・専門分野・その他
尾崎 隆男	S47	副院長・小児科部長・こども医療センター長・中央臨床検査科部長:ウイルス感染症、予防接種、腎疾患
西村 直子	H 2	第2小児科部長・副センター長:新生児、内分泌
牛田 肇	H 8	小児循環器科部長:循環器、アレルギー
小山 慎郎	H 9	小児科医長:血液疾患
山本 康人	H11	小児科医長:腎疾患、アレルギー
鈴木 道雄	H17	小児科医員
成田 敦	H17	小児科医員
新川 泰子	H18	小児科医員
水谷 直樹	S48	副院長・看護学校長:代謝
小川 貴久	S63	循環器
伊藤 嘉規	H 4	感染症
石黒 よし子	H 4	神経疾患(～平成20年7月)
深沢 達也	H13	神経疾患(平成20年10月～)
加藤 奈津子		臨床心理士:心身症、不登校

午後には、次の専門外来を行っている。

(月) 心臓外来、代謝外来、心身症外来

(火) 腎臓外来、アレルギー外来、感染症、心身症外来

(水) 乳児検診、NICU 外来、心身症外来

(木) 予防接種、海外渡航者予防接種相談、心臓外来、腎臓外来、心身症外来

(金) 乳児検診、内分泌外来、神経外来、アレルギー外来、心身症外来

《主な検査》

1. 心エコー、腹エコー
2. MRI、CT、EEG
3. 肺機能検査
4. 腎機能検査、腎生検
5. 成長ホルモン分泌負荷テスト
6. 心身症関連テスト(親子関係テスト、エゴグラム、箱庭療法)
7. 新生児 ABR
8. 新生児頭部エコー
9. アレルギー食事負荷試験

平成20年度活動報告

「尾張北部地域を、こどもを安心して産み育てられる地域にする」ことを目標に「こども医療センター」が設立された。63床(一般小児48、NICU+GCU15)の他に、院内中学校(ふじ学級)および院内小学校(たんぼぼ学級)の各教室、カウンセリング室、多目的室、プレイルーム(なかよしひろば、もりのひろば)、談話コーナー等が設けられている。①器質的疾患から心因的疾患まで、②治療から保健・予防医療まで、③急性疾患から慢性疾患まで、④胎内期から思春期まで、⑤日常診療から臨床研究までの五つを基本理念に掲げ、こどもを総合的に診療できる小児科を目指している。

なかでも特筆すべきは、NICUの創設と小児救急医療への新たな取り組みである。NICUは

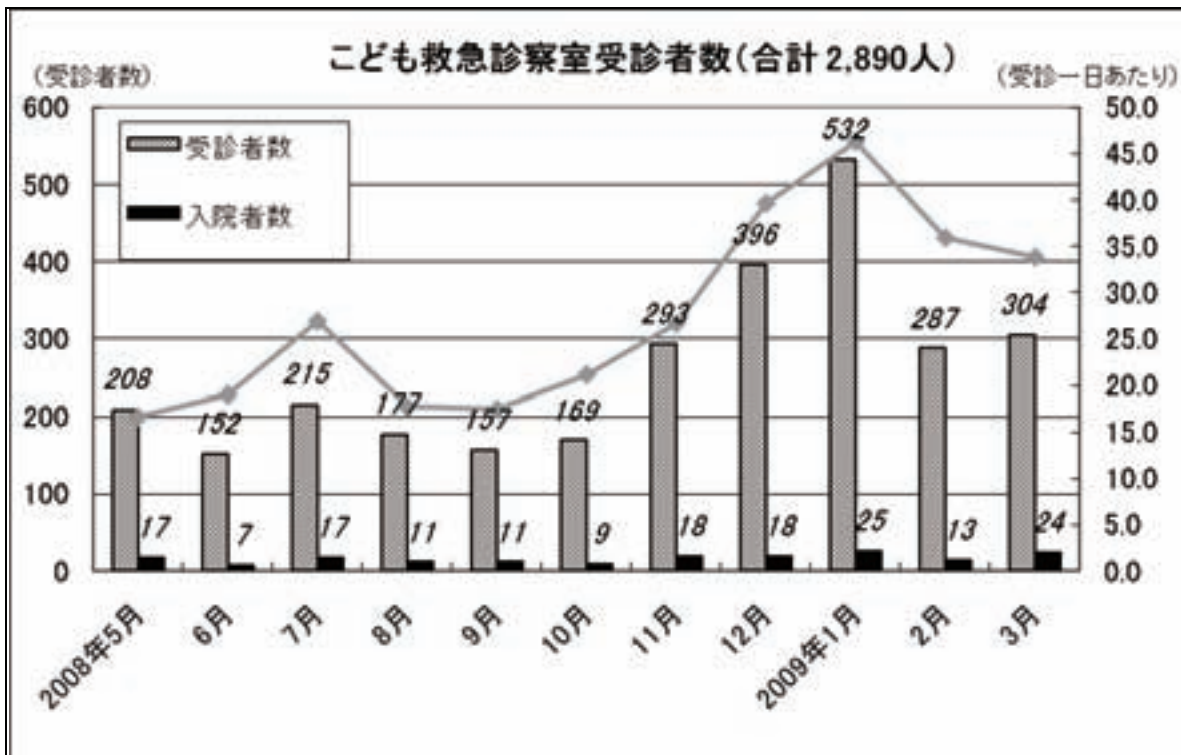
センターの中心に位置し、産科との連携のもと着実に実績を上げつつある。母体搬送による極低出生体重児や双胎の緊急入院にも対応が可能となった。小児救急への取り組みとして、小児科医の当直体制により 365 日 24 時間当地域の二次小児救急医療を完遂することにした。一次小児救急医療は、尾北小児科医会の開業医とともに新たに「江南厚生病院内で行う病診連携小児休日診療」を立ち上げ、当院の「こども救急診察室」で開業医による休日勤帯の診療を開始した。内科医や研修医、大学からの代務小児科医らの協力を得ながら、これらの取り組みは順調に稼働している。さらに、細菌検査室に隣接された小児感染症研究室を利用し、いくつかの臨床研究を行っている。

主な疾患別入院数（平成 20 年 5 月 1 日～平成 21 年 3 月 31 日）

【血液・腫瘍関連疾患】		【免疫・アレルギー】	
白血病	0	先天性免疫不全	2
悪性固形腫瘍	1	若年性関節リウマチ	1
種々の原因による貧血	6	自己免疫疾患	1
好中球減少症	12	アレルギー性紫斑病	15
特発性血小板減少性紫斑病	3	気管支喘息	58
血友病	0	アナフィラキシー	7
【感染症】		難治性下痢症	0
細気管支炎	16	アトピー性皮膚炎	2
急性細菌性肺炎	143	【腎疾患】	
マイコプラズマ肺炎	52	ネフローゼ症候群	6
化膿性髄膜炎	4	急性糸球体腎炎	2
無菌性髄膜炎	9	慢性糸球体腎炎	5
腸管出血性大腸菌感染症	1	尿路感染症	15
【消化器疾患】		【新生児疾患】	
急性肝炎	3	低出生体重児(2,500g 未満)	52
炎症性腸疾患	1	高ビリルビン血症	27
肥厚性幽門狭窄症	2	新生児感染症	1
腸重積	1	人工換気を要した呼吸不全	7
感染性胃腸炎	124	新生児仮死	6
【代謝・内分泌疾患】		【その他】	
先天性代謝異常	0	先天異常	1
糖尿病	5	神経性食思不振症	2
甲状腺疾患	1	不登校	0
低身長	5	心身症	2
【神経・筋疾患】		総入院数(のべ人数)	16,074
熱性痙攣	130	総外来数(のべ人数)	30,902
てんかん	9	死亡数	0
脳炎・脳症	0	救急外来数	7,006
痙攣重積	2	救急外来入院数	523
筋疾患	0		
【循環器疾患】			
先天性心疾患	2		
川崎病	30		

こども救急診察室受診者数

年 月	診療日数	受診者数	受診一日あたり	入院者数	入院一日あたり	一日最高
2008年5月	12.5	208	16.6	17 (8.2 %)	1.4	32 (5/5)
6月	8	152	19.0	7 (4.6 %)	0.9	30 (6/22)
7月	8	215	26.9	17 (7.9 %)	2.1	30 (7/20)
8月	10	177	17.7	11 (6.2 %)	1.1	21 (8/17)
9月	9	157	17.4	11 (7.0 %)	1.2	26 (9/15)
10月	8	169	21.1	9 (5.3 %)	1.1	32 (10/11)
11月	11	293	26.6	18 (6.1 %)	1.6	43 (11/23)
12月	10	396	39.6	18 (4.5 %)	1.8	67 (12/31)
2009年1月	11.5	532	46.3	25 (4.7 %)	2.2	68 (1/25)
2月	8	287	35.9	13 (4.5 %)	1.6	57 (2/8)
3月	9	304	33.8	24 (7.9 %)	2.7	44 (3/15)
合 計	105	2,890	27.4	170 (6.1 %)	1.6	68 (1/25)



外科

氏名	免許取得	役職・専門分野・その他
伊藤 洋一	S47	副院長・保健事業部門長
黒田 博文	S48	副院長・外科部長・中央手術部部長
加藤 真司	S53	呼吸器外科部長(平成 20 年 7 月～12 月)
飛永 純一	S59	乳腺内分泌外科部長
平井 敦	S63	第二外科部長(胃・結腸・直腸)
石樽 清	H 4	第三外科部長(肝・胆・膵・肺)
加藤 公一	H 7	第四外科部長(肝・胆・膵)
藤岡 憲	H12	外科医長(～平成 20 年 6 月)
山村 和生	H13	外科医長
二宮 豪	H15	外科医員(平成 20 年 7 月～)
林 直美	H16	外科医員
石田 直子	H18	外科医員(平成 20 年 4 月～)

- ・消化器外科： 食道、胃、大腸、肝、胆、膵、ヘルニアなど
- ・乳腺内分泌外科： 乳腺、甲状腺、副腎など
- ・呼吸器外科： 肺、縦隔など
- ・乳腺外来： 毎週月曜、金曜の午後、要精査のある場合予約にて診療。

乳腺撮影、乳腺超音波検査を行い、必要に応じ Aspiration Biopsy または Needle Biopsy、エコー下マンモトーム生検や乳腺MR検査などを施行し、迅速で的確な診断に心がけています。

スキンケア相談室： 皮膚、排泄ケア認定看護師 2 名（馬場、祖父江）が交代で毎日予約診療。オストメイトの方々の術前のオリエンテーションから術後のアフタケアが中心ですが、褥瘡や皮膚の障害などの皮膚や排泄のケアも行っています。

《主な検査》

1. CT、MR、PET検査
2. 腹部超音波検査
3. 肛門鏡検査
3. 乳腺撮影
4. 乳腺超音波検査
5. エコー下マンモトーム乳腺生検

平成 20 年度活動報告

5 月の開院時には、昭和病院より 8 名、愛北病院より 2 名の計 10 名のスタッフでスタートし、7 月には呼吸器外科医 1 名が加わりました。手術症例調査では、6 月より全身麻酔症例が毎月 50 件以上を維持し、年間 600 件以上のペースで、昭和病院と愛北病院を加えた外科手術件数を大きく上回っています。また中央手術部に 4 個のモニターが天井から吊り下げられた内視鏡手術対応の 1 室が外科専用 to 設けられ、胆石、自然気胸はもとより、胃、大腸の鏡視下手術が積極的に行われ、今後症例数の増加が予測されます。

人事では、7 月に赴任された加藤真司 Dr. が 12 月末で退職され、呼吸器外科医は週 1 回の非常勤となっています。昭和病院から 8 年間勤めた藤岡 Dr. は、帰局前の人事として 7 月より中津川市民病院へ赴任となり、代わりに小牧市民病院より元気な二宮 Dr. が赴任されました。21 年 4 月からは当院で臨床研修を終了したばかりの期待の若手、田中 Dr. が新たにスタッフに加わり、総勢 11 名となる予定です。昭和病院外科部長であった伊藤 Dr. は

保健事業部門長として健康管理センターの責任者となりました。

平成20年度（20年5月～21年3月）症例調査

1. 手術件数 全麻 577 その他 265
 2. 手術症例数

	手術件数	鏡視下手術(再掲)
食道	4	
胃・十二指腸（良性/GIST）	14	
胃・十二指腸（悪性）	57	8
炎症性疾患	1	
結腸・直腸	137	9
虫垂	80	
肛門	8	
肝（腫瘍）	15	
胆嚢・胆管（良性）	68	55
胆嚢・胆管（悪性）	11	
膵	11	
甲状腺	13	
乳腺	60	
肺	47	43
副腎	1	1
鼠径・大腿ヘルニア	164	
その他	151	
合計	842	116

整形外科

氏名	免許取得	役職・専門分野・その他
金村徳相	S63	脊椎脊髄センター長兼整形外科部長兼 リハビリテーション科部長
川崎雅史	H4	第二整形外科部長兼関節外科部長
岩田佳久	H6	第三整形外科部長兼手の外科部長
吉田剛	H10	整形外科医長
近藤高弘	H10	整形外科医長
大野秀一郎	H10	整形外科医長
新井英介	H13	整形外科医長
玉井良樹	H14	整形外科医員
石川喜資	H17	整形外科医員
松本明之	H18	整形外科医員
村本健一	S34	RA専門医
嘉森雅俊	S56	RA専門医
西田佳弘	S63	骨・軟部腫瘍科
酒井義人	H6	脊椎外科
大谷茂毅	H9	
関泰輔	H9	

整形外科疾患全般に亘り、地域医療、高度先進医療もふくめた専門的治療と幅広くかつ質の高い整形外科診療を行っています。とくに脊椎・脊髄疾患、関節疾患、リウマチ疾患、手の外科に関してはそれぞれ専門医が1名以上常勤していて、地域のセンター病院となるように積極的に取り組んでいます。それ以外の専門分野に関しては、名古屋大学整形外科と綿密な連絡を取りながら診療を行っています。

またリハビリテーション科は、理学療法士15名、作業療法士6名、言語療法士2名が常勤しており、外傷や専門治療の手術後の急性期リハビリテーションや高度な障害に対する機能回復訓練を中心に行っております。

脊椎・脊椎外科 専門医：金村、吉田、酒井

当院整形外科では平成15年度より、尾張地区の脊椎・脊髄外科のセンター病院として、椎間板ヘルニアから高度の脊柱変形まで幅広くかつ先端の医療を行っています。脊椎・脊髄手術症例は年々増加しており、平成18年度は手術症例約290例に達しています。

腰椎椎間板ヘルニアの手術治療に対しては、従来の切開手術を基本として、最小侵襲手術である内視鏡下椎間板ヘルニア手術術（MED）、また必要であれば固定術も行うなどそれぞれの病態にあわせた手術方法で対応しています。脊柱変形に関しては、小児から高齢者まで、装具療法、進行例や高度な変形に対しては積極的に手術療法を行っています。また過去に行われた脊椎手術後の経過が思わしくない方にも、適応があれば積極的に再手術（サルベージ手術）を行っており、これにより他院の脊椎外科医からの紹介症例も増えています。

脊椎・脊髄手術には脊髄の安全性を確保するために手術中の脊髄モニタリングがきわめて重要です。われわれは、より安全な脊椎・脊髄手術を行うために、現在最も信頼性が高いといわれているMEP法と術中の筋電図を、最先端の脊髄モニタリング装置を導入して、最多の16chにて手術中の脊髄モニタリングを行っています。さらに平成18年度後半からは、最先端の脊椎手術ナビゲーションシステムと術中3D-CTイメージ装置が導入され、さらに高度で複雑な脊椎手術にも対応できるようになりました。

股関節再建外科・関節外科 専門医：川崎

対象疾患は変形性股関節症、特発性大腿骨頭壊死症、人工関節障害、変形性膝関節症、関節リウマチを主としており、年齢と疾患の程度によりそれぞれの症例の最も適した治療を選択しています。

主な手術術式としては、人工関節置換術、関節温存手術があり、とくに当院では、自分の骨を温存する関節温存手術（骨きり術）を多く行っています。また、緩んできた人工骨頭や人工関節に関しては、名古屋大学整形外科・股関節班と密な連携をとり、最先端である同種骨移植を利用した人工関節の入れ替え手術（人工関節再置換手術）にも積極的に取り組んでいます。現在はこれらの手術を中心に、週に約4件の手術を行っており、より満足度の高い、納得のできる治療を目指しています。

手の外科 専門医：岩田

手の外科では、高度な手の機能と整容の回復を実現するために、骨・関節・靭帯などの手の骨格の修復には整形外科学的な技術を、また皮膚を含む軟部組織の再生には形成外科的な技術を用いるといった複数の技術を駆使することにより、靭帯の中でもっとも緻密で、繊細な機能を有する手の再建に取り組んでいます。

手のしびれ、手の外傷（骨折、変形、神経・腱・血管損傷）、手関節・指関節の痛み、変形（関節リウマチ）などの手の外科領域の疾患について、尾北地区の手の外科診療の貢献できるように精一杯がんばっています。

《主な検査》

1. MRI 2. CT (3D・multi) 3. 脊髄造影 4. 椎間板造影 5. 神経根造影
6. 骨塩量測定 7. 関節造影 8. シンチグラフィ 9. サーモグラフィ

脳神経外科

氏名	免許取得	役職・専門分野・その他
岡部 広明	S59	脳神経外科部長
水谷 信彦	H 2	第二脳神経外科部長
伊藤 聡	H12	脳神経外科医長

平成 20 年 5 月に新病院移転後、新しいスタッフと脳神経外科患者の入院体制の形作りに追われた 1 年になりました。移転直前の 4 月下旬に伊藤聡先生が赴任し、5 月初めより移転に合わせて私が赴任し医師 3 名体制となりました。人員が増えたといっても電子カルテの導入による混乱や合併による対象患者数の拡大、新たな混合病棟ということもあり発足時はどうなることやらといった状態でした。スタッフの教育も机上というより実戦が主体になってしまい、7 東病棟以外に HCU 病棟、ICU などに協力をしていただき、また急性期後は回復期病棟、療養病棟のお世話になりなんとか大きな事故なく 1 年過ぎたという印象です。

入院患者数は 226 例で内訳は脳血管障害 137 例、頭部外傷 62 例、脳腫瘍 19 例、その他 8 例でした。麻酔科の先生の協力もあり重症患者に対応できる体制もでき、今後脳血管障害の急性期により踏み込んだ治療に進めるよう一層努力していきたくと思います。新しい手術室はナビゲーションシステムも使いやすくなっており、より侵襲の少ない手術を充実させ、また内視鏡手術、血管内手術など専門分化のすすんだ治療も名古屋大学医局と連携し、患者さんに満足できる結果を提供できるようになりました。脳神経外科は外来部門、放射線科、リハビリ部門含め多くの部署の協力なくして良い医療ができない科なので、今後も皆様の協力を得て地域の中核病院としての役割を果たせればと願っています。

手術件数(平成 20 年 5 月 1 日～平成 21 年 3 月 31 日)

			平成 20 年度
手術内容	脳血管障害(48)	脳動脈瘤クリッピング術	24
		脳内血腫除去術	6
		血行再建術	2
		脳 AVM 摘出術	1
		その他開頭術	3
		内頸動脈内膜切除術	2
		CT 誘導下血腫除去術	1
		脳室ドレナージ	3
	(血管内手術)	動脈瘤コイル塞栓術	5
		経静脈 AVF 塞栓術	1

	脳腫瘍(12)	開頭腫瘍摘出術	8
		内視鏡下下垂体腫瘍摘出術	4
	頭部外傷	穿頭血腫除去術	46
	機能外科	微小血管減圧術	1
	水頭症	脳室腹腔シャント術	4
	その他	頭蓋形成術など	7
総計			118

皮膚科

氏名	免許取得	役職・専門分野・その他
半田 芳浩	H 8	皮膚科部長
廣島 光恵	H13	皮膚科医長
河合 正博	H14	皮膚科医員
安藤 浩一	S59	毎週水曜日（平成20年9月～）
柴田 真一	H 6	毎週木曜日（平成20年7月～平成21年1月）

毎週2名のWOC看護認定看護師と協力して入院患者の褥瘡回診をしており、細やかで質の高い褥瘡ケアを心がけています。皮膚科としては数少ない日本アレルギー学会認定教育施設であり、アレルギー疾患の治療にも力を入れています。創傷の治療には消毒をせず、ガーゼ交換の痛みがなく、早く治る創傷被覆剤を多数取り入れています。粉瘤には主として4mmの孔を開けて内容物を摘出するくりぬき法を行い、傷跡を極力小さくしています。陥入爪にはくい込んである爪のみを部分的に抜いた後、再発防止にフェノール処理をしています。毎週火曜日は形成外科医とともに、高度な技術を要する切除・皮弁・植皮術などを行なっています。乾癬や白斑（白なまず）の治療に効果の高い、最新のナローバンドUVB照射装置も導入しました。帯状疱疹後神経痛にはイオン化した薬剤を経皮的かつ無痛で生体内へ導入し、治療終了後もほとんどの症例で臨床効果が持続するイオントフォレーシスを、また難治性の脱毛症には、現在最も治療効果が高い局所免疫療法（SADBE療法）を導入しました。しみ、こじわ、さめ肌、にきび、肌のくすみにはケミカルピーリング+ビタミンCのイオン導入を施術後、美白美容剤（ハイドロキノン配合美容液）を併用しています。

《主な検査》

1. 病理組織学的検査
2. アレルギー検査（皮内テスト、プリックテスト、スクラッチテスト、パッチテスト、血液検査）
3. 光線過敏性試験、
4. ダーモスコピー

統計データ

	20年
外来延べ患者数	19,868
入院延べ患者数	1,282
皮膚生検件数	278
手術件数	800
ケミカルピーリング件数	9

泌尿器科

氏名	免許取得	役職・専門分野・その他
阪上 洋	S55	副院長・泌尿器科部長
坂倉 毅	H 2	第二泌尿器科部長
矢内 良昌	H10	泌尿器科医長
恵谷 俊樹	H18	泌尿器科医員

病院移転までは結石破砕装置の老朽化のため尿路結石症例に対して体外衝撃波結石破砕を施行できず患者さまの希望する施設（愛北病院あるいは小牧市民病院が多くを占める）へ紹介していました。病院移転後は最新型のドルニエ結石破砕装置を購入でき全ての尿路結石に対応できるようになりました。腹腔鏡に準じた小切開手術手技の向上により前立腺および腎疾患については小切開手術症例が増え、在院日数も短縮されています。

近隣開業医と連携をはかり逆紹介患者数を増やしているため、外来受診者数は昭和病院・愛北病院統合前とほぼ同数です。尾北地域における基幹病院として泌尿器科疾患のすべてのニーズに対応できるよう図っております。

泌尿器科手術件数

	平成20年度
膀胱全摘出術	11
腎摘出術	12
腎尿管摘出術	9
前立腺全摘出術	16
経尿道的前立腺切除術	37
経尿道的膀胱腫瘍切除術	54
経尿道的膀胱結石破砕術	12
膀胱尿管新吻合術	2
腎盂形成術	1
高位除辜術	4
小児手術	41
体外衝撃波結石破砕術	183

《主な検査》

1. 各種泌尿器科X線検査
2. 超音波検査
3. 前立腺針生検

産婦人科

氏名	免許取得	役職・専門分野・その他
池内 政弘	S49	副院長・産婦人科部長
佐々 治紀	S62	婦人科部長
樋口 和宏	S59	産科部長
木村 直美	H 4	第2産婦人科部長

平成20年度は、外来診察室の増設に伴い、初診・再診・妊婦診の3診体制で外来診療を行いました。

女性病棟の設立、産褥病床における個室数の増加は患者さんの希望にそうものであり、また現在はまだ分娩予約制限を行っていないため、里帰り分娩や近隣産婦人科からの紹介妊婦の増加で分娩件数は増加しました。

昨年の約 1.8 倍、月間平均 50 件の分娩がありました。

緊急母体搬送の受け入れが 10 件ありました。その内訳は、切迫早産（子宮口開大、前期破水、骨盤位、双胎）、前置胎盤、妊娠高血圧症候群（子癇）、胎児仮死でした。

ハイリスク妊娠、母体搬送受け入れの増加に伴い、帝王切開の件数は増加していますが帝王切開率は例年とほとんど変わりませんでした。

婦人科手術件数は、子宮筋腫、卵巣腫瘍などの良性疾患を中心に増加し、過去最高となりました。悪性腫瘍症例は、例年通りの数となりました。

不妊治療では、人工授精（A I H）を 49 周期行い、そのうち 8 周期で妊娠成立し、体外受精胚移植（I V F ・ E T）は、5 周期行い、そのうち 1 周期で妊娠成立しました。

分娩統計

年度		16年	17年	18年	19年	20年		
総分娩数		386	306	402	434	550		
生産	早期産	経膈	頭位	10	10	16	19	24
			吸引	1	0	2	0	1
			骨盤位	1	0	0	0	0
			双胎	0	0	0	0	3
			小計	12	10	18	19	28
		帝切	単胎	4	9	9	18	11
			双胎	8	2	1	3	11
			小計	12	11	10	21	22
		早期産	小計	24	22	28	40	50
		正期産	経膈	頭位	304	227	287	295
	吸引			9	14	9	14	15
	鉗子			0	0	0	2	0
	骨盤位			1	0	0	0	0
	双胎			1	0	0	0	0
	小計			315	241	296	311	414
	帝切		単胎	44	42	76	74	82
			双胎	3	0	1	2	3
			小計	47	42	77	75	85
	正期産		小計	362	283	373	386	499
	死産		0	1	1	8	1	
帝切率(%)		15.3 (59/386)	17.3 (53/306)	21.9 (88/402)	22.1 (96/434)	20.0 (110/550)		

手術件数

手術名	16年	17年	18年	19年	20年
広汎性子宮全摘術	0	1	4	3	2
準広汎性子宮全摘術	11	1	3	5	1
単純子宮全摘術+α	51	48	56	67	78

附属器摘出術	16	11	18	21	24
卵巣腫瘍核出術	4	12	6	19	19
子宮外妊娠根治術	2	5	3	6	9
子宮脱根治術	12	20	17	36	21
子宮筋腫核出術	12	13	18	16	14
帝王切開術	59	53	88	96	110
腹腔鏡下腔式子宮全摘術	7	3	3	2	3
腹腔鏡下子宮外妊娠手術	3	2	1	5	3
腹腔鏡下卵巣腫瘍核出術	7	8	4	8	4
腹腔鏡	1	1	2	1	2
子宮頸部円錐切除術	4	6	12	9	15
試験開腹術	1	0	0	0	2
子宮鏡下筋腫核出術	7	7	10	8	2
子宮鏡下内膜ポリープ切除術	0	0	10	6	13
コンジロームレーザー焼灼術	0	0	0	3	1
シロッカー頸管縫縮術	6	6	2	4	4
腔閉鎖術	0	0	0	0	0
バルトリン氏腺嚢腫核出術	0	2	2	0	3
バルトリン氏腺嚢腫造袋術	0	0	1	1	0
その他	10	1	5	9	6
合計	213	202	263	325	336

手術悪性腫瘍例

疾患名	16年	17年	18年	19年	20年
子宮頸癌	2	2	11	5	6
子宮体癌	11	6	11	5	7
卵巣癌	5	5	13	6	6

眼科

氏名	免許取得	役職・専門分野・その他
平岩二郎	H6	眼科部長
小嶋丈司	H8	眼科第二部長
曹麗加	H13	眼科医長
浅野裕美	H16	眼科医員

白内障、緑内障、糖尿病網膜症・網膜剥離・黄斑疾患を含めた網膜硝子体疾患、ドライアイなどの疾患治療、子供の斜視・弱視の管理、NICUにおける未熟児網膜症の管理を行っております。

早期発見を必要とする網膜硝子体疾患、緑内障については、OCT（光干渉断層計：網膜・視神経の微細な断層撮影が可能な精密機械）という高額な検査機器を導入し、診断・治療に力を入れております。

更に、患者さんご自身の病気への理解を深めていただけるよう、眼科独自の画像システ

ムを用い、できる限りわかりやすく説明するように心がけています。

高齢化社会であり、当科では白内障手術の占める割合が多くなりますが、白内障手術は侵襲を最小限に抑えるよう、より安全な手術をめざしております。また糖尿病罹患人口は増え続け、糖尿病網膜症における光凝固術や、硝子体出血・増殖性網膜症に対する硝子体手術も積極的に行っております。緑内障、眼瞼下垂、眼瞼内反症、翼状片、流涙症に対しても手術を行っております。

医師のみならず、視能訓練士、眼科コメディカル、看護師の働きによって下記検査がなされ眼科診察治療は成り立っており、チーム医療として今後も頑張っていきたいと思えます。

《主な検査》

1. 視力検査
2. 眼圧検査
3. 屈折検査
4. 細隙灯検査
5. 眼底検査
6. 眼底カメラ撮影
7. 蛍光眼底造影撮影
8. 静的視野検査
9. 動的視野検査
10. OCT
11. 角膜内皮細胞解析
12. 超音波検査
13. 網膜電位図
14. 調節検査
15. 中心フリッカー検査
16. 眼筋機能検査
17. 小児視力検査
18. 立体視機能検査
19. レーザー前房蛋白細胞数検査
20. CT・MRI 検査
21. 眼鏡処方
22. コンタクトレンズ処方
23. 色覚検査
24. 前房隅角検査
25. 角膜形状解析

《主な外来治療》

1. 網膜光凝固術（レーザー治療）
2. YAG レーザー治療
3. 眼瞼・結膜腫瘍切除
4. 涙点プラグ挿入術
5. ケナコルト（薬物）テノン嚢内注入

手術件数

手術総件数 620

白内障手術	513
網膜硝子体手術	66
うち糖尿病網膜症	29
うち黄斑疾患	15
うち網膜剥離	18
その他疾患	4
緑内障手術	10
眼瞼内反症手術	9
眼瞼下垂手術	5
流涙症手術	6
翼状片手術	4
腫瘍切除	5
眼球破裂	2

眼科平成20年度検査件数統計

	平成20年 4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	平成21年 1月	2月	3月	計
		23	59	107	87	91	110	85	104	82	84	89	921
視野検査(HFA)		11	19	21	12	24	23	15	12	15	17	18	187
視野検査(GP)		18	27	42	29	37	63	56	72	76	92	93	605
網膜光干渉断層検査(OCT)		916	1368	1473	1467	1344	1651	1318	1584	1317	1357	1545	15340
視力		897	1371	1479	1461	1358	1651	1341	1579	1369	1391	1569	15466
眼圧		11	19	16	16	19	21	15	15	13	20	26	191
蛍光造影眼底検査(FAG)		78	95	117	118	121	153	144	150	169	180	188	1513
角膜内皮細胞測定検査		3	19	22	20	15	11	13	13	23	18	21	178
網膜電位図(ERG)		11	27	24	37	28	40	32	26	46	42	46	359
超音波検査(Aモード)		3	3	4	6	4	3	2	0	1	9	10	45
超音波検査(Bモード)		0	3	2	4	10	5	11	11	8	4	8	66
へスチャート		9	20	18	23	15	27	22	7	17	20	19	197
フリッカー		898	1300	1281	935	788	948	836	654	494	517	646	9297
レフ・ケラト													

耳鼻咽喉科

氏名	免許取得	役職・専門分野・その他
渡部 啓孝	S63	耳鼻咽喉科部長
大橋 卓	H13	耳鼻咽喉科医長
千葉 真由美	H15	耳鼻咽喉科医員

当院では、耳鼻咽喉科領域のあらゆる疾患を対象に一般的診察や、検査、手術を含めた治療を行い、皆さんに満足していただけるよう心がけています。

耳については、慢性中耳炎や真珠腫性中耳炎に対する手術を含めた治療の他、幼小児によくみられる滲出性中耳炎に対しては、麻酔科と連携を取り、鼓膜チューブ挿入術を日帰り手術で行っています。またメニエール病をはじめとするめまい疾患に対して、平衡機能検査などの専門的な検査により、質の高い治療を行っています。

鼻については、副鼻腔炎やアレルギー性鼻炎といった鼻疾患に対して積極的に治療を行っており、特に副鼻腔炎に対しては、(以前のような歯齦部切開ではなく)内視鏡下での副鼻腔手術を行っており、またアレルギー性鼻炎に対しては、レーザーによる下鼻甲介粘膜焼灼術を行っています。

慢性扁桃炎や扁桃肥大、アデノイドの手術も数多く行っています。頭頸部悪性腫瘍に対しては、放射線治療、抗癌剤治療、手術治療を適切に選択、組み合わせてしっかり治療にあたります。

これらのほかにも、様々な特殊な検査、治療を行っており、睡眠時無呼吸症候群に対する診断や治療、嚥下障害に対しては、ファイバー検査 (VE) や精密嚥下透視検査 (VF)、さらに必要があれば、リハビリテーション科と連携して積極的に嚥下リハビリを行い、できる限り口からの栄養摂取を目指しています。

《主な検査》

1. 聴力検査
2. 副鼻腔レントゲン検査
3. アレルギー検査
4. 咽喉頭ファイバー検査 (NBI を含む)
5. 平衡機能検査
6. CT・MRI・PET 検査
7. 嚥下機能検査

手術件数

	平成 20 年度
鼓膜切開術	8
鼓膜チューブ挿入術	83
鼓室形成術	1
鼓膜形成術	3
先天性耳瘻管摘出術	3
内視鏡下鼻内副鼻腔手術	69
鼻茸摘出術	2
鼻中隔矯正術 (及び鼻甲介切除術)	27
鼻腔粘膜レーザー焼灼術	86
口蓋扁桃摘出術 (及びアデノイド切除術)	76
UPPP	2

ラリngoマイクロサージャリー	10
気管切開術	5
頸部腫瘍摘出術	2
リンパ節摘出術	11
顎下腺腫瘍摘出術	3
耳下腺腫瘍摘出術	2
頸部郭清術	2
甲状腺腫瘍摘出術	1
鼻骨骨折整復術	9
眼窩吹き抜け骨折	1
上顎骨（頬骨）骨折観血的整復術	0
創傷処理	
その他	7
手術総件数	276
内、全身麻酔	150 (局麻 117 件)

なお、各手術の件数については、日本耳鼻咽喉科学会の表記に準じて、声帯や口蓋扁桃の手術は左右（両側施行）でも1つ、鼻や耳の手術は左右別（一側施行で1、両側施行だと2）と表記した。

麻 酔 科

氏 名	免許取得	役職・専門分野・その他
渡 辺 博	S53	麻酔科部長・中央手術部部長
山 本 康 裕	S56	麻酔科医長
藤 岡 奈加子	H11	麻酔科医員
赤 堀 貴 彦	H18	麻酔科医員
上 田 粹	H18	麻酔科医員
安 藤 侑 子	H18	麻酔科医員
矢 内 るみな	H12	
富 永 麻 里	H17	
青 木 瑠 里	H14	
黒 川 修 二	H14	
原 田 誠	H16	

手術室での安全で快適な麻酔管理を最優先にしています。

各科患者さんへの術前回診を行い麻酔計画をたてることにより不手際を極力少なくするように取り組んでいます。また術後に麻酔の影響で状況が悪くなっていないか必ず術後回診も行っています。

全身麻酔、脊椎麻酔、硬膜外麻酔、両者併用に加えバランス麻酔を加えることで急性期における痛みからの解放をめざしています。麻酔医の知識と技術の向上に加え、麻酔器、各種モニターの安全性も必ず点検してミスのないように患者管理を行っています。また、重症患者管理についても、ICUを平成20年に開設し重症病棟として運用して術後、救急外来からの重症患者管理を外科と協力し行っております。

放射線科

氏名	免許取得	役職・専門分野・その他
大竹正一郎	S59	診断部部長・画像診断
小川浩	H15	画像診断
山崎雅弘	H17	画像診断
小幡康範	S47	放射線治療
奥田隆仁	H5	放射線治療
久保田誠司	H15	放射線治療

診断部ではMD-CT、MRI、PET-CTなどの最新の画像診断装置を有し、その患者にとって必要十分と考えられる検査を行っています。撮影マニュアルは適宜更新しており、最新の知見に基づいた方法で検査しています。造影剤は副作用、診断能、対費用効果の点から、適切と思われるものを使用しています。検査時の放射線被曝には特に注意を払っております。また緊急検査への対応や、検査の予約待ちの日数を減らすように努力しています。

治療部では高性能の放射線照射装置を使用しています。常勤の放射線治療医は不在ですが、週に4回、非常勤の治療医が担当しています。月曜から金曜まで、技師と協力して精度の高い放射線治療を行っております。

全てのスタッフは積極的に勉強会、講習会などを企画し、常に向上できる様に心がけています。

歯科口腔外科

氏名	免許取得	役職・専門分野・その他
安井昭夫	S63	歯科口腔外科部長
竹内伸一	H6	第2歯科口腔外科部長
市原左知子	H14	歯科口腔外科医長

愛北病院でH18年度より口腔悪性腫瘍に対する放射線併用超選択的動注化学療法を行うようになりました。新病院となりその手技も放射線技師との協力で超選択的に血管カテーテルを安定的に留置できるようになりました。短期入院手術症例は例年通りの数ですが、悪性腫瘍は増加しています。外来では有病者を中心とした歯科治療や外来小手術を行っています。新病院になってからは、血液内科や末期癌患者等の口腔ケアの依頼にも対応しています。

入院手術件数

埋伏歯・その他抜歯術	173	歯根のう胞摘出・歯根端切除術	32
骨隆起整形術	9	ガンマ腫摘出術	1
小帯切離移動術	1	顎骨腫瘍摘出術	11
開窓術	1	エナメル上皮腫摘出術	1
顎骨骨折整復固定術	4	軟組織腫瘍摘出術	4
骨折術後プレート除去術	4	白板症切除術	2

顎関節脱臼整復固定術	1	唾石摘出術	1
異物除去術	1	顎下腺摘出術	1
創傷止血処置	2	唾液腺腫瘍摘出術(多形性腺腫)	1
顎炎消炎処置	1	悪性腫瘍:	
インプラント除去術	2	超選択的血管カテーテル留置術	3
腐骨除去術	9	舌部分切除術	1
(カテーテル留置併用)	2		
上顎洞根治術	4		
上顎洞口腔瘻閉鎖術	1		

時間外救急応需体制

- 年間を通じて1次・2次の救急医療体制を整えている。
平日 午後5時より翌朝9時
休日・祝日は終日
- 救急外来当直医の判断により、待機中の医師の呼び出し、緊急手術の対応も可。

【当直体制】

	医師	薬剤師	検査技師	放射線技師	看護師	事務	計
日直	10	2	2	2	4	5	25
宿直	7(2)	1(1)	1(1)	1(1)	4	5	19(5)

医師日直 内科2名、研修医4名(救急外来)
小児科2名(小児救急診察室、NICU)
外科・麻酔科1名(救急病棟)
産婦人科1名(女性病棟)

医師宿直 内科2名、研修医2名(救急外来)
小児科1名(NICU)
外科・麻酔科1名(救急病棟)
産婦人科1名(女性病棟)

※ 医師宿直の()内は22時までの研修医2名(救急外来)を別掲

※ 薬剤師・検査技師・放射線技師宿直の()内は20時までの1名を別掲

【待機】

医師9名:循環器内科、消化器内科、腎臓内科、外科・麻酔科、脳神経外科、
整形外科、泌尿器科、眼科、耳鼻いんこう科、
看護師4名

病院実習教育関係

1. 医 師 名古屋大学医学部他 臨床研修病院（1年研修、2年研修）
2. 診療放射線技師 名古屋大学放射線技術科、藤田保健衛生大学、鈴鹿医療科学大学、岐阜医療科学大学、東海医療技術専門学校
3. 臨床検査技師 名古屋大学医学部保健学科、藤田保健衛生大学医療科学部・短期大学、岐阜医療科学大学、中部大学生命健康科学部
4. 理学療法士 愛知医療学院
5. 作業療法士 国際医学技術専門学校
6. 言語聴覚士 愛知淑徳大学
7. 栄養士 名古屋文理大学・短期大学、名古屋女子大学・短期大学、愛知学泉大学、愛知江南短期大学、椋山女学園大学、金城学院大学、名古屋学芸大学、名古屋経済大学
8. ソーシャルワーカー 日本福祉大学、金城学院大学
9. 視能訓練士 東海医療科学専門学校
10. 養護教諭 名古屋学芸大学ヒューマンケア学部・名古屋学芸大学短期大学部
11. 看護師 愛北看護専門学校、尾北看護専門学校、平成医療専門学校、名古屋医専、中部大学保健看護学科
12. 助産師 名古屋市立大学助産学科
13. 救急救命士 江南消防署

認定施設

臨床研修病院指定

日本内科学会認定医制度教育病院

日本血液学会認定血液研修施設

非血縁者間骨髄採取・移植認定施設

日本循環器学会認定循環器専門医研修施設

日本呼吸器内視鏡学会専門医制度認定施設

日本呼吸器学会認定施設

日本消化器病学会認定制度関連認定施設

日本消化器病学会専門医制度認定施設

日本内分泌学会内分泌代謝科専門医制度教育施設

日本糖尿病学会認定教育施設

日本甲状腺学会認定専門医施設

日本腎臓学会研修施設

日本透析医学会専門医制度認定施設

日本小児科学会専門医制度研修施設

日本外科学会外科専門医制度修練施設

日本乳癌学会関連認定施設

日本消化器外科学会専門医制度専門医修練施設

日本整形外科学会専門医制度研修施設

日本脳神経外科学会専門医認定制度指定訓練施設

日本皮膚科学会認定専門医研修施設

日本アレルギー学会教育施設（皮膚科）

日本泌尿器科学会専門医教育施設

日本産科婦人科学会専門医制度卒後研修指導施設

日本眼科学会専門医制度研修施設

日本耳鼻咽喉科学会専門医研修施設

歯科口腔外科学会専門医制度研修施設

日本麻酔科学会認定病院研修施設

日本プライマリ・ケア学会認定医制度研修施設

日本臨床腫瘍学会認定研修施設

日本感染症学会認定研修施設

日本臨床細胞学会認定施設

日本病理学会病理専門医制度認定病院B

エイズ治療協力医療機関

4. 診療協助部門概要

4.診療協助部門概要

薬剤・供給科

平成20年度 目標課題

1. 江南厚生病院における薬剤科運用マニュアルの整備・見直し
2. 薬剤師の資質向上（専門薬剤師を育成、新人薬剤師・学生の教育）
3. チーム医療への積極的な参画
4. 医薬品の安全使用のための業務手順の見直し
5. SPD導入による在庫管理の適正化
6. DPCにむけ、クリティカルパスの拡大と医薬品の使用の検討
7. 薬薬連携の整備（江南厚生病院と尾北薬剤師会との連携強化）
8. ミスをなくすための方策を検討
9. 患者サービスの向上

平成20年度5月に愛北病院・昭和病院は統合移転し、新たに「江南厚生病院」として生まれ変わりました。ともに愛知県厚生連の病院でしたが、それぞれの特色があり、各職種の業務の手順や流れも異なっていました。また、新たに電子カルテの導入もあり、開院当初は業務上かなりの混乱もありました。しかしながら、患者さん方々の寛大さに助けていただきながら、なんとか新病院も軌道に乗ったと感じる次第です。

新病院開院と同時に、薬剤科では、全ての入院患者さんに対する注射個人セットを開始しました。また、外来・入院ともに薬剤師による抗がん剤点滴の調製を開始しました。これらは、昨今クローズアップされている医療安全の上で推奨されているものであり、チーム医療の一端を担う業務と言えます。基本は、「患者さんに安全でかつ有効な薬物治療を受けていただく」とことが私たち薬剤師の使命であるという考え方です。

平成21年度は、これら業務の見直しに加えて、薬剤管理指導業務等の患者さんへの情報提供の充実が課題であり、さらなるチーム医療への貢献を目指していきます。

処方箋枚数

区分		平成20年度
内科	院内	31,576
	院外	62,355
	分業率	66.4
精神科	院内	19
	院外	43
	分業率	69.4
小児科	院内	4,614
	院外	14,238
	分業率	75.5
外科	院内	3,846
	院外	2,780
	分業率	42.0
整形外科	院内	4,386
	院外	8,658
	分業率	66.4
脳神経外科	院内	535
	院外	2,340
	分業率	81.4
皮膚科	院内	5,143
	院外	9,569
	分業率	65.0
泌尿器科	院内	5,405
	院外	7,142
	分業率	56.9
産婦人科	院内	1,138
	院外	5,400
	分業率	82.6
眼科	院内	4,535
	院外	8,003
	分業率	63.8
耳鼻咽喉科	院内	2,747
	院外	9,472
	分業率	77.5
放射線科	院内	13
	院外	34
	分業率	72.3
麻酔科	院内	17
	院外	0
	分業率	0.0
リハビリ科	院内	0
	院外	1
	分業率	100.0
歯科	院内	1,334
	院外	1,646
	分業率	55.2
健診科	院内	1
	院外	0
	分業率	0.0
透析センター	院内	6,113
	院外	1
	分業率	0.0
緩和ケア科	院内	67
	院外	8
	分業率	10.7
救急科	院内	13,434
	院外	17
	分業率	0.1
外来合計	院内	84,923
	院外	131,707
	分業率	60.8
入院		58,976

請求件数

年度	薬剤情報提供料 (健康手帳記載)
平成20年度	48,815 (0)

年度	薬剤管理指導料(1・2・3を含む) (退院時服薬指導加算)
平成20年度	3,016 (199)

年度	無菌製剤処理科 (1・2を含む)
平成20年度	3,645

*ただし平成20年度は平成20年5月から
平成21年3月までの11ヶ月分の実績

診療放射線技術科

平成20年度活動報告

江南厚生病院の開院を終え、大きな混乱や心配されたシステムダウンも無く無事にスタートを切ることができました。技師数は総勢29名となり、30台を超える設置機器の操作習得も終えることができました。開院当初は部門システムや新規導入機器の操作不慣れによる待ち時間も生じましたが、時間とともに落ち着きを取り戻し、現在では待ち時間も解消されつつあります。

新病院では高機能センターを有しており高度医療機器も多く導入されました。撮影室数も32室と増え、検査や治療の業務範囲も広まり専門性も高まり放射線技術科として大きな変貌を遂げています。新しい検査や治療技術などは全体研修会を設けて質の向上を目指し、特に専門性が求められる部署では勉強会や研修会へ参加し知識と技術の向上を図りました。

医療安全を取り巻く環境も厳しく、組織の安全への取り組む姿勢が問われております。医療安全対策としては29名の技師が医療安全管理に対する取り組みを理解し、安全・安心な医療を提供できるように月例勉強会にて取り上げ周知活動を行いました。

今後は将来の放射線技術科のあり方について幅広く検討し、将来の放射線技術科の基盤作りを目指したいと考えます。

放射線科検査・治療件数

	20年度
一般撮影	81,418
X線TV	6,075
CT	17,753
MRI	10,601
アイソトープ	1,502
PET-CT	532
心臓カテーテル	801
血管撮影	204
マンモグラフィー	1,371
放射線治療	3,510

臨床検査技術科

平成 20 年度目標ならびに活動報告

1. 検査技術の向上を図り高度専門医療に寄与する
 - ・検査科全体勉強会、担当部署別勉強会の充実
 - ・学会、研修会への積極的な参加ならびに発表
 - ・自己研鑽の推進
2. 検査科における医療安全体制の強化
 - ・検査科リスクマネジメント委員会の充実
 - ・検査科精度管理委員会の充実
 - ・第三者評価受審の準備
3. 検査科経営の健全化を図る
 - ・効率的な要員運用を模索する
 - ・効率的な検査試薬、検査材料の使用を模索する
 - ・DPC 導入の準備

平成 20 年 5 月 1 日に統合移転し検査科も無事に始動することができました。開院直後は電子カルテや部門システムの不備が続出し、さらに新規導入機器の不慣れが相俟って、患者さんをはじめ職員の方々にも多大なるご迷惑をおかけしました。その後は、検査科全員が目標に向かって前進し、全体勉強会・部署別勉強会も予定どおり開催されました。旧病院時代より続いている遺伝子勉強会・英文抄読会も多くの方々が参加してくれました。また、学会や院外の研修会・研究会にも平成 19 年度を上回る参加が見られました。学会・研究会等の発表は 11 題、研究論文も学会誌に 3 編が掲載されました。中でも 1 編が **Japanese Journal of Infectious Diseases** に英文論文として掲載されたことは特筆すべきことだと思っています。

検査科の医療安全体制の強化についても、病院機能評価受審準備の一環として検査科医療安全委員会や検査科精度管理委員会の見直しが進められました。また、新たに業務改善委員会を立ち上げ、検査科の諸問題を解決すべく業務改善を試みてきました。

まだまだ整備途上ですが、高度・専門医療および救命救急・災害医療を提供する病院に診療共助部門の一部署として寄与できるよう努力していきたいと考えています。

区分／年度		平成 20 年 5 月 ～平成 21 年 3 月
部署別 検査 件数	輸血検査	26,500
	生化学検査	1,792,769
	免疫検査	195,552
	血液検査	360,380
	一般検査	157,158
	細菌検査	55,654
	病理検査	17,688
	生理検査	78,613
検査総件数		2,684,314
健診検査総件数		273,833
判断件数・検体加算件数		437,316
外部委託検査件数		63,847

臨床工学技術科

平成 20 年度は江南厚生病院開院に伴い、それまで各々の病院にて異なる業務に従事していた臨床工学技士が 1 つの科に集約され新たな体制となり、これまでとは異なるシステムの中、手探りのような状況で臨床工学部門の業務を構築していった 1 年であった。

愛北病院は血液透析業務中心、昭和病院は機器管理業務中心にて業務を行っていたが、江南厚生病院ではそれぞれの強みを活かしつつ、新たな業務に関しては共に力を併せて運用の構築・範囲の拡大等を行っていった。

●江南厚生病院における人員体制及び具体的な業務内容

【血液浄化治療係】・・・7 名（技師長代理（兼務）及び共助 1 名含む）

業務指針：透析センターで行われる血液浄化療法を始めとする各種血液浄化療法について、その専門的な知識・技術を用いて安全かつ効果的な治療を患者さんに提供する。

具体的な業務内容：開始業務（穿刺及び機械操作）・透析中業務（機械チェック、バイタル確認）・終了業務（抜針及び機械操作）・各種準備業務（資材・薬剤準備、プライミング、セッティング、透析液作製等）・トラブル時対処・治療条件の検討等臨床業務・機器使用者に対する教育業務・ME 機器保守点検管理業務・水質管理業務・透析以外の血液浄化療法業務

【呼吸循環治療係】・・・4 名（主任 1 名含む）

業務指針：手術室で用いられる生命維持管理装置を中心とした各種 ME 機器について、その専門的な知識・技術を用いて安全かつ効果的な治療を患者さんに提供する。また、集中治療室で用いられる生命維持管理装置を中心とした各種 ME 機器について、その専門的な知識・技術を用いて安全かつ効果的な治療を患者さんに提供する。

具体的な業務内容：手術室で使用する各種 ME 機器の保守点検管理・手術室設備に関する業務（無影灯、手術台・電気設備・医療ガス等）・人工呼吸療法関連業務・血液浄化療法関連業務・補助循環療法関連業務・ICU 内の各種 ME 機器の操作及び保守点検管理業務・トラブル時対処・治療条件の検討等臨床業務・機器使用者に対する教育業務

【ME 機器管理係】・・・2 名

業務指針：病院内で用いる ME 機器全般に関して安全・適切・効果的に用いられるよう留意し、ME 機器の専門職として病院スタッフ及び患者さんによりよい医療を提供する。

具体的な業務内容：中央化されている ME 機器の保守点検管理業務・部署配備されている ME 機器の保守点検管理業務・人工呼吸器関連業務（病棟巡回・回路交換等）・トラブル時対

処・機器使用者に対する教育業務・CE の院内広報としての役割・使用状況分析より効率的な運用計画を立ててコストの削減を行う。

《平成 20 年度実績》

血液浄化療法実績

◆血液透析（HD）（透析センターにおける）	18,407 件
◆血液透析（HD）（透析センター以外における）	13 件
◆持続的血液透析ろ過（CHDF）	52 件
◆単純血漿交換（PE）	15 件
◆二重ろ過血漿交換（DFPP）	6 件
◆血漿吸着療法（LDL-A）	30 件
（ビリルビン吸着）	2 件
◆直接血液吸着（エンドトキシン吸着）	18 件
（LCAP）	31 件
◆腹水濃縮（AHF）	52 件

特殊治療実績

◆経皮的循環補助（PCPS）	2 件
◆ラジオ波焼却治療（RFA）	15 件
◆末梢血幹細胞採取	16 件
◆骨髓濃縮処理	3 件

ME 機器管理業務実績

◆ME 機器貸し出し実績	
輸液ポンプ	4,194 件
シリンジポンプ	2,019 件
低圧持続吸引器	178 件
人工呼吸器（挿管用）	52 件(※)
（非挿管用）	39 件(※)
（(※) ICU における実績除く）	
◆ME 機器修理実績	467 件

リハビリテーション技術科

理学療法 (PT)

平成 20 年度は前年比で件数 93.8%、単位数が 98.3%と減少したのが、診療報酬は 143.3%と大幅に増加した。新病院開院時の前後で患者数が減少したことが件数・単位数のマイナス要因となったが、疾患別リハビリの脳血管疾患が施設基準(Ⅱ)から(Ⅰ)へと変更したことが診療報酬増収という結果になった。平成 20 年 5 月より新病院の移転に際し、旧愛北・昭和病院それぞれの理学療法士が一緒になった事で、15 名のスタッフ数となった。そのうち、回復期リハビリ病棟専従者が 2 名、訪問リハビリに従事する訪問看護ステーション専従者 1 名がそれぞれの組織の中で業務に加わるという体制となった。新病院ではリハビリが関わる領域として急性期や回復期のみならず維持期や緩和ケアまでの幅広い病状に対応することになり、こういったニーズに応えるためのシステム作りの一年であった。今後も新たな分野での知識・技術習得や多職種との連携強化に努めたい。

作業療法 (OT)

平成 20 年度の新患者の前年比は外来 119.8%、入院 162.7%と共に増加傾向であった。また、対象者の前年比は 150.3%、単位数の前年比は 123.9%、診療報酬の前年比は 131.9%であった。新病院開院の中、患者数減が予測されたがすべてにおいて伸び幅は小さいものの増加傾向を示した。平成 20 年度 5 月より 2 名増員し 6 名体制になった。そのうち、回復期リハビリテーション病棟専従者は 1 名である。今年度より回復期リハビリテーション病棟が設立され新規に介入する領域が増えたことにより急性期から回復期までと長期間の経過をたどることが可能となった。新病院開院 2 年目となる平成 21 年度は作業療法の役割の確立を図るため積極的に多職種と連携を深めていきたい。

言語聴覚療法 (ST)

平成 20 年度の新患者数は前年比 154.1%、診療報酬前年比は脳血管疾患リハビリテーション(Ⅰ)料で 393.4%との結果になった。患者数の増加、ST 数の増員、および施設基準ⅡからⅠの引き上げが今回の増収に繋がった。平成 20 年 5 月から ST3 名体制(正職員 2、準職員 1)となったが、1 名の産休育休取得のため 5 月から 12 月までは ST2 名体制で業務を行った。入院患者数の著しい増加のため、夏頃から 2008 年 12 月末日まで外来新患を一時休止にしなければならない事態になった。新病院移転に伴って ST 対象患者(入院)が増加した事で、冬場は毎日 24 単位の上限を超過する日が続いた。特に摂食嚥下リハビリテーションはニーズが高く、今後も多職種間のチームアプローチを地道に進めていく所存である。他にも ST ミーティングの実施、口腔ケア・摂食嚥下リハチームが主体となった勉強会および看護師による摂食機能療法算定システム構築などを行ってきた。今後もリハビリテーション科一丸となって各病棟・他部門との連携を強化していきたい。

作業療法 学術活動

<学会発表>

- 1) 江端梨紗：頸髄症疾患における上肢機能と日常生活の関係
東海北陸作業療法学会 2008.11.9
- 2) 三島友美：頸髄損傷のリハビリテーション 東海北陸作業療法学会 2008.11.9
- 3) 高崎聡美：地域型運動教室を維持するための運動動機からの検討
東海北陸作業療法学会 2008.11.9
- 4) 吉田慎一：損傷部位と臨床症状－narrative review－
東海北陸作業療法学会：2008.11.9
- 5) 北村彰浩：当院における回復期リハビリテーション病棟の現状と役割
全国回復期リハビリテーション病棟連絡協議会 2009.2.15

<書評>

- 1) 足立由香：発達障害をもつ子どもと成人 家族のためのADL 愛知作業療法 第17巻

<研修会講師>

- 1) 北村彰浩：ICFについて 作業療法について
江南短期大学社会福祉学科2年講義.2008.12(4コマ)
- 2) 吉田慎一：日本作業療法士協会 生涯教育講座 愛知県新人教育プログラム
『事例検討方法論』 講師

<勉強会発表>

- 1) 北村彰浩：行為障害のリハビリテーション ニューロリハビリテーション研究会
2008.5.17
- 2) 江端梨紗：行為障害のリハビリテーション ニューロリハビリテーション研究会
2008.5.17
- 3) 吉田慎一：半側空間無視のリハビリテーション ニューロリハビリテーション研究会
2008.7.19
- 4) 北村彰浩：半側空間無視のリハビリテーション ニューロリハビリテーション研究会
2008.7.19
- 5) 三島友美：注意障害のリハビリテーション ニューロリハビリテーション研究会
2008.9.6
- 6) 足立由香：注意障害のリハビリテーション ニューロリハビリテーション研究会
2008.9.6
- 7) 江端梨紗：前頭葉関連症状のリハビリテーション
ニューロリハビリテーション研究会 2008.10.4
- 8) 高崎聡美：前頭葉関連症状のリハビリテーション
ニューロリハビリテーション研究会 2008.10.4
- 9) 吉田慎一：半側空間無視～参照枠による脳活動の違い～
- 10) 北村彰浩：FIMについて 江南厚生病院看護師 2009.5
- 11) 足立由香：作業療法とは 江南厚生病院 4東病棟勉強会 2008.11.26

<勉強会・研修会等主催>

- 1) OT勉強会：週1回開催 当院OTが参加

<勉強会・研修会等参加>

- 1) リハビリテーション研究会 動作分析セミナー, 2008. 8. 16~2008. 8. 19
- 2) 回復期リハビリテーション病棟連絡協議会 第13回研究大会 in 大阪,
2009. 2. 14~2009. 2. 15
- 3) 愛知厚生連リハビリテーション会相互啓発会: 年3回参加
- 4) ニューロリハビリテーション研究会: 年6回参加 など

<実習生指導>

なし

言語聴覚療法 学術活動

<論文発表>

別ページ参照。

<研修会講師>

- 1) 松岡真由、中西恭子：嚥下リハビリテーションと食事介助について.江南厚生病院新人看護師研修会,2008.4.14.
- 2) 中西恭子：摂食嚥下リハビリテーションとは.江南厚生病院口腔ケア摂食嚥下リハチーム院内勉強会,2008.10.20
- 3) 中西恭子：誤嚥性肺炎の予防について.江南厚生病院 7 西病棟看護師研修会,2008.10.21
- 4) 中西恭子：高齢者と嚥下障害について.江南厚生病院 4 東病棟看護師研修会,2008.11.26
- 5) 中西恭子：摂食機能療法算定に向けて.江南厚生病院口腔ケア摂食嚥下リハチーム院内勉強会,2008.12.1
- 6) 中西恭子：嚥下障害とリハビリテーション.厚生連療養病棟研修会.2008.12.23
- 7) 中西恭子：口腔ケア・嚥下リハビリテーションについて.江南短期大学社会福祉学科 2 年講義.2009. 1～2 (3 コマ)

<勉強会発表>

- 1) 中西恭子：FIM について－認知項目－.昭和病院 OT 室勉強会, 2008.4.25.
- 2) 中西恭子：吃音 2 症例を経験して.尾張北西部言語障害研究会,2008.7.19
- 3) 中西恭子：注意障害のリハビリテーション－ニューロリハビリテーション研究会,2008.9.6

<勉強会・研修会等主催>

- 1) 尾張北西部言語障害研究会：毎月 1 回、第 3 土曜日開催
愛知県内 ST・ことばの教室教諭・ろう学校教諭などが会員。現在会員数 50 名程度。
- 2) ST 勉強会：月 2～4 回開催。当院 ST が参加。

<勉強会・研修会等参加>

- 1) 愛知県介護支援専門員実務研修 名古屋、2008. 4. 21～22、5. 14～15、2009. 3. 16
- 2) 脳卒中後遺症者へのボバースアプローチインフォメーションコース 大阪、2008. 9. 6～7
- 3) 日本言語聴覚士協会第 1 回認定言語聴覚士（摂食・嚥下領域）研修 東京、8. 23～24、10. 11～12、12. 13～14
- 4) 第 2 回国立病院言語聴覚士会特別講演会 高次脳機能障害最前線～失読および発達性読み書き障害を中心に～ 名古屋、2008. 8. 30
- 5) 日本 LD 学会 特別支援教育士養成セミナー 大阪、2008. 12. 26
- 6) 第 14 回 日本摂食嚥下リハビリテーション学会
学術大会・ポストコンgresセミナー 千葉、2008. 9. 13～15
- 7) 子どものためのあいち AAC 研究所発達講座 言語・コミュニケーションの障害と発達支援～LC（言語コミュニケーション）スケールを用いて～ 名古屋、2009.3.15
- 8) 藤田 ADL 講習会 豊明、2008.5.24
- 9) 第 3 回愛知言語聴覚士会学術大会 名古屋、2008. 5. 25

10) 愛知厚生連リハビリテーション会相互啓発会：年3回参加。 など

<実習生指導>

1) 愛知淑徳大学見学実習

理学療法業績

平成20年5月～平成21年3月

		外来	入院	合計
脳血管疾患等リハ	患者数	1,071	17,933	19,004
	単位数	1,203	20,442	21,645
運動器リハ	患者数	982	14,055	15,037
	単位数	1,052	16,892	17,944
呼吸器リハ	患者数	24	246	270
	単位数	14	232	246
心大血管疾患リハ	患者数	0	0	0
	単位数	0	0	0
早期リハビリ加算		504	11,993	12,497
退院前訪問指導		0	8	8
退院時リハ指導		20	547	567
訪問リハビリ	患者数	0	0	0
	単位数	0	0	0
リハビリテーション総合計画評価料		32	820	852
消炎・鎮痛処置		1	0	1
摂食機能療法		0	0	0
算定外		160	1,289	1,449
件数合計		2,130	33,609	35,739
単位数合計		2,269	37,566	39,835

診療報酬点数	494,680	8,488,120	8,982,800
--------	---------	-----------	-----------

	外来	入院	合計
整形外科	1,141	13,875	15,016
脳外科	91	3,330	3,421
内科	404	9,372	9,776
精神科	0	0	0
神経内科	0	0	0
呼吸器内科	0	0	0
消化器科	0	0	0
循環器科	0	0	0
小児科	50	124	174
外科	76	877	953
呼吸器外科	0	0	0
心臓血管外科	0	0	0
皮膚科	0	151	151
泌尿器科	0	181	181
産婦人科	0	163	163
眼科	0		0
耳鼻咽喉科	228	3,154	3,382
放射線科	0	0	0
歯科口腔外科	0	0	0
麻酔科	0	0	0
緩和ケア	0	264	264
救急	0	188	188
透析	0	0	0
合計	1,990	31,679	33,669

作業療法業績

平成20年5月～平成21年3月

		外来	入院	合計
脳血管疾患等リハ	患者数	1,121	7,947	9,068
	単位数	1,594	10,122	11,716
運動器リハ	患者数	2,040	2,796	4,836
	単位数	3,215	3,009	6,224
呼吸器リハ	患者数	0	0	0
	単位数	0	0	0
早期リハビリ加算		344	0	344
退院前訪問リハ指導		0	0	0
退院時リハ指導		1	17	18
在宅訪問リハ指導管理		0	1	1
リハビリテーション総合計画評価料		113	13	126
算定外		37	483	520
件数合計		3,275	10,774	14,049
単位数合計		4,809	13,131	17,940

診療報酬点数	965,660	2,899,500	3,865,160
--------	---------	-----------	-----------

	外来	入院	合計
整形外科	2,122	3,739	5,861
脳外科	109	2,496	2,605
内科	328	2,818	3,146
精神科	0	0	0
神経内科	0	0	0
呼吸器内科	0	0	0
消化器科	0	0	0
循環器科	0	0	0
小児科	98	21	119
外科	32	77	109
呼吸器外科	0	0	0
心臓血管外科	0	0	0
皮膚科	0	0	0
泌尿器科	0	21	21
産婦人科	0	0	0
眼科	0	0	0
耳鼻咽喉科	340	1,424	1,764
放射線科	0	0	0
歯科口腔外科	0	0	0
麻酔科	0	0	0
緩和ケア	0	4	4
救急	0	84	84
透析	0	0	0
合計	3,029	10,684	13,713

言語聴覚療法業績

平成20年5月～平成21年3月

		外来	入院	合計
脳血管疾患等リハ	患者数	1,754	5,438	7,192
	単位数	3,071	5,646	8,717
集団コミュニケーション療法	患者数	0	0	0
	単位数	0	0	0
早期リハビリ加算		187	2,458	2,645
摂食機能療法		0	0	0
心理検査1(80)		0	0	0
心理検査2(280)		0	0	0
心理検査3(450)		0	0	0
リハビリテーション総合計画評価料		11	0	11
算定外		13	282	295
件数合計		1,952	7,896	9,848
単位数合計		3,071	5,646	8,717

診療報酬点数	2,131,145
--------	-----------

	外来	入院	合計
整形外科	443	120	563
脳外科	155	1,474	1,629
内科	392	1,723	2,115
精神科	0	0	0
神経内科	0	0	0
呼吸器内科	0	0	0
消化器科	0	0	0
循環器科	0	0	0
小児科	272	30	302
外科	29	27	56
呼吸器外科	0	0	0
心臓血管外科	0	0	0
皮膚科	0	0	0
泌尿器科	0	28	28
産婦人科	0	0	0
眼科	0	0	0
耳鼻咽喉科	446	1,959	2,405
放射線科	0	0	0
歯科口腔外科	0	0	0
麻酔科	0	0	0
緩和ケア	0	0	0
救急	0	68	68
透析	0	0	0
合計	1,737	5,429	7,166

栄 養 科

栄養科の目標

「患者さん中心の医療」を念頭におき、患者さんに喜ばれる質の良い食事の提供に努める。

1. 基本的な衛生管理を徹底する。
2. 食品衛生および防災管理の徹底。
3. 糖尿病教室・NST（栄養サポートチーム）などチーム医療へ積極的に参画する。
4. 栄養指導、患者栄養管理の充実。
5. 教育訓練を通し栄養科の一員として適正な資質を保持し、ミスの予防に努める。
6. 栄養科業務体制の充実を図る。

平成 20 年度活動報告

新病院での栄養科の役割として、患者さんの食事満足を得るためのフードサービスと患者さんの栄養管理を行うクリニカルサービスの両立を掲げた。その実践のため、栄養科をフードサービスを行う給食管理課とクリニカルサービスを行う栄養指導課の2つの組織体制とした。給食管理課では、食事の質向上、選択メニューの開始、年間行事食の献立作成、えん下食段階化、出産お祝い膳、小児ランチメニュー、食事摂取率の低い患者さんや低栄養状態の患者さんに対する個別対応食 etc の取り組みを行った。栄養指導課では、入院・外来栄養指導の充実、入院患者栄養管理計画書の作成および病棟訪問、糖尿病集団指導（糖尿病セミナー・糖尿病食事会）の開催、NST（栄養サポートチーム）活動への参画 etc の取り組みを行った。また、栄養科内に栄養科運営小委員会、リスクマネジメント小委員会、衛生管理小委員会、施設設備管理小委員会を設け、栄養科の業務計画を図り、質の向上、ミスの削減、衛生管理の向上に取り組んだ。日頃の栄養管理に関する研究報告とし、学会および研究会での発表や論文投稿を行なった。

新病院開院後 1 年が過ぎ、ようやく栄養科業務が順調に流れるようになり、体制も確立されてきました。これからも栄養科の目標である「患者さんに喜ばれる食事の提供」が実践できるように栄養科全員が協力して業務に取り組んでいきたいと思えます。

年間食種別給食延食数

年度	区分	常食	軟食	流動食	特別食		合計
					加算	非加算	
20年度	延食数	118,477	73,185	1,423	106,485	125,716	425,286
	構成比	27.9%	17.2%	0.3%	25.0%	29.6%	100%

常食一人一日当たり栄養摂取量

	エネルギー (kcal)	蛋白質 (g)	脂質 (g)	糖質 (g)
20年度	1956	75.3	59.1	280.7

栄養指導件数

H20.5		H20.6		H20.7		H20.8		H20.9		H20.10	
入院	外来	入院	外来	入院	外来	入院	外来	入院	外来	入院	外来
16	26	38	46	58	69	20	67	41	68	50	94
計 42 件		計 84 件		計 127 件		計 87 件		計 109 件		計 144 件	
H20.11		H20.12		H21.1		H21.2		H21.3		合計	
入院	外来	入院	外来	入院	外来	入院	外来	入院	外来	入院	外来
64	103	42	98	32	72	45	81	46	85	452	809
計 167 件		計 140 件		計 104 件		計 126 件		計 131 件		計 1,261 件	

集団栄養指導

区分	20年度
糖尿病教室食事会	51名
母親教室	50名
合計	101名

栄養管理実施加算

	H20.5	H20.6	H20.7	H20.8
加算延日数	1,020	7,348	10,129	12,932
	H20.9	H20.10	H20.11	H20.12
加算延日数	10,919	12,760	13,966	16,203
	H21.1	H21.2	H21.3	合計
加算延日数	15,494	15,643	17,344	133,758

診療情報管理室

診療情報管理室はカルテをはじめとする診療情報の価値と重要性を念頭に置き、円滑に管理し、また必要な情報を速やかに提供することを目的とし業務に取り組んでいます。

1. 目的

- (1) 医療の質向上のため。
- (2) 臨床、教育、研究に役立たせるため。
- (3) 病院経営上の計画、評価に対する統計資料に役立たせるため。
- (4) 訴訟の際の法的資料として。
- (5) 診療録の紛失、散逸、破損を防ぐため。
- (6) 個人情報保護のため。
- (7) 第三者的支払い者及び法的機関に対する内容照会のため。

2. 業務内容

- (1) 診療録の点検
 - ① 退院サマリーの受領及び点検
 - ② 未記載サマリー督促業務
 - ③ 質的・量的点検
- (2) 疾病分類
 - ① 病歴システム登録
- (3) 電子カルテ上で管理されない診療記録等の保管・管理
 - ① 個人ファイル点検
 - ② 各同意書の点検及び文書管理システム登録、診断書、証明書等ファイリング
 - ③ 旧病院カルテ・レントゲンフィルムの管理
- (4) 利用（閲覧・貸出）の援助
 - ① 入・出庫業務
 - ② アリバイ管理
 - ③ 督促業務
- (5) 統計業務
 - ① 各種統計表作成

(6) 診療情報等開示に関する業務

- ① 開示受付
- ② 提供資料準備
- ③ 閲覧時の同席、情報の提供
- ④ 開示記録作成・保管

(7) がん登録

- ① がん患者見つけ出し
- ② がん登録システム入力
- ③ 悪性新生物患者届出票作成

○平成20年度目標

統合移転・病院機能評価受審に向けた情報管理の整備を重点に行う。

- ・旧両病院より移設した紙カルテ等の診療記録を適切に管理する。
- ・ICDコーディングの精度向上に取り組む。
- ・診療情報を活用した各種統計資料を作成する。
- ・電子カルテの入力状況等の登録内容を監査する手順を確立する。
- ・DPC導入に向け、医事課と連携して基礎データの調査、収集、分析に取り組む。

○実施項目

1. 診療記録の適切な管理

旧両病院の現存する紙カルテを両病院合冊、TDF（ターミナルデジタルファイリング）化し、3箇所のカルテ庫へ移設し、永久保存とした。またその他、紙媒体情報等も診療情報管理室へ移設を行い必要時に参照できるよう整理・一括管理をして紙カルテの出庫についてはカルテ貸出管理システムを構築し、迅速な取り出しと収納ならびにアライ管理を行っている。また出庫中のカルテTDファイルに貸出場所等の情報が記載された貸出票入れておく貸出中フォルダーを作成。誰にでもカルテの行く先が分かるようなアライ管理とした。

2. 退院時サマリー作成率の向上

退院時サマリ－の作成については診療報酬上からも100%の作成率が必須であり、病名コーディングの精度、統計資料においてもサマリ－の作成率が影響することから、未作成分については定期的に督促状の提出等を行い、退院サマリ－作成率の向上に向けて取り組みを行ってきた。医師の協力により、3月末において作成率100%を達成した。今後も高い作成率の維持が望まれる。

3. 診療録の監査

適正な記録がされているか、情報開示や裁判に耐えうる記録かどうかを監査する「医師診療録監査チーム」を発足。監査ポイントを重点に診療録記載の監査を行った。監査結果は電子カルテの掲示板へ掲載・医局会等へ報告しフィードバックした。今後も情報の整備に努めていく。

4. 情報開示

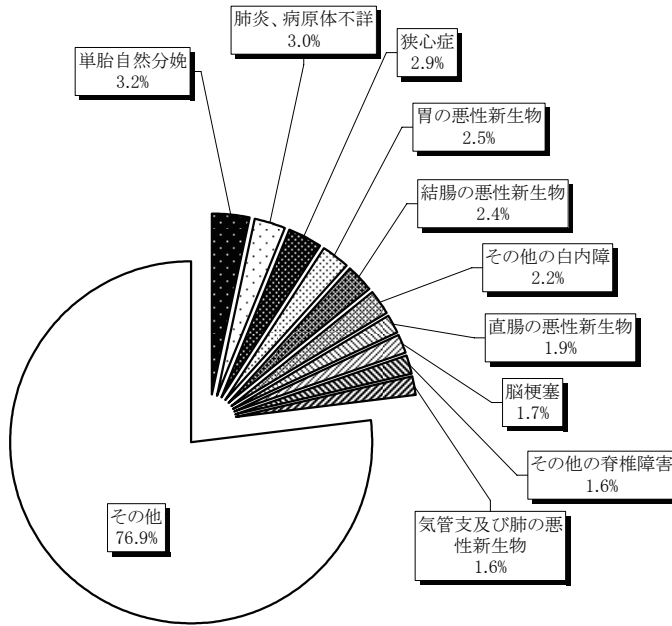
江南厚生病院開示用要領を作成。要領に従い、開院から3月末までの実施件数は患者さんからの請求が20件、その他公的機関からの請求が13件の計33件の開示を行った。

5. 統計資料

医事システムより診療報酬データの取り込みを疾患別平均在院期間、平均医療費、上位医療費別疾患数の統計資料を作成。

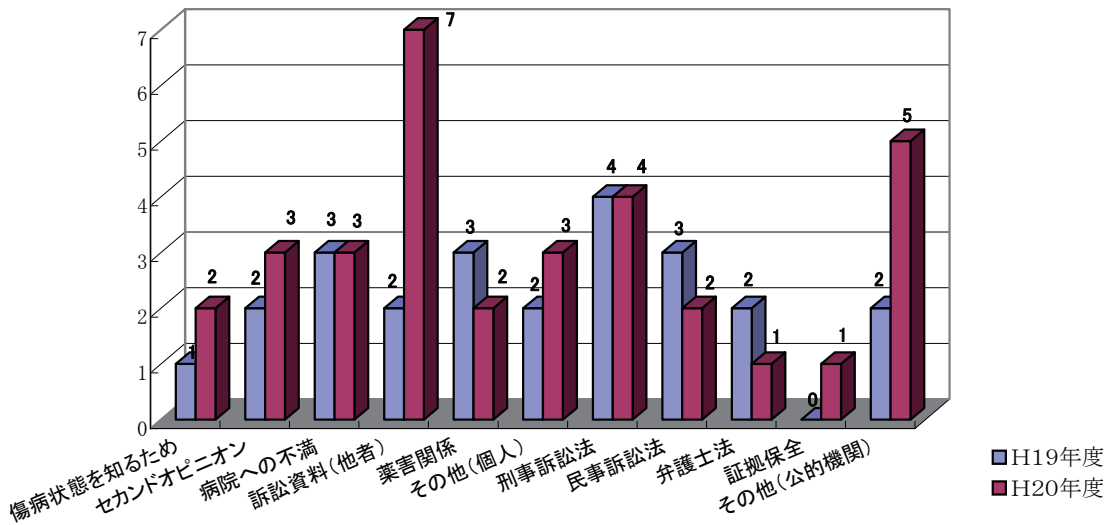
今後はDPCに向け医事課と連携し、診断群分類番号のコーディング整備を行っていく。

平成20年度上位疾患(分類)名

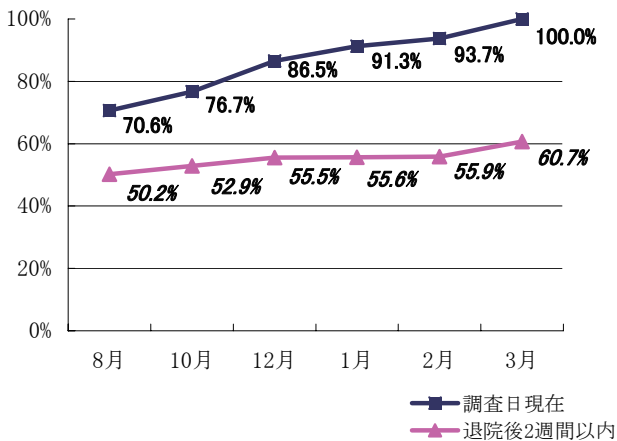


順位	分類名	件数	構成比(%)	平均在院日数	平均年齢
1	単胎自然分娩	343	3.2	7.9	30.3
2	肺炎、病原体不詳	318	3.0	16.7	45.4
3	狭心症	314	2.9	4.2	70.0
4	胃の悪性新生物	262	2.5	21.9	67.7
5	結腸の悪性新生物	257	2.4	16.2	67.7
6	その他の白内障	238	2.2	6.1	71.0
7	直腸の悪性新生物	198	1.9	14.8	66.7
8	脳梗塞	185	1.7	36.2	72.7
9	その他の脊椎障害	174	1.6	20.5	68.6
10	気管支及び肺の悪性新生物	173	1.6	31.8	69.8

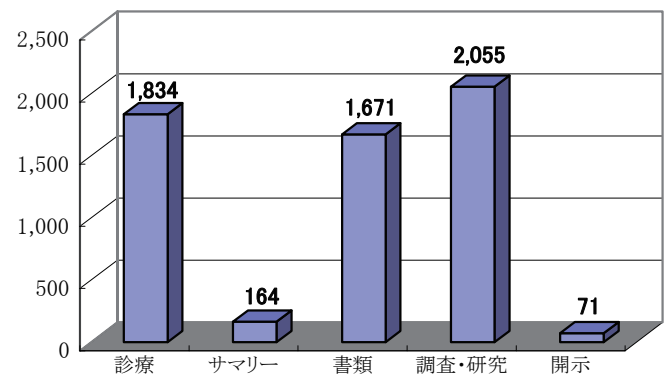
情報開示数



退院時サマリー作成率



使用理由別カルテ出庫件数



* 診療情報管理室取扱分 (H20.5月~H21.3月)

医療安全対策室

<平成 20 年度目標>

1. 新病院への移転を安全に行なう
2. 職員が新病院のインシデント報告システムを活用することができる
3. 医療事故防止対策
 - 1) 新病院の各部署・部門のマニュアルを作成できる
 - 2) 5 S 運動の推進
4. 第三者評価受審への取り組み準備を行なう

<実践>

1. 新病院への移転を安全に行なう

5 月 1 日全職員協力のもと、昭和病院からの移送患者 157 人（新生児 6 人含む）、他外泊 26 人、愛北病院からの移送患者 53 人、他外泊 2 人、計 移送患者 210 人、他外泊 79 人を安全に移送することができた。
2. 職員が新病院のインシデント報告システムを活用することができる

5 月 7 日にインシデントレポートシステム（Safeproducer）導入について説明を行った。6 月の第 1 回医療安全委員会でインシデントシステムの操作説明を行い、操作マニュアルは電子カルテ端末から見られるようにした。

7 月 1 日から本稼働し、7 月 210 件、8 月 319 件と報告システムに入力することができるようになった。報告件数が少ない部門では、インシデントレポートシステムが職員に周知できていないことがわかったため、部門のリスクマネージャと研修会などの周知活動を考えている。
3. 医療事故防止対策
 - 1) 新病院の各部署・部門のマニュアルを作成できる

5 月 1 日開院の医療安全マニュアルを見直し、医療安全マニュアル、経管栄養マニュアル、ドレーン・チューブトラブルマニュアル、身体抑制マニュアル、転倒・転落に関するマニュアル、無断離院マニュアルの 6 項目に分類し作成できた。
 - 2) 5 S 運動の推進

整理 (Seiri)、整頓 (Seiton)、清掃 (Seisou)、清潔 (Seiketsu) しつけ (Sitsuke) は、強化月間などの周知活動ができなかった。しかし、スタッフ通路防火扉前の環境整備には、写真をとり周知したことは整理・整頓の推進ができたと考える。
4. 第三者評価受審への取り組み準備を行なう
 - 1) 事故発生時の対応マニュアルを作成できる

事故発生時の対応マニュアルをフローシートで作成、それに沿ってシミュレーションを 1 回実施することができた。
 - 2) 医療安全・院内感染対策・医療品管理対策・個人情報保護等の専門委員会と連携し、決められたことが周知できる体制の整備ができる

説明と同意を行う体制と方針について医療安全マニュアルに明文化し、周知できるよう整備した。しかし、判断能力やコミュニケーション能力障害のある方の対応については、より具体的な内容を明文化する必要があると今後の課題と考えている。

各部門ヒヤリ・ハット発生件数

	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
診療部	2	1	0	2	0	0	1	2	1	0	1	10
薬剤科	0	2	3	6	2	3	12	13	8	10	7	66
放射線科	0	0	12	4	6	1	4	6	9	15	10	67
検査科	7	4	10	17	8	3	8	7	6	4	8	82
理学療法科	0	0	4	0	7	4	3	2	3	2	3	28
栄養科	3	2	7	6	12	6	7	12	10	7	5	77
看護部	78	133	156	270	266	241	197	223	204	218	229	2,215
事務部	0	1	1	0	1	1	1	2	0	1	2	10
地域医療福祉連携室	3	6	8	5	8	15	12	12	14	10	14	107
臨床工学技術科	0	0	2	2	4	2	0	2	2	1	0	15
合計	93	149	203	312	314	276	245	281	257	268	279	2,677

各部門アクシデント発生件数

	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
診療部	1	1	0	0	1	0	2	3	0	1	0	9
薬剤科	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
放射線科	0	0	1	0	1	0	0	1	0	1	0	4
検査科	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
理学療法科	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
栄養科	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
看護部	0	6	6	7	4	4	4	7	6	4	0	48
事務部	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
地域医療福祉連携室	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
臨床工学技術科	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
合計	1	7	7	7	6	4	6	11	6	6	0	61

ヒヤリ・ハット、アクシデント発生要因の内容別件数

	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
確認不足	44	80	120	145	134	121	126	130	117	138	123	1,278
観察不足	6	27	42	49	56	48	39	50	35	41	52	445
判断誤り	8	18	30	33	29	37	29	31	46	39	353	653
知識不足	5	11	13	18	10	14	8	15	11	17	15	137
心理的状況	32	16	10	2	9	9	3	3	3	6	2	95
連携不足	7	16	9	17	11	11	13	11	15	14	15	139
勤務状況	11	21	13	11	8	12	17	18	11	14	22	158
合計	113	189	237	275	257	252	235	258	238	269	582	2,905

※「発生要因」は複数回答である。

褥瘡対策

<平成20年度 目標>

1. 電子カルテシステムの作成と運用上の問題点の把握・改善
2. 統合後の褥瘡対策上の問題点の把握

<実践>

1. 電子カルテシステムの作成と運用上の問題点の把握・改善
電子カルテ用プログラムとテンプレート機能を融合させた褥瘡患者管理ツールにより、チームラウンドや記録時間などの短縮化につながった。
カルテ上の不具合はその都度修正している。
2. 統合後の褥瘡対策上の問題点の把握
以下の褥瘡発生状況により、①リスクアセスメントに誤りがあり、褥瘡ケアの開始の遅れ、②体圧分散マットレスの誤った使用方法による持続的な圧迫による褥瘡発生、③ポジショニング不足による身体のずれによる褥瘡発生が挙げられた。

1) 褥瘡発生件数・褥瘡個数・褥瘡発生率*

褥瘡発生者数と発生場所

度数		発生場所			合計
		院内	在宅	他院	
褥瘡発生者数	患者数	146	100	51	297
	再掲	57	48	19	124
合計		203	148	70	421

年間褥瘡発生率 1.3 (1.7) % : 146 (203) / (11,469+157) ×100

褥瘡発生率* = 院内褥瘡発生者数 (発生個数) / (期間中の新規入院患者数 + 初日の在院患者数) ×100

2) 発生場所・病期

病期と発生場所

度数		発生場所			合計
		院内	在宅	他院	
病期	がん治療期	3	3	1	7
	がん終末期	52	31	4	87
	安定期	9	1	1	11
	回復期	9	5	1	15
	活動低下慢性期	33	31	37	101
	急性期	43	71	22	136
	検査期	1	4	1	6
	周術期	25	1	2	28
	術中	3	0	0	3
	特殊治療期	3	0	0	3
	離床期	22	1	1	24
合計		203	148	70	421

3. 発生場所・褥瘡深度

褥瘡深度と発生場所

度数		発生場所			合計
		院内	在宅	他院	
褥瘡深度	stage I (発赤)	51	18	7	76
	stage II (びらん・水疱・硬結)	113	43	26	182
	stage III (潰瘍)	30	56	22	108
	stage IV (骨や筋・腱に達する創 壊死組織により深度判定不能)	0	15	10	25
	合計	203	148	70	421

4. 褥瘡転帰

転帰と発生場所

度数		発生場所			合計
		院内	在宅	他院	
転帰	悪化	1	0	0	1
	継続	0	1	1	2
	軽快	30	53	27	110
	治癒	141	79	34	254
	不変	31	15	8	54
	合計	203	148	70	421

軽快・不変・悪化のうち死亡退院 126件、転院 56件であった。

5. 院内褥瘡の代表的な発生誘因

1) 看護側の因子

リスクアセスメントの誤り 96件、ポジショニング不足 86件、高機能マットレス変更時期の遅れ・圧調整不足など予防用品の使用法 81件、ギャッチアップ・座位時のずれ 69件、長時間のギャッチアップ・座位 50件、DVT予防用品による圧迫 36件であった。

2) 患者側の因子

浮腫による皮膚の脆弱化 79件、著しい病的骨突出 51件、Alb2.5g/dl以下の著しい低栄養 45件であった。

<平成21年度 課題>

1) リスクアセスメントの強化

2) 体圧分散マットレス使用方法とポジショニングに関する知識と技術の習得

3) ポジショニング用品の整備 など

看護部

平成 20 年度看護部目標

1. 新病院への移転を安全に行う。
2. 新しいシステムの周知徹底を図るとともに改善を重ね、スムーズな運用を目指す。
3. 新しい組織で互いに尊重・協力し合い、良いチーム作りを行う。

	具体的対応策	実施結果
目標 1	引っ越し患者の搬送方法の選定・移転病棟の決定を 1 か月前より準備、1 週間前から毎日退院患者入院患者情報を共有し、移転前日まで調整する	<p><u>5/1 7:30</u> より両病院から引っ越し開始</p> <p>*搬送患者 210 名 (新生児 6 名を含む) 愛北病院 53 名・昭和病院 157 名 (新生児 6 名を含む)</p> <p>2 名の患者が当日状態変化あり搬送方法を単送から高機能へ変更、移転病棟を 1 名回復期病棟から一般病棟へ変更する</p> <p>*外泊患者 28 名：愛北病院 2 名・昭和病院 26 名</p> <p><u>5/5 外来プレオープン</u></p> <p>システム・物流に不具合はあったが大きなトラブルなく診察終了</p> <p>新患 203 名・再来 5 名・入院 11 名・注射 41 名 処置 62 名・外来手術 1 名</p> <p><u>5/7 外来診療開始</u></p> <p>待ち時間最大 3 時間、診療後の案内表受付窓口の混雑、検査システムの不具合、トイレコールが PHS に連動しないなどの問題発生あり 新患 748 名・再来 46 名</p> <p>※引っ越しは大きな問題なく終えることができた。外来診療、入院診療において開院後いろいろな問題が明らかになったが、看護管理室にて 9 時と 16 時の 2 度、各看護単位の責任者が集合し、問題点とその対策について共有した。「患者の安全・安楽」を最優先に対応することで大きな事故や過誤を予防することができた。</p>
目標 2	① 5 月は 9 時.16 時 2 回看護管理室に看護師長が集まり、周知事項の確認とその日に発生した問題とその対策の共有を行う	<p>移転後、毎日のように想定外のいろいろな事態が発生したが、①②の場を設けることで問題解決し、共有することができた。</p> <p>しかし、現場での実践内容については部署での差が生じているようである。副看護部長に担当部署を決め、現場の確認と指導を依頼したが、副看護部長の関わり方もまちまちで、情報交換も不十分であった。</p>

	<p>② 6月以降は9時に集合、上記内容とベットコントロールを行う</p> <p>③ 各委員会で決定したマニュアル・基準手順をスタッフに周知する</p>	<p>次年度は、看護管理者の教育・目標管理の強化（固定チーム活動の強化）・副看護部長の連携強化を図っていく必要がある。</p> <p>また、開院当初は『昭和病院のマニュアル』をそのまま活用することで、愛北病院からの職員が戸惑ったり、「新病院には合わない」などの問題があった。徐々に各委員会で見直されたが、周知徹底されていない事柄も多い。次年度は病院機能評価受審もあるためマニュアルの実施状況を把握し、スタッフが徹底して実践できるように計画的に取り組む必要がある。</p>
<p>目標3</p>	<p>① 看護師長が「良いチーム」作りのリーダーシップを発揮する。そのサポートを担当副看護部長が行う。</p> <p>② 看護要員確保 職員アンケート・子育て支援制度の推奨・有休消化の推奨 臨時職員の昇給・個人面接など</p>	<p>平成20年1月に新病院の人員配置を発表。移転前から部署単位で「顔合わせ会」「リーダー会」などを企画し、新しいチーム作りを積極的に行った。開院後はそれぞれの部署でいろいろな問題に直面したが、看護師長を中心に一つ一つ問題解決していくことができた。しかし、「良いチーム」の評価としては部署によって差が生じている。移転1年目にして一部主任看護師の異動も行ったが、次年度には看護師長の異動も検討していく必要があると考える。また、副看護部長の担当部署も変更し、看護管理室での調整能力を高め、各部署に効果的な支援ができるようにしていきたい。</p> <p>採用者：中途採用者 54名（19）・平成21年新採用者 70名（7） 合計 124名（26）</p> <p>退職者：中途退職 26名（4）・年度末退職 28名（5） 合計 54名（9） *（ ）は臨時職員数</p> <p>離職率 H20.4.1：正職 550名；8.1%、全職 620名；8.7%</p> <p>※新しいシステム、新しい人間関係の中で50人もの中途採用者を受け入れながら、離職率を10%以内にできたことは評価できる。スタッフ一人一人の努力と他職種の人たちの協力に感謝したい。</p> <p>次年度は、より働きやすい職場環境にするために①夜勤体制の検討②傾斜配置の検討③応援体制の見直しを行っていく。</p>

平成20年度 院内の看護研究発表

部署	発表タイトル	発表者
皮膚・排泄ケア認定看護師	粉状皮膚保護剤の誤った使用方法により ストーマ周囲皮膚障害が発生した1例	馬場真子
4 西（療養病棟）	乳癌術後患者の退院後の日常生活動作に対する調査	堀田喜子
外 来	内分泌療法を行っている前立腺がん患者の意識調査 ～通院継続支援に向けて～	浅野順司
手 術 室	手術を受ける患者の露出に対する思い	中村智美
看 護 研 究 委 員 会	臨床看護師の看護研究に対する認識とサポートの実態	今枝加与
が ん 看 護 専 門 看 護 師	がん終末期患者に褥瘡に対する意味づけとケアへの期待	祖父江正代
透 析 セ ン タ ー	外来維持血液透析患者の不安と環境変化の関連性	石田伸也
透 析 セ ン タ ー	炭酸泉浴の足浴時間とその効果の検証 ～足浴時間の違いによる炭酸泉浴の効果について～	後藤淳子
3 南（循環器センター）	転勤者が抱えるストレス因子の実態調査	山田さおり
5 東（こども医療センター）	看護師の職場環境変化によるストレス反応の変化 ～新病院統合前後における～	長友紀美子

平成20年度 院内教育研修結果

ビギナー研修

月	日	曜日	時間	研修名	参加人数
4	2	水	8:30~17:00	全体オリエンテーション	104
	3	木		リスクマネジメント	104
	4	金		感染予防	104
	7	月		看護部の組織と方針・看護方式・倫理綱領 院内の構造・オリエンテーリング	104
	8	火		看護診断	104
	9	水		看護記録・看護必要度	104
	10	木		教育活動・危険な薬品・防災	104
	11	金		食事介助・嚥下・ME機器の取り扱い	104
	14	月		フィジカルアセスメント	104
	15	火		電子カルテ操作・救急蘇生	104
	16	水		電子カルテ操作・救急蘇生	104
	17	木		注射・採血・点滴など	104
	18	金		オムツ交換・口腔ケア・経管栄養など	104
	21	月		体位交換・清潔操作・供給システム	104
	22	火		消化器操作訓練	104
	23	水		褥瘡	104
	25	金			
5	23	金	15:00~16:00	メンタルヘルス研修	98
10	28	火	15:00~17:00	看護過程	35
11	4	火	15:00~17:00	看護過程	32

レベル I 研修

月	日	曜日	時間	研修名	参加人数
7	10	木	15:00~17:00	メンバーシップ	31
	31	木	15:00~17:00	メンバーシップ	31
8	14	木	15:00~17:00	コミュニケーション	31
	26	火	15:00~17:00	コミュニケーション	32
9	11	木	15:00~17:00	看護過程	32
	25	木	15:00~17:00	看護過程	31
10	9	木	15:00~17:00	看護倫理	31
	25	木	15:00~17:00	看護倫理	32
11	6	木	15:00~17:00	医療安全	32
12	4	木	15:00~17:00	医療安全	30
1	29	木	15:00~17:00	看護過程事例発表会	30
2	5	木	15:00~17:00	看護過程事例発表会	30

レベル II 研修

月	日	曜日	時間	研修名	参加人数
7	25	金	15:00~17:00	医療安全	33
8	8	金	15:00~17:00	医療安全	38
	22	金	15:00~17:00	医療安全	36
9	18	木	15:00~17:00	現任教育	27
10	16	木	15:00~17:00	現任教育	28
	30	木	15:00~17:00	リーダーシップ	26
11	13	木	15:00~17:00	現任教育	31
	20	木	15:00~17:00	リーダーシップ	25
	28	金	14:00~17:00	アサーション	28
12	11	木	15:00~17:00	現任教育	27
	18	木	15:00~17:00	リーダーシップ	25
	26	金	14:00~17:00	アサーション	25
1	23	金	15:00~17:00	リーダーシップ	23
	30	金	14:00~17:00	アサーション	25
2	19	木	14:00~17:00	アサーション	26

プリセプター研修

月	日	曜日	時間	研修名	参加人数
7	3	木	15:00～17:00	第2回プリセプター研修	42
12	2	火	15:00～17:00	第3回プリセプター研修	34
2	26	木	15:00～17:00	新プリセプター研修	42

固定チームナーシング研修

月	日	曜日	時間	研修名	参加人数
9	12	金	15:00～17:00	チームリーダー研修	20
	26	金	15:00～17:00	チームリーダー研修	21
10	10	金	15:00～17:00	サブリーダー研修	20
	24	金	15:00～17:00	サブリーダー研修	22
H21.3	1	日	9:30～16:30	固定チームナーシングとは、目標設定	145

看護研究(レベルⅡ・Ⅲ対象)

月	日	曜日	時間	研修名	参加人数
8	5	火	14:00～17:00	看護研究(藤井) ①-①	66
	25	月	14:00～17:00	看護研究(藤井) ①-②	66
9	2	火	14:00～17:00	看護研究(箕浦) 統計	17
	16	火	14:00～17:00	看護研究(藤井) ②-①	64
	30	火	14:00～17:00	看護研究(藤井) ②-②	64

平成20年度 クリニカルリーダー外教育研修一覧

日時	研修名	内容	参加人数
5月23日	新採用者メンタルヘルス	ストレスに負けないところと体を作ろう	96
2月24日	シミュレーション研修 ～マイケル人形を使用して～	夜勤時、リーダーシップが発揮で指導ができる	44
2月26日	第1回 プリセプター研修 H21年度 新プリセプター	プリセプターシップの役割を通し、新人看護師とともに成長できる。 日々の経験や学びを基に、自己のキャリアアップについて考えることができる。	39
3月3日	多重課題研修 ビギナー対象	現場で実際に発生する多重な問題状況についての事例検討を通じて、問題解決能力を身につける。	34
3月9日			34
3月24日	ビギナーBLSフォローアップ	BLSができるかスキルチェックを行う	32
3月25日			28

平成20年度 院内BLS講習会日程及び参加者数結果

施設スタッフ部署	9月22日	10月6日	10月20日	11月4日	11月25日	12月22日	12月15日	1月19日	1月27日	2月2日	2月16日	2月23日	3月2日	3月16日	3月23日	
3西	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
3西	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
3南	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
3南																
外来	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
外来	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
5東	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
7東								○								
8東	○	○				○			○						○	
受講部署	9月22日	10月6日	10月20日	11月4日	11月25日	12月22日	12月15日	1月19日	1月27日	2月2日	2月16日	2月23日	3月2日	3月16日	3月23日	合計
3西	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	1	0	2
3南	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2
4西	1	1	1	2	1	2	1	2	1	1	2	2	1	2	0	20
4東	1	1	0	1	1	1	1	1	1	1	1	1	0	1	1	13
5西	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	2	1	1	0	1	15
5東	1	1	1	1	1	1	1	1	1	0	0	1	1	0	0	11
6西	1	1	1	1	1	1	1	2	1	2	1	1	1	1	1	17
6南	1	2	2	1	2	1	1	1	2	1	1	1	2	1	3	22
6東	1	1	2	0	0	1	2	1	1	0	1	1	1	1	1	14
7西	1	1	0	1	1	2	1	2	1	2	2	1	2	1	1	19
7南	1	1	1	0	0	1	1	2	2	1	2	1	1	2	1	17
7東	1	1	1	1	1	1	0	0	1	1	0	0	1	1	1	11
8西	0	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	0	2	2	1	15
8東	1	1	1	1	1	0	1	0	0	1	0	1	0	1	2	11
外来	4	4	4	4	4	4	4	3	4	4	4	4	3	4	4	58
HD	2	1	1	1	1	2	1	1	1	1	1	1	1	1	2	18
手術室	1	1	1	1	1	1	1	0	1	0	1	1	1	0	0	11
訪問看護	1	0	0	1	0	1	0	0	1	0	0	0	0	0	0	4
健管	0	0	0	0	0	1	1	0	0	0	1	0	0	0	0	3
その他	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	1
合計	20	20	18	18	17	22	20	19	20	17	20	17	18	19	19	284

平成 20 年度 院内研修会

研修名		内 容	参加人数
1	緩和ケア考える会	第 1 回 緩和ケアとは何か？ 概念を学び今後の活動について考える	38
		第 2 回 看護における倫理とは ～セッションを考える～	38
		第 3 回 家族看護を考える エンゼルケア グリーフケア	52
		第 4 回 疼痛緩和について考える 痛みの種類・アセスメント 介入の仕方について	42
		第 5 回 せん妄のケアについて	29
		第 6 回 アロマセラピーについて ～緩和ケアにおける代替療法としての活用～	24
		第 7 回 スピリチュアルペインを考える	22
2	CE 主催による研修会	除細動取り扱い説明会	299
		人工呼吸器の取り扱い説明会	294
3	主任会主催による研修会	第 1 回 パート研修 ME 機器の取り扱い	44
		第 2 回 パート研修 フィジカルアセスメント	40
		第 1 回 フィジカルアセスメント研修会	51
		第 2 回 フィジカルアセスメント研修会	62
		第 1 回 メンタルヘルス研修会	44
		第 2 回 メンタルヘルス研修会	47
4	NST 勉強会	第 1 回 NST 説明会 NST とは？①	44
		第 2 回 NST 説明会 NST とは？②	47
5	摂食・嚥下勉強会	第 1 回 口腔ケアについて	48
		第 2 回 嚥下摂食障害とリハビリテーションの実際	41
		第 3 回 高次脳機能障害について	40
		第 4 回 摂食機能療法算定に向けて	39

平成 20 年度 院外研修参加者による伝達講習会

	研修名	テーマ・内容	参加人数
1	がん専門分野研修会	がん患者と家族の苦痛とケア	32
2	ファーストレベル	患者サービスの質評価について	32
3	セカンドレベル	CHANGE! 今こそ、力強い看護部に生まれ変わる時	25
4	臨地実習指導者研修会	指導者として学生の理解を深め、指導に活かすことができる	55
5	クリティカルケア	EBP とクリティカルケア	10
6	救急看護	災害時トリアージについて理解する	45
7	認知症高齢者看護	認知症高齢者の特徴とケアポイント	27

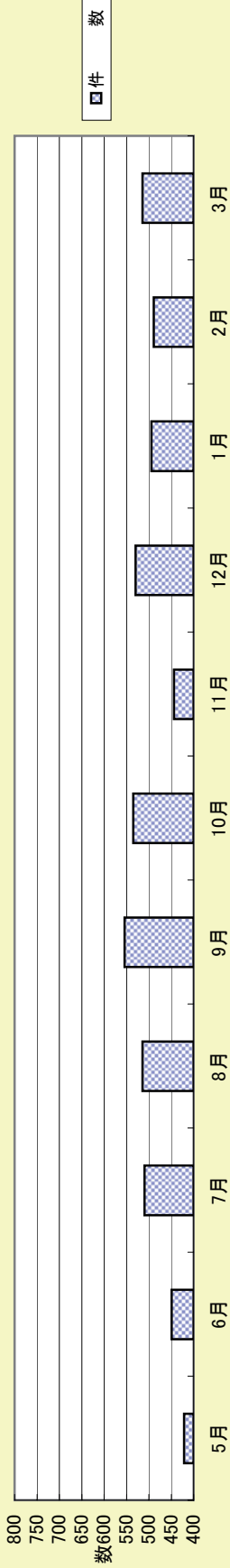
江南厚生訪問看護ステーション

当ステーションは、看護師8名、理学療法士2名の計10名で各家庭を訪問し、看護とリハビリを雄行なっています。また、利用者は医療保険による利用者が介護保険による利用者を上回っており、医療依存度が高く要介護度の高い利用者が多いことが特徴です。そのため状態の変化が激しく、医療・保健・福祉との密接な連携が重要であり、日々連携を深めるよう努めています。

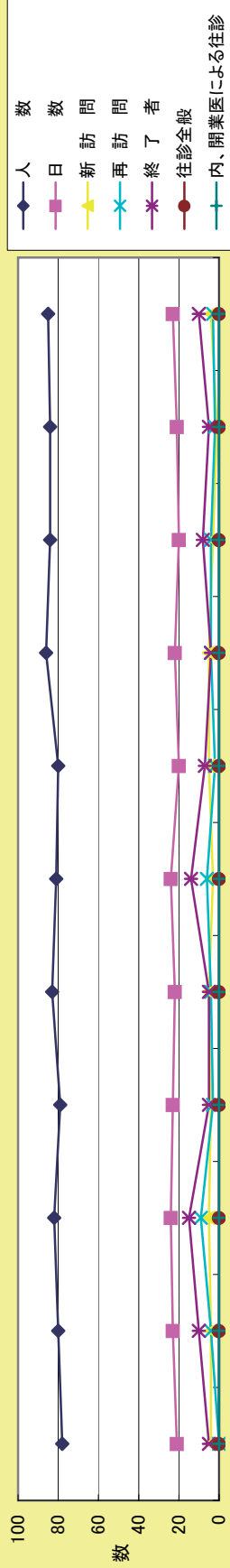
また、4校の看護学生・福祉課の高校生・尾北医師会の研修生・救急救命士の実習受け入れをしているため、1年中実習生が絶えることはありません。

H20年度訪問看護実施結果報告

訪問件数推移



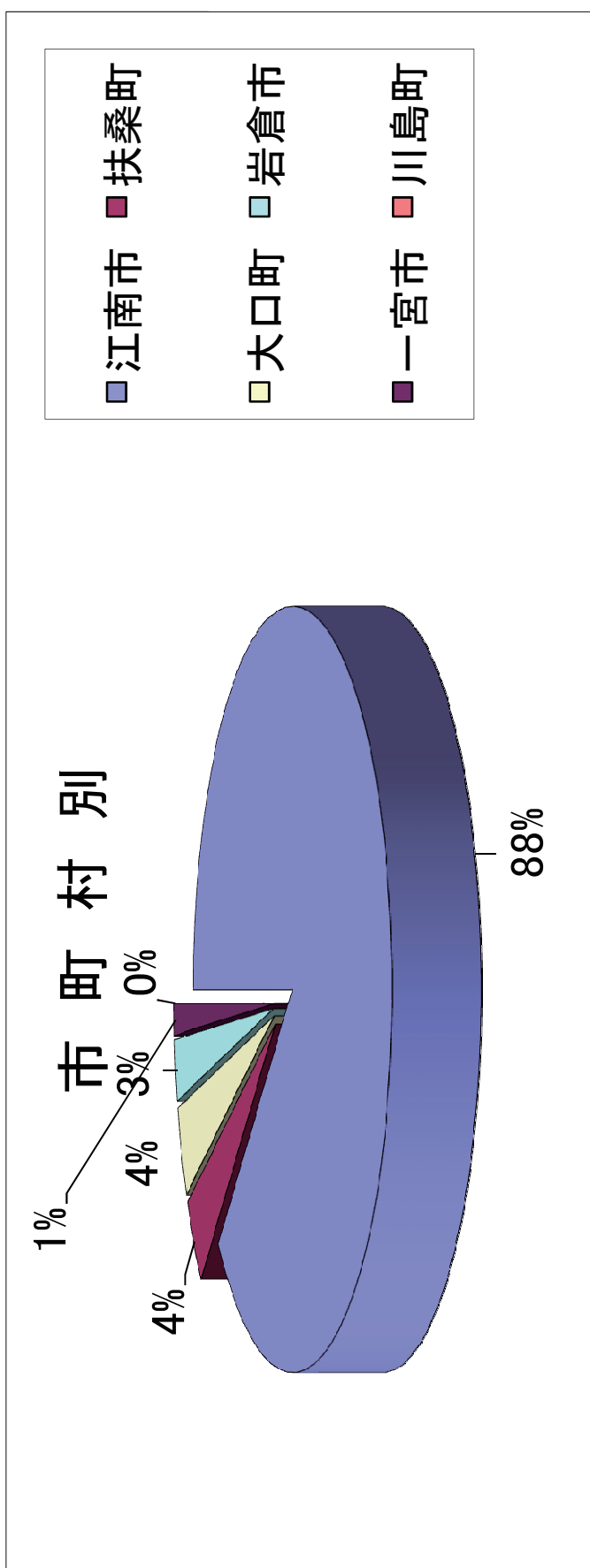
訪問利用状況推移



	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
人数	78	80	82	79	83	81	80	86	84	84	85	902
件数	421	449	510	514	554	535	444	530	494	489	514	5,454
日数	21	23	24	23	22	24	20	22	20	21	23	243
新訪問	4	4	5	4	5	3	5	5	3	1	4	43
再訪問	0	4	9	3	4	6	2	4	4	2	3	41
終了者	5	10	15	5	5	14	7	4	8	5	10	88
往診全般	21(145)	27(153)	30(182)	26(132)	27(155)	31(187)	25(125)	26(151)	24(166)	22(124)	25(112)	284(1,632)
内、開業医による往診	21(145)	27(153)	30(182)	26(132)	27(155)	31(187)	25(125)	26(151)	24(166)	22(124)	25(112)	284(1,632)
当院の主治医	39(209)	43(229)	43(274)	44(283)	46(367)	45(312)	46(270)	51(316)	54(328)	53(314)	49(279)	513(3,181)
当院以外の主治医	39(212)	38(220)	39(236)	35(231)	37(177)	36(223)	34(174)	35(241)	30(166)	31(175)	36(209)	390(2,264)

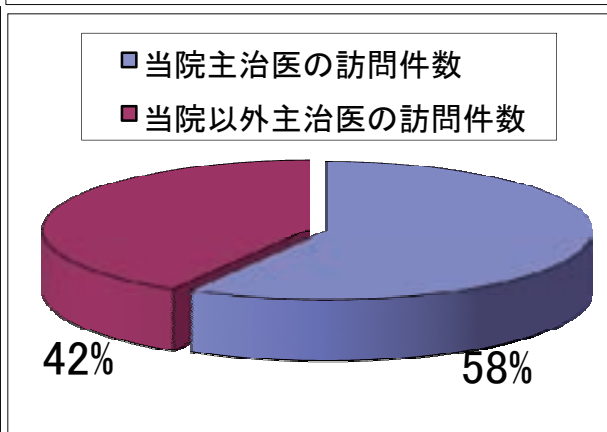
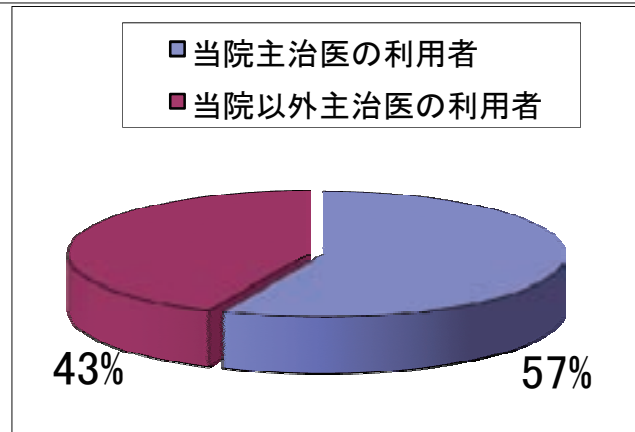
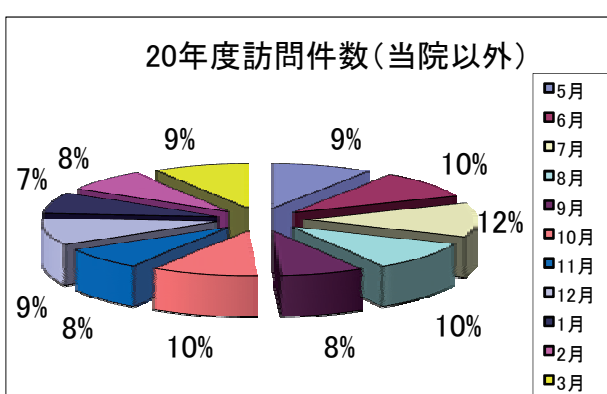
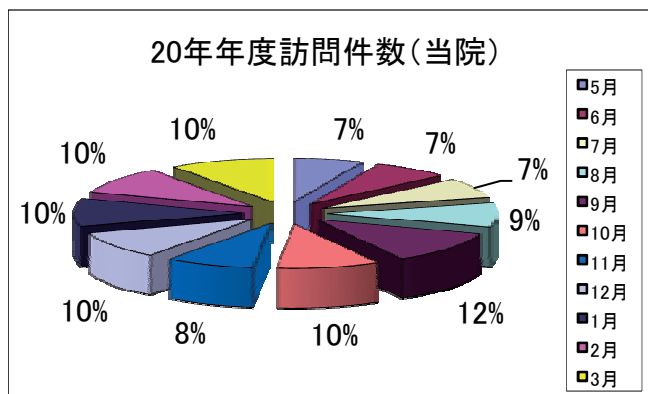
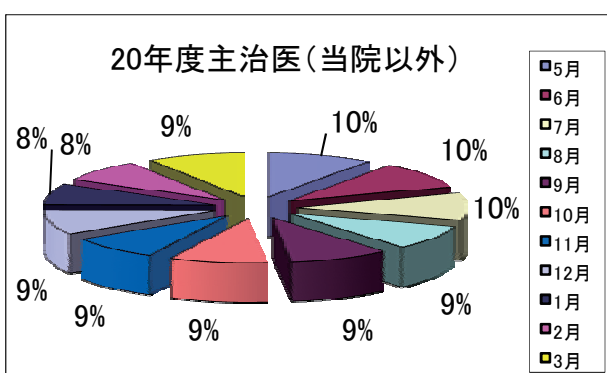
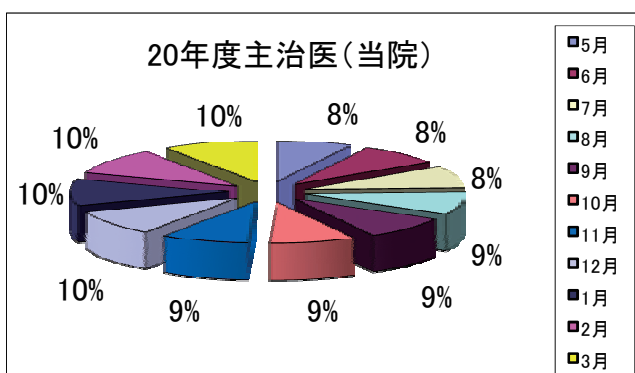
H20年度市町村別訪問利用者状況

	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
江南市	69	71	73	71	76	75	73	80	76	76	78	818
扶桑町	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	33
大口町	3	3	2	2	2	2	2	1	3	3	2	25
岩倉市	2	3	3	1	1	0	0	0	0	0	0	10
一宮市	1	1	1	2	1	1	1	1	1	1	1	12
川島町	0	0	0	0	0	0	1	1	1	1	1	5
合計	78	81	82	79	83	81	80	86	84	84	85	903



平成 20 年 度 主 治 医

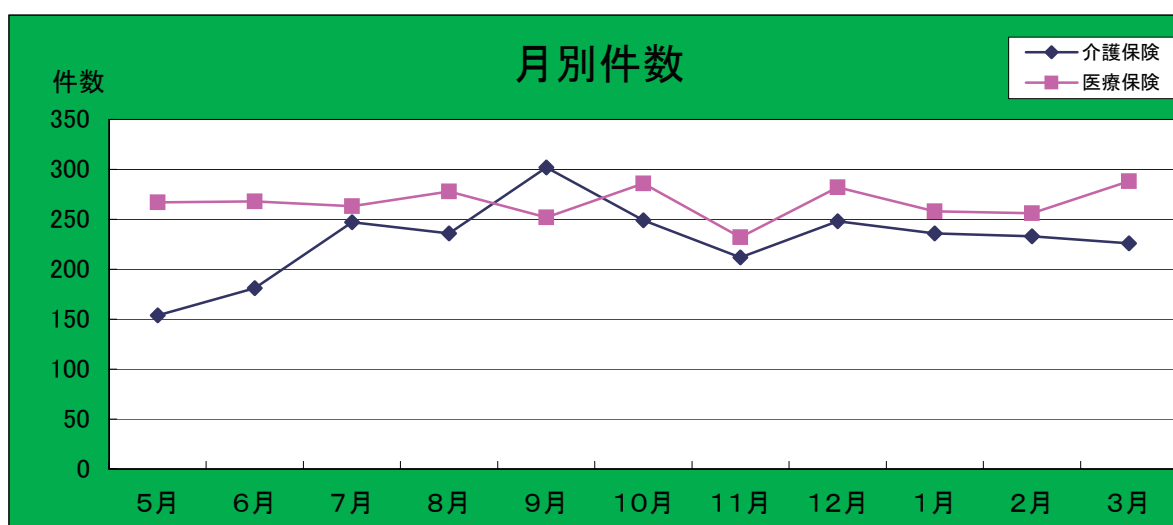
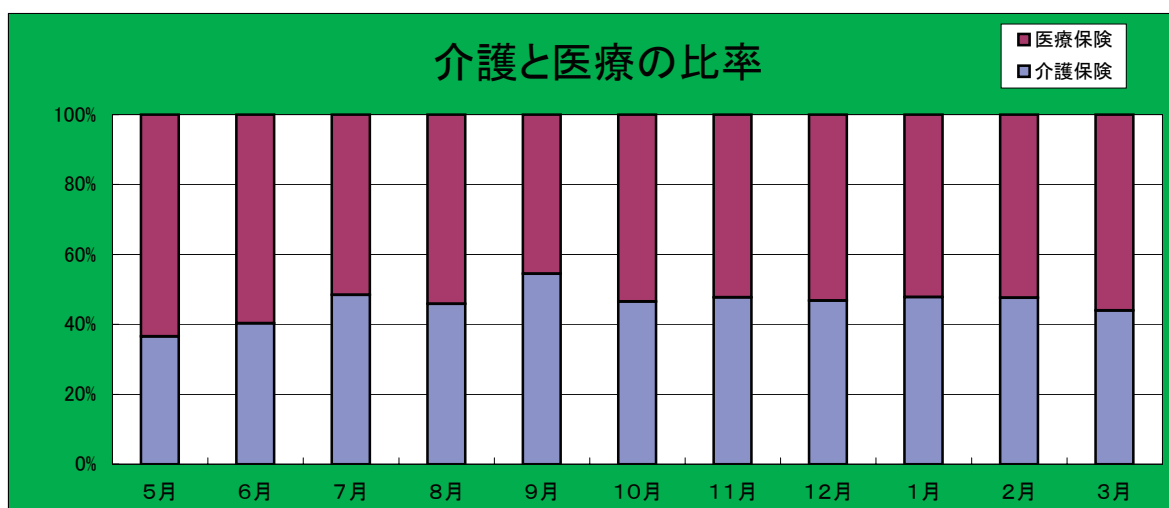
	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
当院主治医の利用者	39	43	43	44	46	45	46	51	54	53	49	513
当院以外主治医の利用者	39	38	39	35	37	36	34	35	30	31	36	390
合計	78	81	82	79	83	81	80	86	84	84	85	903
当院主治医の訪問件数	209	229	236	283	377	312	270	316	328	314	315	3,189
当院以外主治医の訪問件数	212	220	274	231	177	223	174	214	166	175	199	2,265
合計	421	449	510	79	554	535	444	530	494	489	514	5,454



H20年度介護保険・医療保険対象者の月別人数・件数

人数	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
介護保険	36	38	42	41	43	41	40	46	44	42	41	454
医療保険	42	43	40	38	40	40	40	40	40	42	44	449
合計	78	81	82	79	83	81	80	86	84	84	85	903

件数	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
介護保険	154	181	247	236	302	249	212	248	236	233	226	2,524
医療保険	267	268	263	278	252	286	232	282	258	256	288	2,930
合計	421	449	510	514	554	535	444	530	494	489	514	5,454

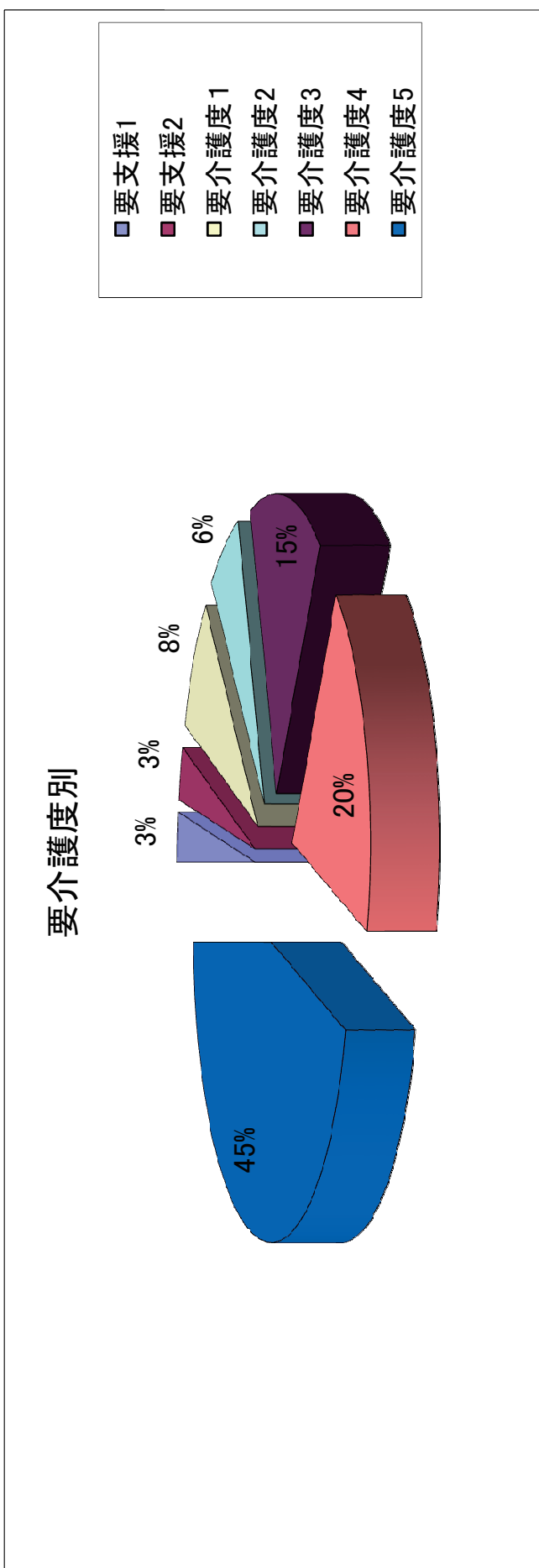


介護保険 訪問看護サービス内容(平成20年度)

サービス内容	訪問看護件数												合計	
	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月			
訪問看護A	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
介護予防訪問看護1	8	9	6	1	6	3	6	5	2	3	11	60		
訪問看護1	53	56	110	105	122	82	66	65	71	70	55	855		
訪問看護1(夜朝)	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	1		
訪問看護1(深夜)	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	1		
介護予防訪問看護2	0	0	1	2	1	0	2	4	2	4	0	16		
訪問看護2	71	90	105	100	126	136	114	146	133	122	121	1,264		
訪問看護2(夜朝)	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	6	7		
訪問看護2(深夜)	0	1	0	0	0	1	0	0	0	0	0	2		
介護予防訪問看護3	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0		
訪問看護3	5	10	4	7	17	3	3	5	7	12	15	88		
訪問看護3(夜間)	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0		
訪問看護3(深夜)	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0		
訪問看護71	0	0	0	2	3	0	0	0	0	0	0	5		
訪問看護72	17	15	20	18	27	24	20	23	21	22	18	225		
合計	154	181	247	236	302	249	212	248	236	233	226	2,524		
緊急時訪問看護加算	35	39	41	40	43	41	40	46	44	42	41	452		
特別管理加算	19	20	22	20	24	22	22	24	24	22	25	244		
ターミナルケア加算	0	0	0	0	1	2	0	2	0	0	0	5		

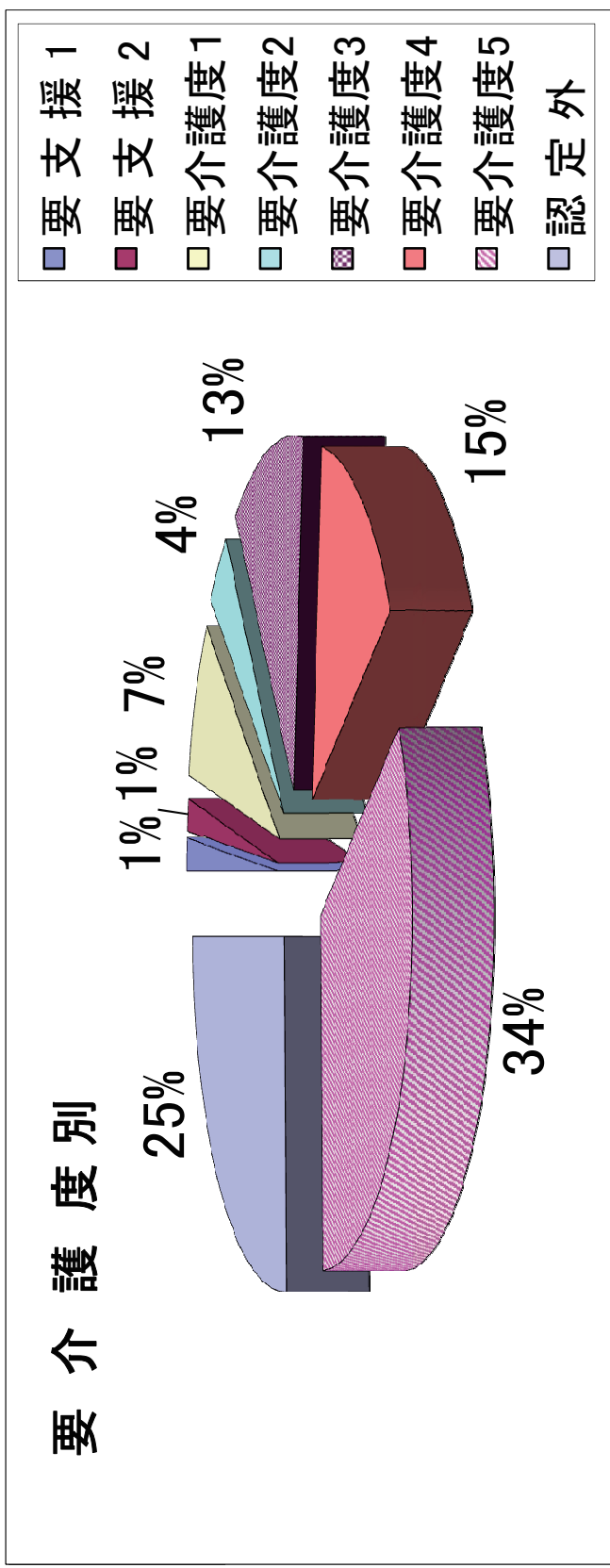
平成20年度 月別要介護度(介護保険)

介護度	人数												合計
	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	
要支援1	2	2	2	2	1	0	2	1	0	0	0	12	
要支援2	0	0	0	0	1	1	2	2	2	2	3	13	
要介護度1	2	3	2	2	2	2	3	5	5	5	4	35	
要介護度2	2	2	4	4	3	4	2	2	2	2	2	29	
要介護度3	5	6	7	6	6	7	6	8	7	5	5	68	
要介護度4	5	6	6	7	8	8	8	11	11	11	11	92	
要介護度5	21	19	21	20	22	19	17	17	17	17	16	206	
合計	36	38	42	41	43	41	40	46	44	42	41	454	



平成20年度月別要介護度(医療保険含む)

介護度	人数												合計
	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	
要支援1	2	2	2	2	1	0	2	1	0	0	1	13	
要支援2	0	0	0	0	1	1	2	2	2	2	3	13	
要介護度1	6	7	5	5	5	5	6	8	7	7	6	67	
要介護度2	1	2	4	4	3	6	3	3	3	3	2	34	
要介護度3	9	10	11	10	10	11	10	13	11	9	9	113	
要介護度4	10	10	10	12	11	11	11	14	14	14	14	131	
要介護度5	30	28	31	26	31	28	26	26	26	26	25	303	
認定外	20	22	19	20	21	19	20	19	21	23	25	229	
合計	78	81	82	79	83	81	80	86	84	84	85	903	



江南中部地域包括支援センター

はじめに

江南中部地域包括支援センターは江南市から委託された高齢者の総合相談窓口である。市内3箇所（介護老人保健施設フラワーコート江南・江南厚生病院・さとうデイサービスセンター）に設置されており、地区割がされている。当センターは今年度より、従来の担当地区である古知野中学校区に、江森・山尻町も加えて活動している。また、病院の統合によりスタッフも一新している。

活動報告

<目標>

1. 市民・ケアマネジャー・サービス事業者に地域包括支援センターを活用してもらえよう、周知活動を行う
2. 認知症に関するネットワーク作りに取り組む
3. 高齢者が自分らしい生活を実現していくために必要な社会資源の検討・その後の計画について、関係者と協議していく
4. 新南部地域包括支援センターへの協力を行う
5. 統合に伴って生じる変更点に関して、速やかに移行できる体制を整える

<評価>

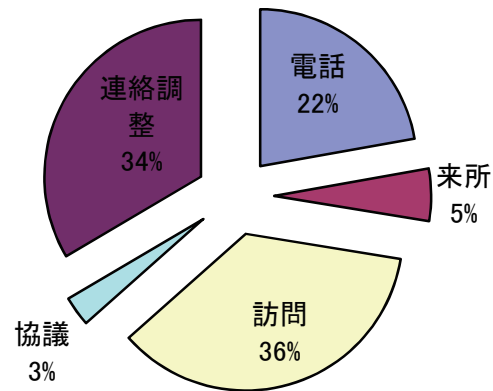
1. 60歳以上が集う「高齢者教室」や75歳以上が集う「敬老会」、民生委員の部会などで地域包括支援センターの活動紹介を行っている。高齢者のサロン等、講座の依頼があった場合は出かけていく。また、1月に江南市民文化会館大ホールで行われた講演会では、「江南市の認知症についての取り組み」の発表紹介を行い、効果的な周知活動ができた。
2. キャラバンメイトとして、認知症サポーターの養成講座を開始。市役所職員から一般市民まで、3月末までに14回開催し、321人の認知症サポーターが誕生した。また、認知症を介護する家族を対象にした家族介護教室を7回開催し、家族会設立準備に向け、当事者・関係者へ協力依頼を投げかけている。具体的なネットワークについては、来年度に構築していく予定。
3. 虚弱高齢者が身近に運動できる場についての社会資源マップ作りを行った。比較的元気な高齢者が対象の社会資源マップとなったが、今後介護予防関係機関と運用について協議していく。また、新たな社会資源の検討については、特定高齢者事業の動向を見守りながら必要時検討していく。
4. 統合により愛北病院からさとうデイサービスセンターに移設された南部地域包括支援センターのスタッフへのフォローと共に、各センターの業務統一を目的に「地域包括マニュアル」を作成した。
5. 利用者への説明・契約書の取り直し等、順次行うことができた。

実績報告

〈援助方法別延人数〉

	電話	来所	訪問	協議	連絡調整	合計
5月	58	15	126	2	95	296
6月	77	19	114	4	116	330
7月	79	21	115	5	118	338
8月	57	12	108	12	96	285
9月	78	23	117	14	112	344
10月	67	22	135	16	90	330
11月	55	16	96	11	84	262
12月	91	13	112	19	107	342
1月	63	13	99	8	129	312
2月	72	14	94	11	99	290
3月	49	16	107	6	101	279
合計	746	184	1,223	108	1,147	3,408

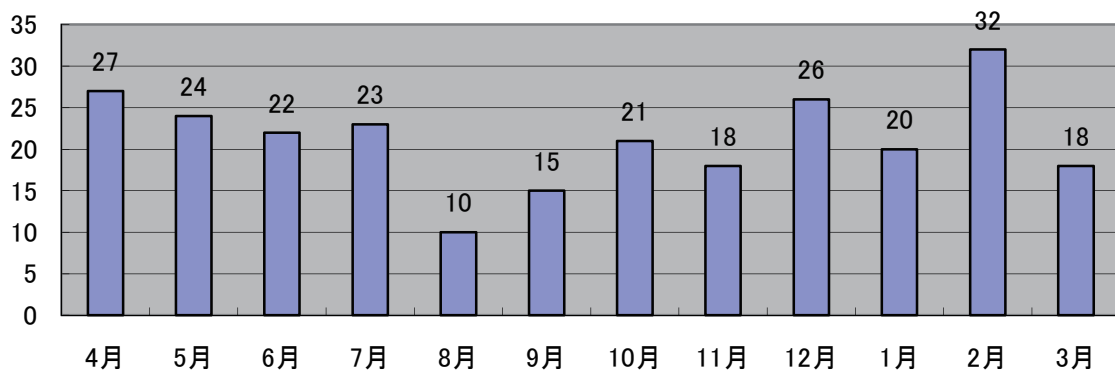
援助別割合



〈紹介経路別新規実人数〉

	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
本人	0	1	1	0	0	2	1	0	0	0	0	5
家族	3	3	3	1	6	3	2	3	1	3	2	30
地域住民	0	1	1	0	0	0	0	0	1	0	0	3
民生委員	1	0	0	0	0	0	0	0	1	0	1	3
医療機関	2	1	1	2	3	2	4	2	2	2	2	23
ケアマネジャー	2	1	2	0	1	1	0	3	3	0	1	14
サービス事業者	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
市役所	0	0	0	3	1	0	2	1	1	1	2	11
介護保険申請者名簿	1	1	1	3	1	1	0	0	3	2	0	13
介護予防認定者名簿	8	7	7	1	3	8	7	5	5	13	4	68
特定高齢者候補者名簿	0	0	0	0	0	3	2	12	1	11	5	34
その他	7	7	7	0	0	1	0	0	2	0	1	25
合計	24	22	23	10	15	21	18	26	20	32	18	229

新規ケース数



<援助内容>

包括的支援事業

1. 介護予防ケアマネジメント (延件数)

	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
対象者の把握	0	0	0	0	0	3	2	15	1	11	7	39
重要事項説明書	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
計画書作成	1	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	2
計画書交付	0	1	1	0	0	2	0	0	0	0	0	4
評価	2	0	0	0	2	2	0	1	0	0	1	8
その他	8	1	1	0	1	3	0	2	0	2	0	18
合計	11	2	2	0	3	11	2	18	1	13	8	71

2. 総合相談支援業務 (延件数)

	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
安否確認	32	28	28	20	30	37	28	52	36	38	54	383
介護保険利用	53	48	49	50	31	27	42	48	71	51	55	525
住宅改修	8	18	18	10	8	12	1	7	4	5	13	104
福祉用具	17	16	16	10	8	16	11	7	1	4	14	120
介護生活	29	18	19	21	25	49	46	42	44	19	21	333
医療保健	29	26	26	7	30	37	20	24	40	23	5	267
施設利用し	4	9	9	0	2	8	5	12	7	6	2	64
福祉サービス	9	5	5	6	14	15	10	17	4	7	5	97
その他	8	17	17	8	19	34	18	20	15	20	16	192
合計	189	185	187	132	167	235	181	229	222	173	185	2,085

3. 権利擁護業務 (延件数)

	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
虐待への対応	1	9	9	4	1	5	1	11	26	6	15	88
成年後見制度の利用	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	1
困難事例への対応	8	17	18	3	28	14	0	0	3	0	0	91
消費者被害への対応	0	0	0	0	0	0	0	1	2	0	1	4
合計	9	26	27	7	29	19	1	13	31	6	16	184

介護予防支援業務 (延件数)

	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
利用受付	14	14	14	1	5	7	4	2	5	10	5	81
契約手続き	23	13	13	1	5	5	6	2	3	12	4	87
委託手続き	7	2	2	0	3	4	2	0	1	4	3	28
介護予防プラン作成	9	17	17	12	15	16	13	16	16	13	13	157
介護予防プラン交付	19	18	18	24	24	15	10	17	10	13	13	181
サービス担当者会議	17	24	24	20	28	24	8	20	17	17	17	216
状況確認	52	57	61	63	93	70	73	99	76	60	52	756
サービス調整	25	36	36	59	52	36	51	55	35	43	41	469
モニタリング	17	6	7	15	9	12	8	10	8	3	10	105
介護予防プラン評価	17	12	12	21	14	7	19	13	12	10	6	143
その他	38	76	78	51	59	43	47	55	63	60	50	620
合計	238	275	282	267	307	239	241	289	246	245	214	2,843

その他業務

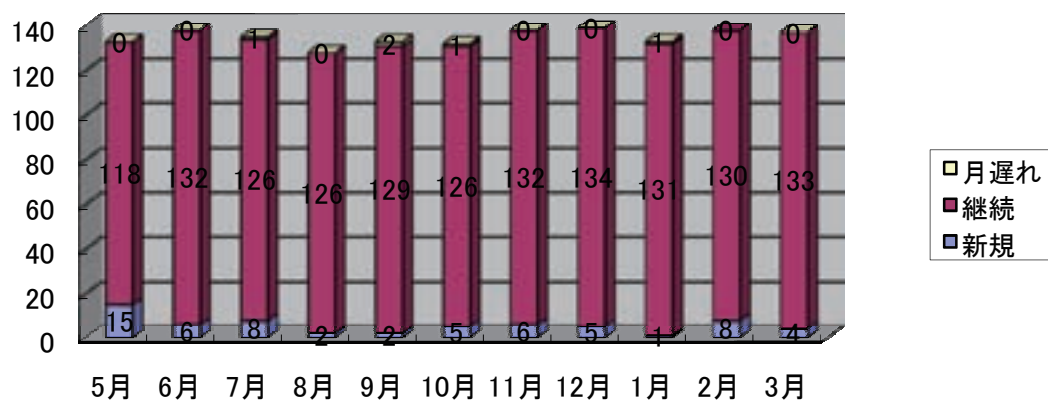
1. ケアマネジャー支援（実件数）

	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
相談受付票	0	0	3	2	1	1	0	4	2	0	1	14
巡回相談	0	0	0	0	0	0	0	0	12	0	0	12
合計	0	0	3	2	1	1	0	4	14	0	1	26

2. 給付管理数

	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
新規	15	6	8	2	2	5	6	5	1	8	4	62
継続	118	132	126	126	129	126	132	134	131	130	133	1417
月遅れ	0	0	1	0	2	1	0	0	1	0	0	5
合計	133	138	135	128	133	132	138	139	133	138	137	1,484

給付管理数



病 診 連 携 室

病診連携室は、紹介患者さんの診察予約・外部委託検査予約等を専門に、地域医療機関の窓口として、院内の各部署と連携をとりながら、病診連携を進めております。

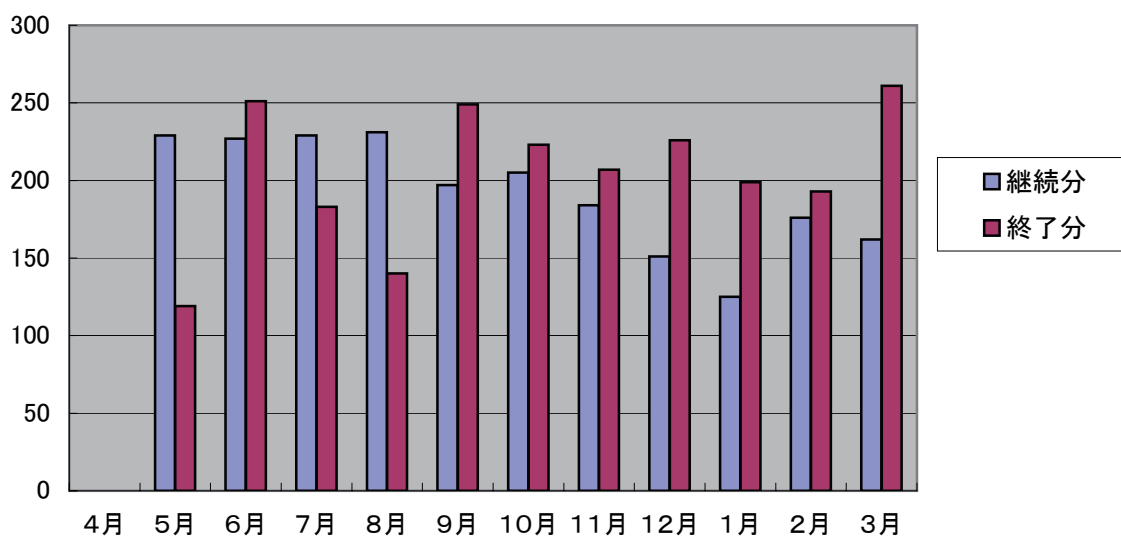
病診連携室専任職員は5名で携わり、地域の診療所や病院と密接な連携を持って、紹介患者さんの多様なニーズに迅速かつ適切な対応を心掛けております。

また、院内スタッフによる定期的病診連携委員会を今年も継続して行い、問題点、各医療機関からの問合せ・要望等を報告し、改善策を検討し今後役に立て、地域の皆様方に喜んで頂けるように病診連携室としての役割を果たしていきます。

H21年度の目標

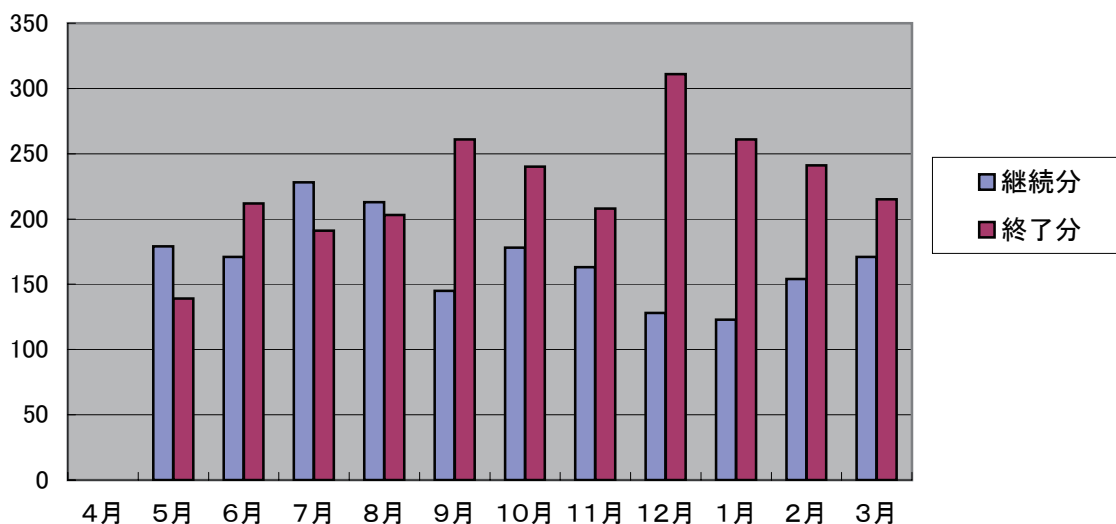
- 1・地域医療機関との円滑な連携を構築し、地域医療の充実と発展を図る。
- 2・病診連携運営協議会を開催する。
- 3・紹介率30%を目標とする。
- 4・登録医制度の確立。
- 5・地域医療福祉連携室内の連携を強化していく。

1. 医科・受診依頼患者数(連携室取扱)



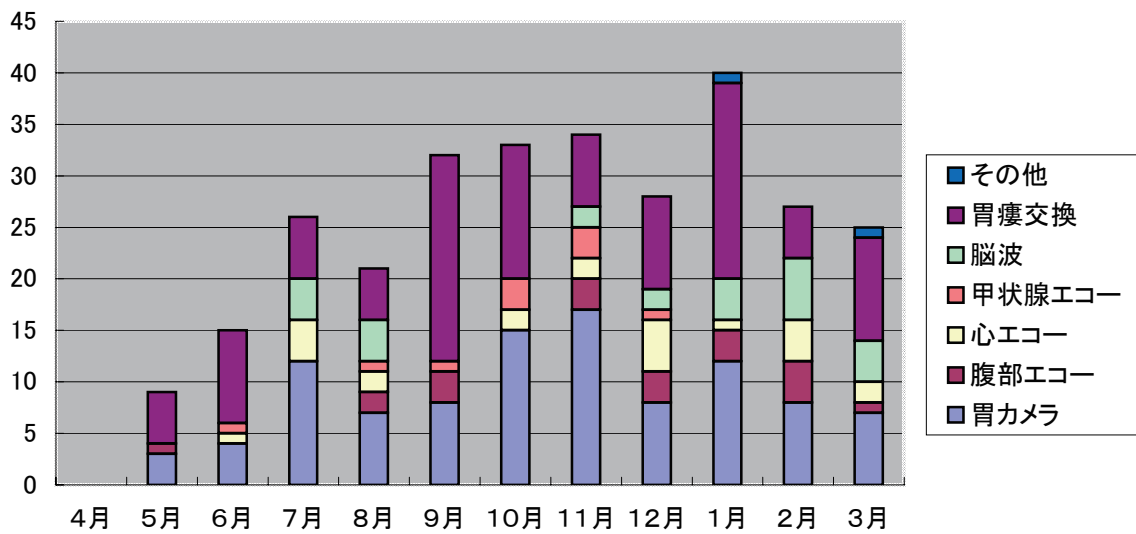
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計	平均
継続分	0	229	227	229	231	197	205	184	151	125	176	162	2,116	192.3
終了分	0	119	251	183	140	249	223	207	226	199	193	261	2,251	204.6
計	0	348	478	412	371	446	428	391	377	324	369	423	4,367	397.0

2. 医科・受診依頼患者数(直接来院)



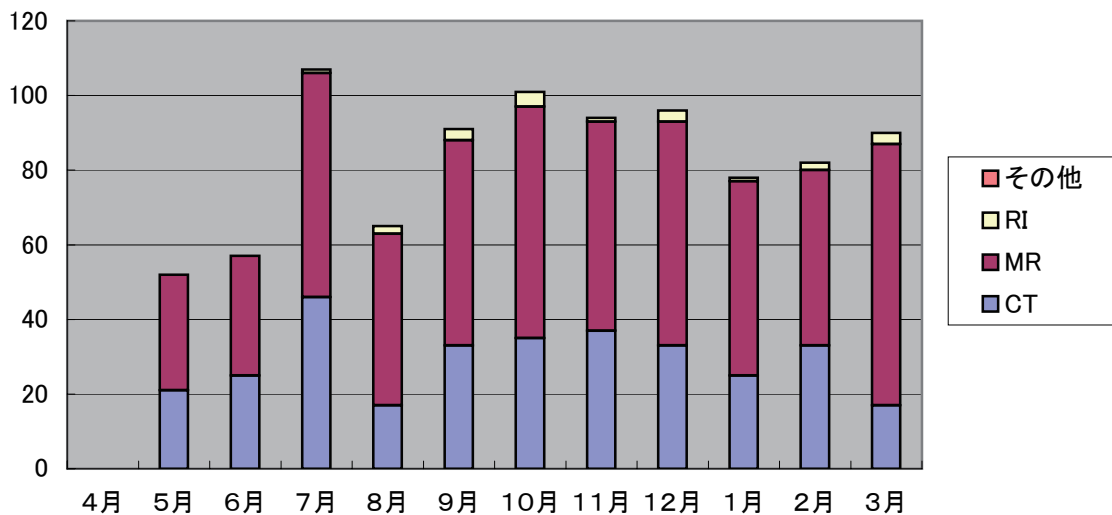
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計	平均
継続分	0	179	171	228	213	145	178	163	128	123	154	171	1,853	168.4
終了分	0	139	212	191	203	261	240	208	311	261	241	215	2,482	225.6
計	0	318	383	419	416	406	418	371	439	384	395	386	4,335	394.0

3. 医科・内視鏡/生理検査依頼患者数



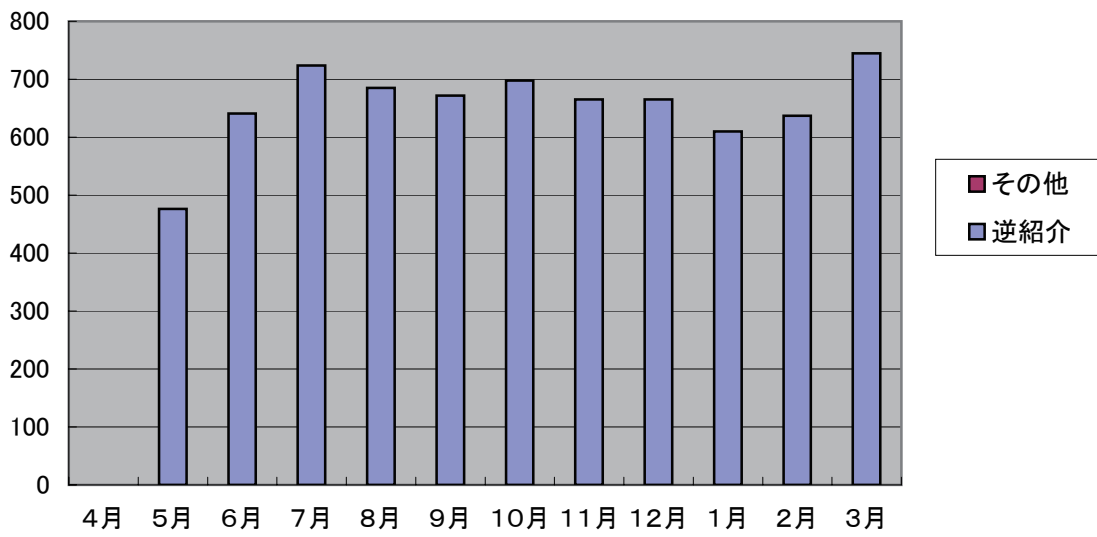
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計	平均
胃カメラ	0	3	4	12	7	8	15	17	8	12	8	7	101	9.1
腹部エコー	0	1	0	0	2	3	0	3	3	3	4	1	20	1.8
心エコー	0	0	1	4	2	0	2	2	5	1	4	2	23	2.0
甲状腺エコー	0	0	1	0	1	1	3	3	1	0	0	0	10	0.9
脳波	0	0	0	4	4	0	0	2	2	4	6	4	26	2.3
胃瘻交換	0	5	9	6	5	20	13	7	9	19	5	10	108	9.8
その他	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	1	2	0.1
計	0	9	15	26	21	32	33	34	28	40	27	25	290	26.3

4. 医科・放射線検査依頼患者数



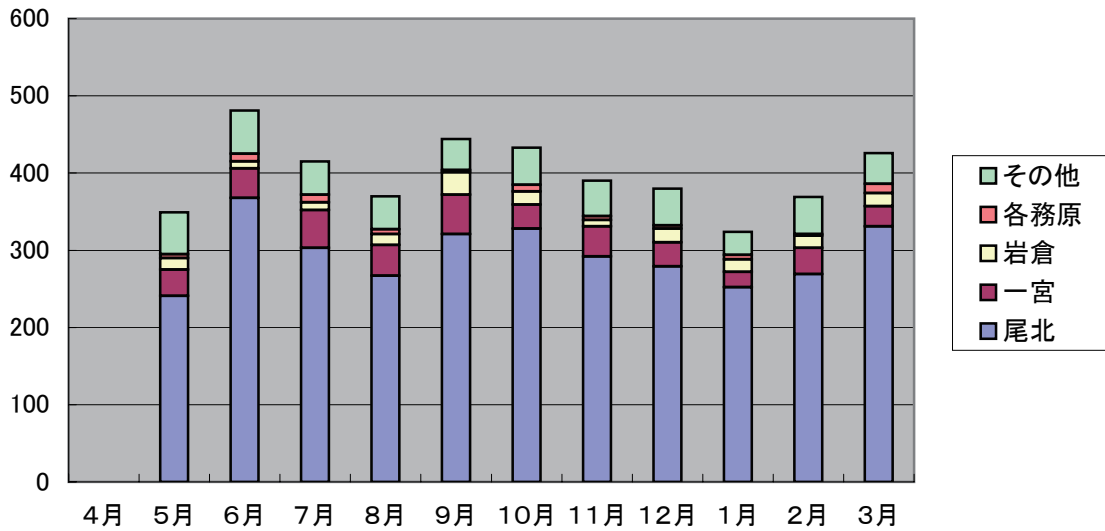
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計	平均
CT	0	21	25	46	17	33	35	37	33	25	33	17	322	29.2
MR	0	31	32	60	46	55	62	56	60	52	47	70	571	51.9
RI	0	0	0	1	2	3	4	1	3	1	2	3	20	1.8
その他	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0.0
計	0	52	57	107	65	91	101	94	96	78	82	90	372	33.8

5. 医科・逆紹介患者数



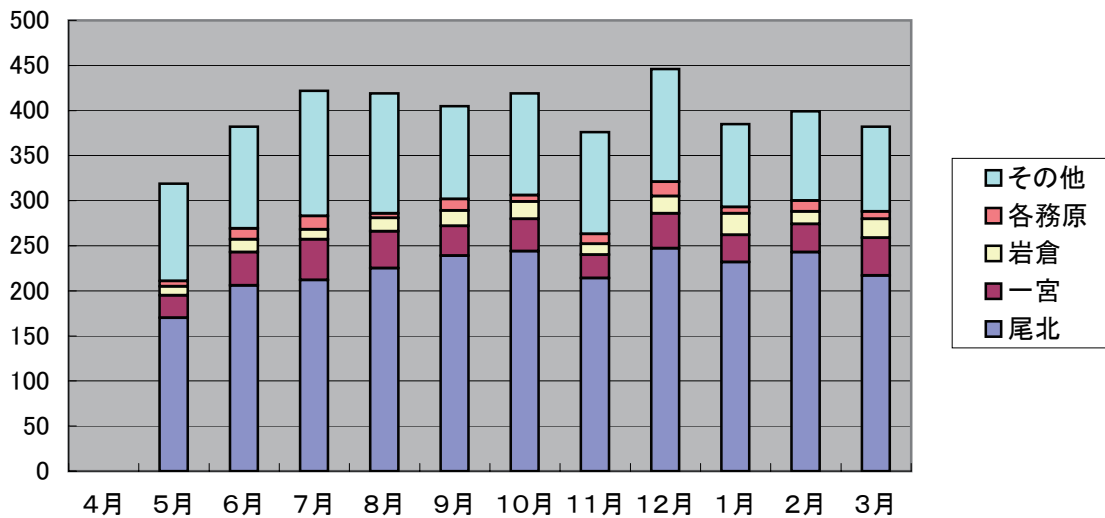
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計	平均
逆紹介	0	476	641	724	685	672	698	665	665	610	637	745	7,218	656.1
その他	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0.0
計	0	476	641	724	685	672	698	665	665	610	637	745	7,218	656.1

6. 医科・受診依頼患者数(連携室取扱)【医師会別】



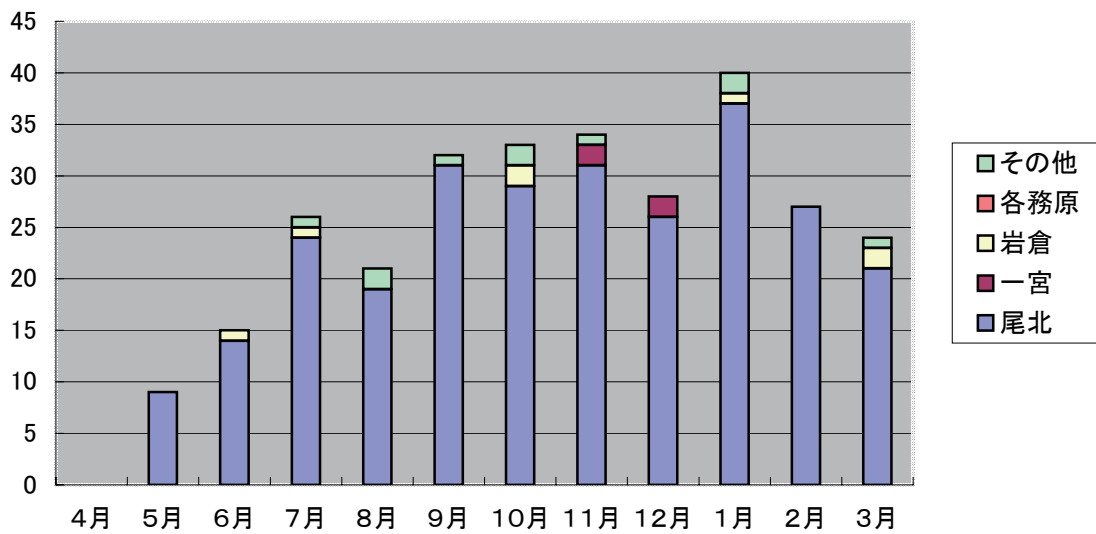
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計	平均
尾北	0	241	368	303	267	321	328	292	279	252	269	331	3,251	295.5
一宮	0	34	38	49	40	51	31	39	31	20	34	26	393	35.7
岩倉	0	15	9	10	14	29	17	8	18	16	16	17	169	15.3
各務原	0	5	10	10	6	3	9	5	4	6	2	12	72	6.5
その他	0	54	56	43	43	40	48	46	48	30	48	40	496	45.0
計	0	349	481	415	370	444	433	390	380	324	369	426	4,381	398.2

7. 医科・受診依頼患者数(直接来院)【医師会別】



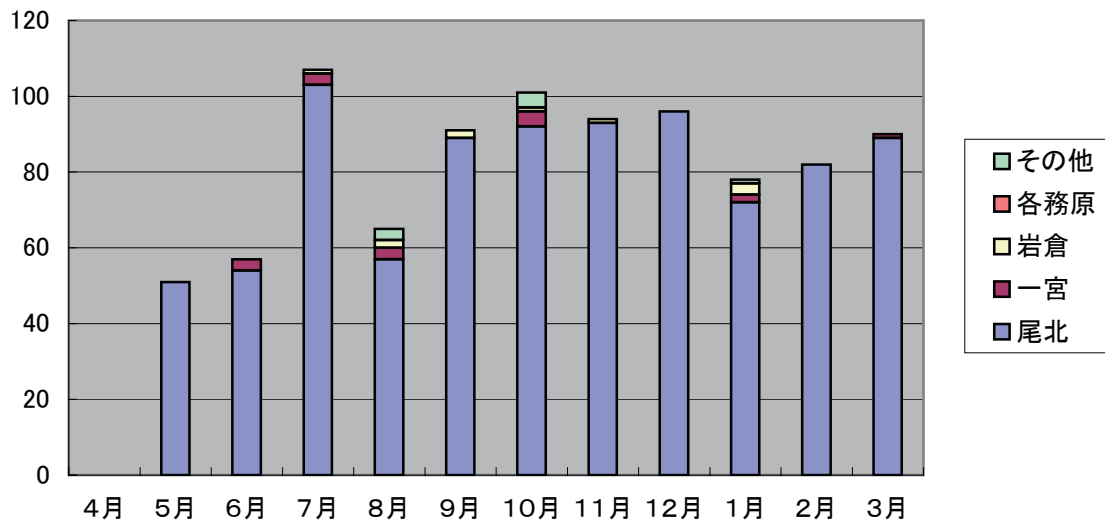
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計	平均
尾北	0	170	206	212	225	239	244	214	247	232	243	217	2,449	222.6
一宮	0	25	37	45	41	33	36	26	39	30	31	42	385	35.0
岩倉	0	10	14	11	15	17	19	12	19	24	14	21	176	16.0
各務原	0	6	12	15	5	13	7	11	16	7	12	8	112	10.1
その他	0	108	113	139	133	103	113	113	125	92	99	94	1,232	112.0
計	0	319	382	422	419	405	419	376	446	385	399	382	4,354	395.8

8. 医科・内視鏡/生理検査依頼患者数【医師会別】



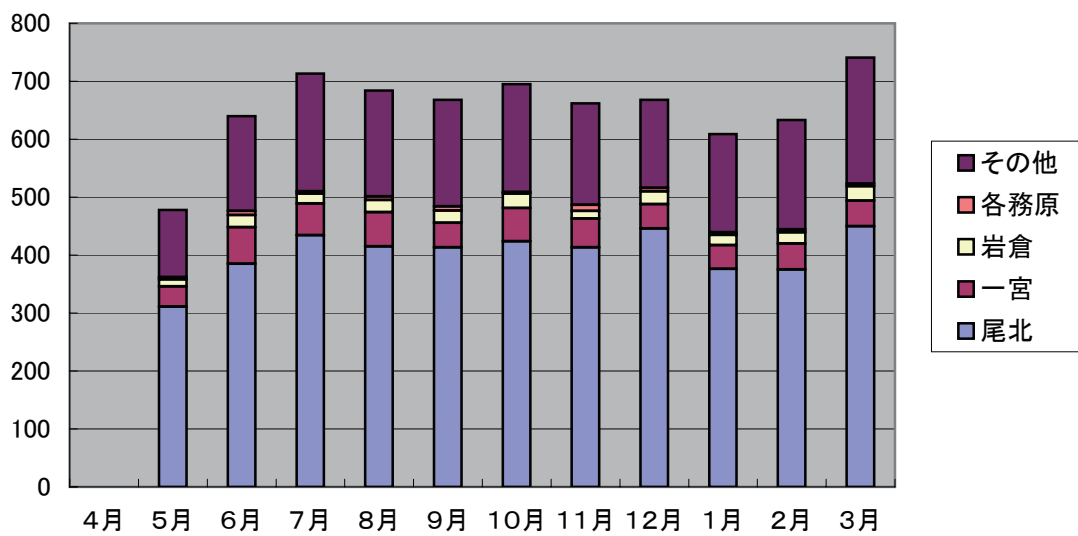
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計	平均
尾北	0	9	14	24	19	31	29	31	26	37	27	21	268	24.3
一宮	0	0	0	0	0	0	0	2	2	0	0	0	4	0.3
岩倉	0	0	1	1	0	0	2	0	0	1	0	2	7	0.6
各務原	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0.0
その他	0	0	0	1	2	1	2	1	0	2	0	1	10	0.9
計	0	9	15	26	21	32	33	34	28	40	27	24	289	26.2

9. 医科・放射線検査患者数【医師会別】



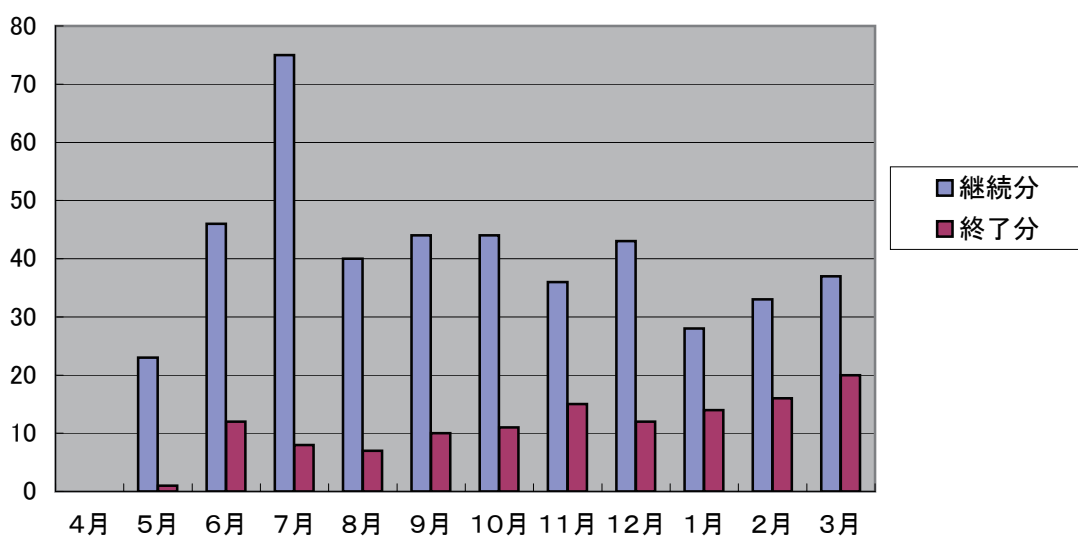
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計	平均
尾北	0	51	54	103	57	89	92	93	96	72	82	89	878	79.8
一宮	0	0	3	3	3	0	4	0	0	2	0	1	16	1.4
岩倉	0	0	0	1	2	2	1	1	0	3	0	0	10	0.9
各務原	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0.0
その他	0	0	0	0	3	0	4	0	0	1	0	0	8	0.7
計	0	51	57	107	65	91	101	94	96	78	82	90	912	82.9

10. 医科・逆紹介患者数【医師会別】



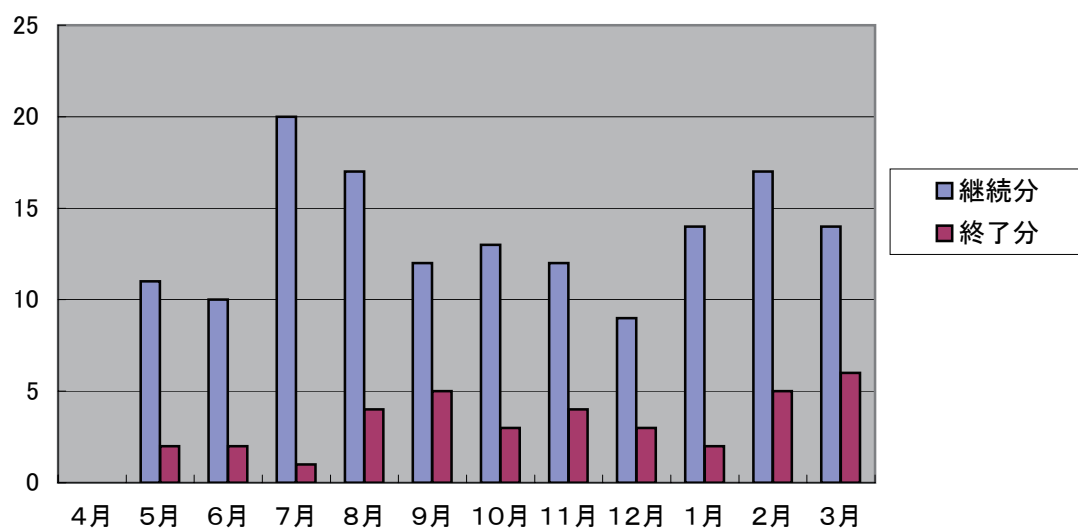
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計	平均
尾北	0	311	385	434	415	413	424	413	446	376	375	450	4,442	403.8
一宮	0	35	63	55	59	43	57	50	42	41	45	44	534	48.5
岩倉	0	12	21	17	21	21	25	13	22	18	19	25	214	19.4
各務原	0	4	7	4	6	7	3	11	6	4	5	4	61	5.5
その他	0	116	164	203	183	184	186	175	152	170	189	218	1,940	176.3
計	0	478	640	713	684	668	695	662	668	609	633	741	7,191	653.7

1. 歯科・受診依頼患者数(連携室取扱)



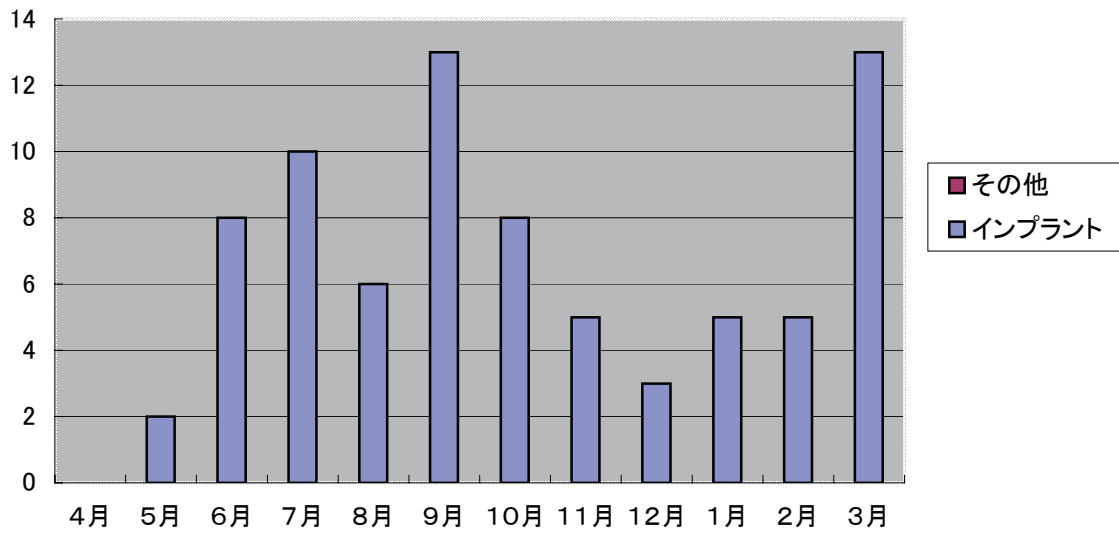
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計	平均
継続分	0	23	46	75	40	44	44	36	43	28	33	37	449	40.8
終了分	0	1	12	8	7	10	11	15	12	14	16	20	126	11.4
計	0	24	58	83	47	54	55	51	55	42	49	57	575	52.2

2. 歯科・受診依頼患者数(直接来院)



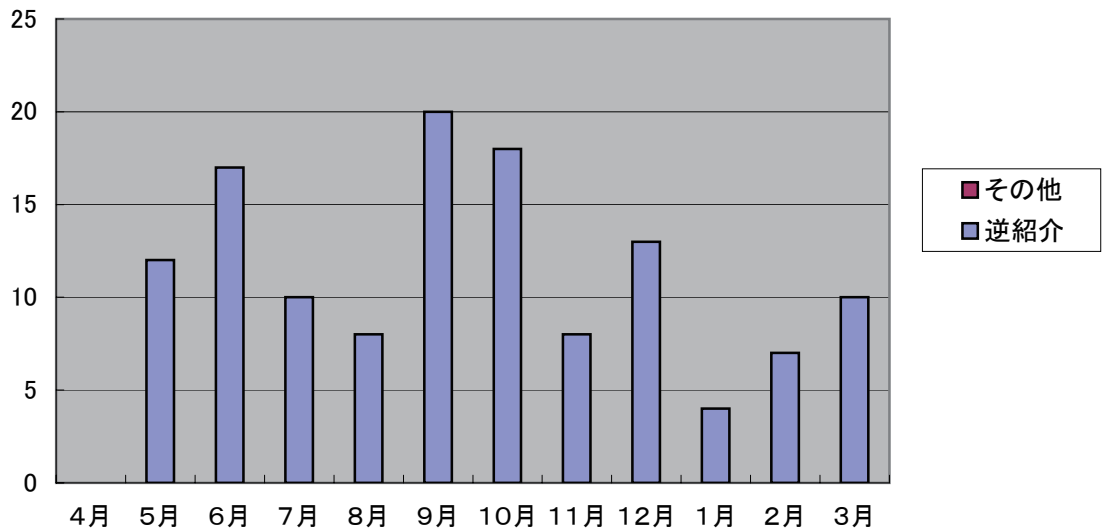
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計	平均
継続分	0	11	10	20	17	12	13	12	9	14	17	14	149	13.5
終了分	0	2	2	1	4	5	3	4	3	2	5	6	37	3.3
計	0	13	12	21	21	17	16	16	12	16	22	20	186	16.9

3. 歯科・検査等依頼患者数



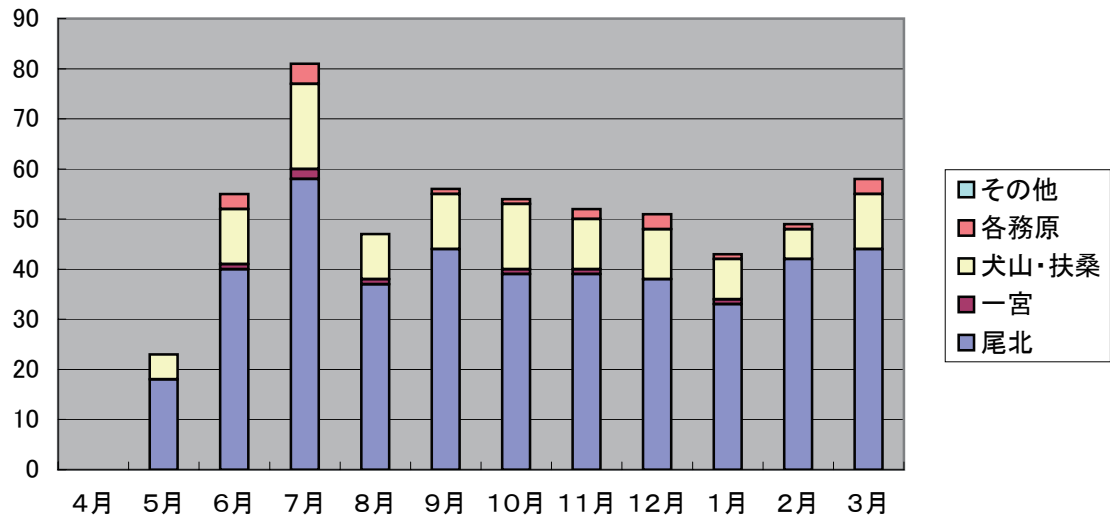
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計	平均
インプラント	0	2	8	10	6	13	8	5	3	5	5	13	78	7.0
その他	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0.0
計	0	2	8	10	6	13	8	5	3	5	5	13	78	7.0

4. 歯科・逆紹介患者数



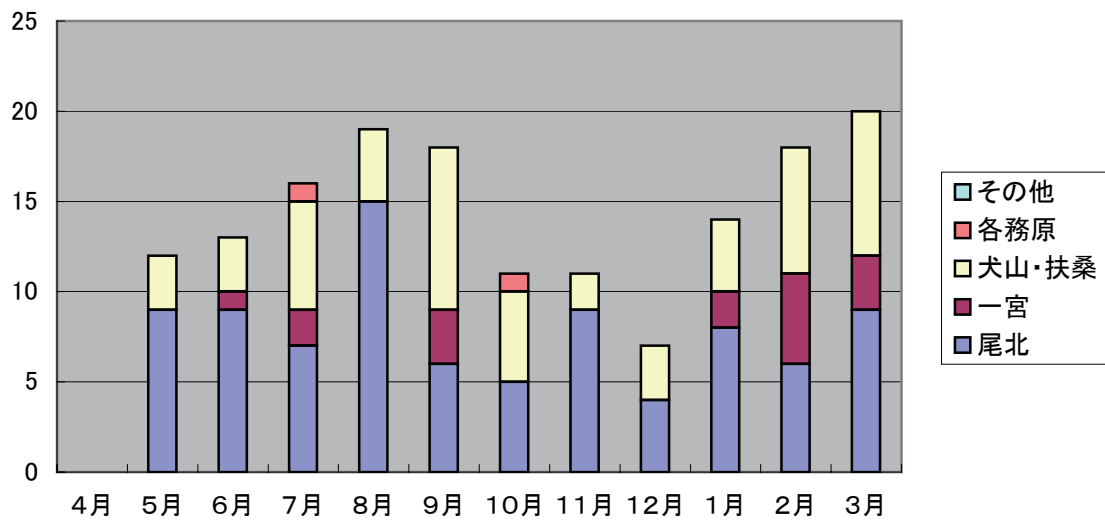
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計	平均
逆紹介	0	12	17	10	8	20	18	8	13	4	7	10	127	11.5
その他	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0.0
計	0	12	17	10	8	20	18	8	13	4	7	10	127	11.5

5. 歯科・受診依頼患者数(連携室取扱)【医師会別】



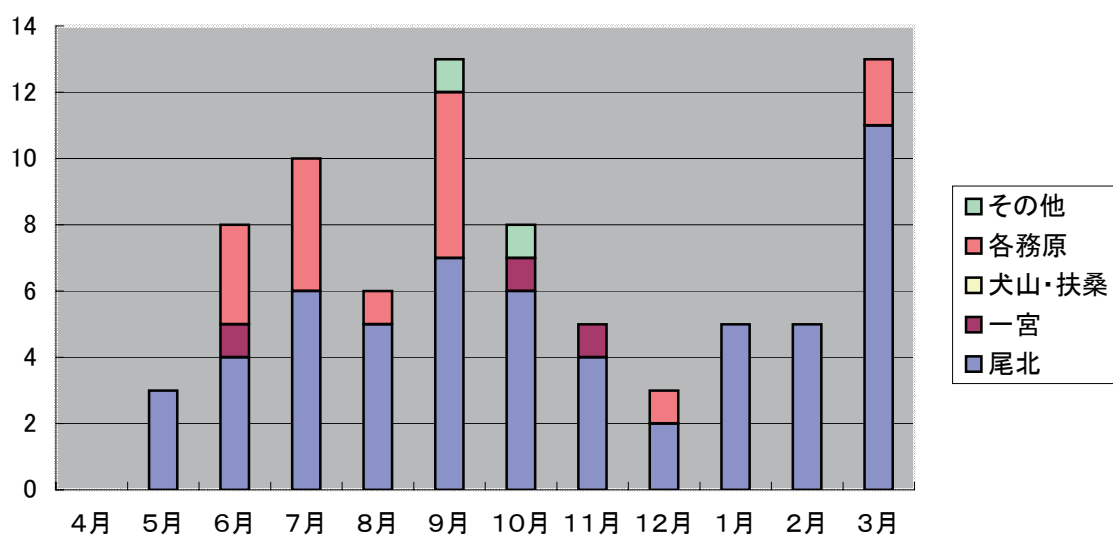
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計	平均
尾北	0	18	40	58	37	44	39	39	38	33	42	44	432	39.2
一宮	0	0	1	2	1	0	1	1	0	1	0	0	7	0.6
犬山・扶桑	0	5	11	17	9	11	13	10	10	8	6	11	111	10.0
各務原	0	0	3	4	0	1	1	2	3	1	1	3	19	1.7
その他	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0.0
計	0	23	55	81	47	56	54	52	51	43	49	58	569	51.7

6. 歯科・受診依頼患者数(直接来院)【医師会別】



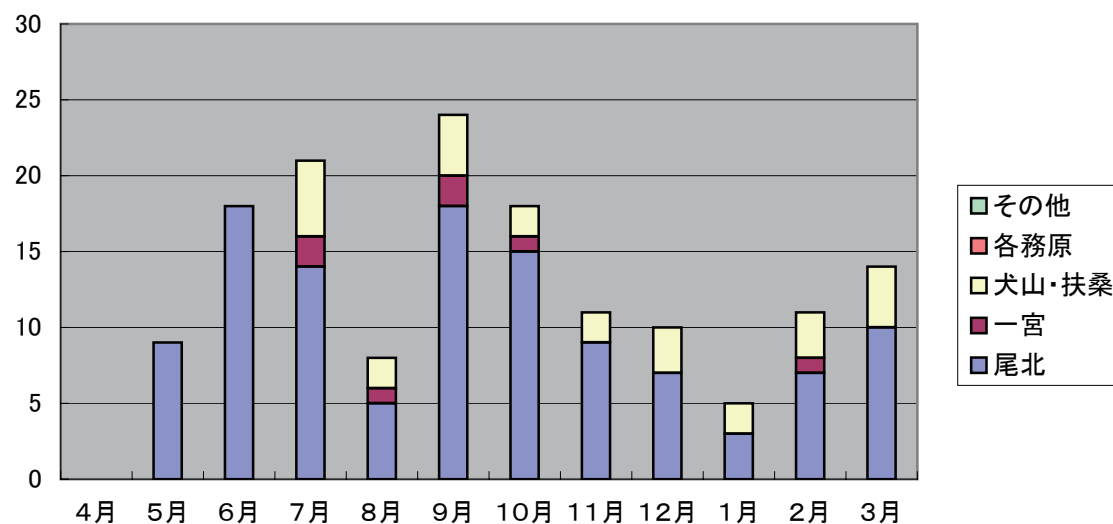
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計	平均
尾北	0	9	9	7	15	6	5	9	4	8	6	9	87	7.9
一宮	0	0	1	2	0	3	0	0	0	2	5	3	16	1.4
犬山・扶桑	0	3	3	6	4	9	5	2	3	4	7	8	54	4.9
各務原	0	0	0	1	0	0	1	0	0	0	0	0	2	0.1
その他	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0.0
計	0	12	13	16	19	18	11	11	7	14	18	20	159	14.4

7. 歯科・検査等依頼患者数【医師会別】



	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計	平均
尾北	0	3	4	6	5	7	6	4	2	5	5	11	58	5.2
一宮	0	0	1	0	0	0	1	1	0	0	0	0	3	0.2
犬山・扶桑	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0.0
各務原	0	0	3	4	1	5	0	0	1	0	0	2	16	1.4
その他	0	0	0	0	0	1	1	0	0	0	0	0	2	0.1
計	0	3	8	10	6	13	8	5	3	5	5	13	79	7.1

8. 歯科・逆紹介患者数【医師会別】



	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計	平均
尾北	0	9	18	14	5	18	15	9	7	3	7	10	115	10.4
一宮	0	0	0	2	1	2	1	0	0	0	1	0	7	0.6
犬山・扶桑	0	0	0	5	2	4	2	2	3	2	3	4	27	2.4
各務原	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0.0
その他	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0.0
計	0	9	18	21	8	24	18	11	10	5	11	14	149	13.5

江南厚生介護相談センター

<はじめに>

「江南厚生介護相談センター（以下当センター）」は平成21年5月に江南厚生病院が開院とともに、愛北病院・昭和病院内で構えていた居宅介護支援事業所が、統合された事業所である。介護支援専門員(ケアマネジャー)が、要介護度の認定がある介護保険サービスを受けたい利用者に対しケアマネジメント（契約→アセスメント→利用サービスの決定・調整→担当者会議・ケアプランの作成→モニタリング→給付管理）を行う部門である。

<平成20年度の状況>

7人体制で、利用者へ中立公正に介護保険サービスが提供できるように、業務手順や支援方法の見直しを行った。各ケアマネジャーのレベルアップのために研修・勉強会を院内外にて参加し、適正にケアマネジメントができるようにつとめた。

* 相談件数

新規相談ケースは58件内容としてターミナル期のケースが多く、脳梗塞等の後遺症を有するケース、認知症のケースなどもあった。ターミナル期のケースに関しては退院に向けての調整中に体調の急変のため在宅支援まで結びつかなかったものもあった。継続ケースは旧事業所から引き続き関わっていたケースを持ち寄った件数(150件)から始まった。入所・死亡等はあるが新規者の入れ替わりで大きな変動はなかった。

* 紹介経路

紹介経路としては60%が江南厚生病院、中部包括支援センターの併設機関からの紹介が占めている。緊急性を要するもの、困難事例の要素を含むケースの依頼が多い。今後も併設部門でもあり連携が取りやすい位置を生かして対応していく必要がある。28%は本人・家族からの依頼である。地域に密着するセンターとして対応を求められていると思われる。

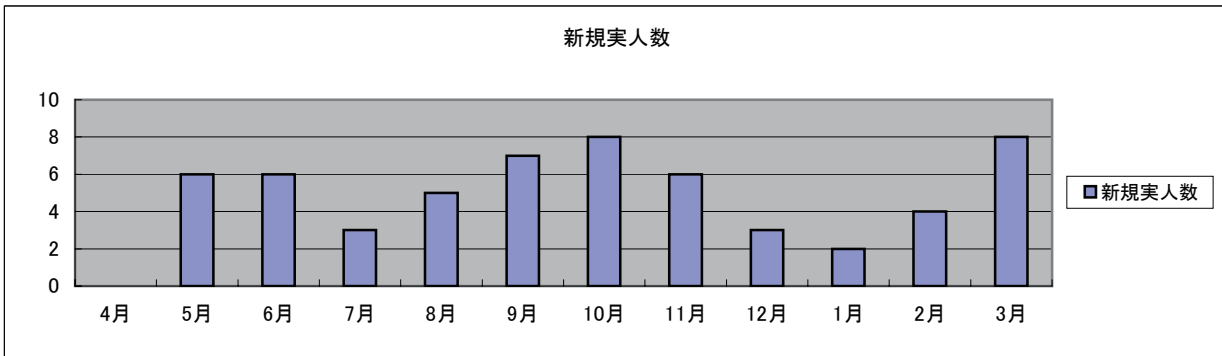
* 援助方法

援助方法はサービス担当者会議の開催を月平均20件開催している。H20年9月に厚生労働省より6ヶ月に1回のサービス担当者会議開催に関して見直しがあった。①利用者の状態の変化時に開催。②要介護認定更新時期(24月の場合は12月に1回開催)と期間が幾分延びたが各事業所への状況確認等の連絡調整が増えている。

<H20年度状況>

*相談件数

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
新規実人数	0	6	6	3	5	7	8	6	3	2	4	8	58
継続実人数	0	150	157	147	151	156	149	148	152	151	156	155	1,218

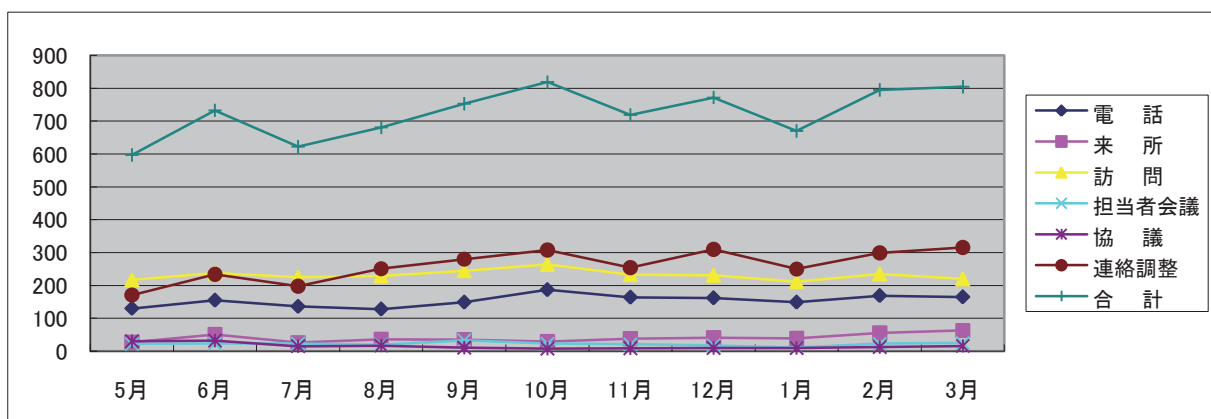


*紹介経路

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
併設施設	0	2	4	3	2	3	3	1	0	0	2	4	24
他医療機関・施設	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
包括支援センター	0	0	1	0	2	3	2	3	0	2	1	2	16
他ケアマネジャー	0	0	0	0	0	0	2	0	0	0	0	0	2
市役所	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
本人・家族・知人	0	4	1	0	1	1	1	2	3	0	1	2	16
その他	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
合計	0	6	6	3	5	7	8	6	3	2	4	8	58

*援助方法

	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
電 話	130	155	136	128	149	187	164	162	149	169	165	1,694
来 所	27	51	26	36	35	29	38	41	39	56	63	441
訪 問	217	238	225	229	245	264	233	231	211	235	220	2,548
担当者会議	22	23	23	20	33	23	21	18	11	23	25	242
協 議	30	32	15	17	11	8	9	10	10	13	16	171
連絡調整	171	234	198	251	280	308	254	310	250	299	316	2,871
合 計	597	733	623	681	753	819	719	772	670	795	805	7,967



業務統計

*各要介護度件数推移

	20年度
要支援1・2	225
要介護1	334
要介護2	296
要介護3	301
要介護4	237
要介護5	179
	20年度
新規	58
継続	1,218

*援助方法

	20年度
電 話	1,694
来 所	441
訪 問	2,548
担当者会議	242
協 議	171
連絡調整	2,871

地域医療福祉連携課（医療福祉相談室）

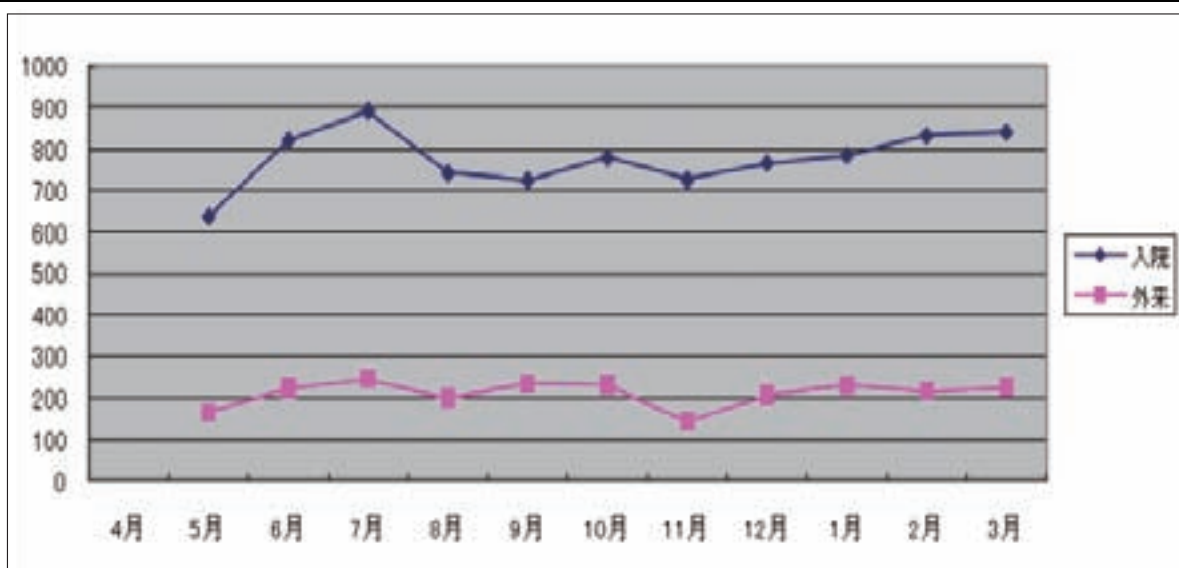
平成20年5月～平成21年3月の状況

<はじめに>

江南厚生病院の開院からの1年は、業務創設期でした。7名のソーシャルワーカー（以下、SW）でスタートし、1名産休・育児休暇などがあり、実質6名で運用した1年でした。回復期リハビリテーション病棟、療養病棟、緩和ケア病棟は複数のSWでの病棟担当制をとり、主に担当のSWが病棟との連携をはかってきました。それぞれの病棟の特殊性を理解し、一般病棟からの流れおよび病院全体の患者の流れを考えての退院支援を行いました。

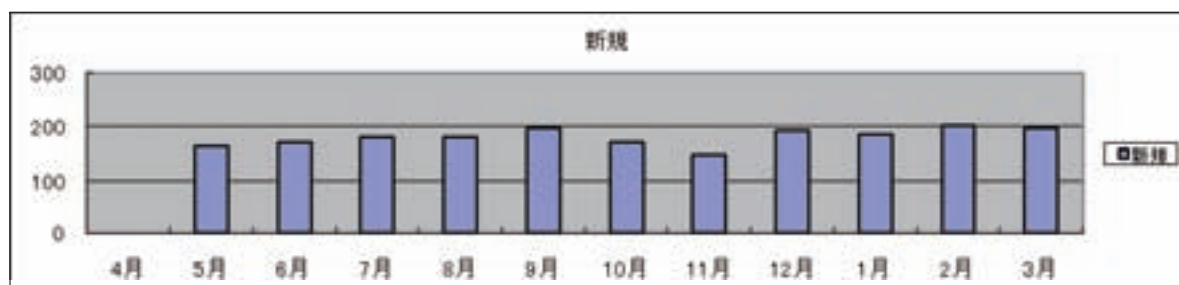
<入院・外来別>

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
入院		639	822	893	743	726	780	727	767	786	833	842
外来		165	224	245	200	234	231	144	207	230	217	225



<新規ケース数>

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
新規		164	171	180	180	196	169	149	192	185	201	196



<援助内容別>

	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
受診・入院	31	33	31	20	35	40	7	28	13	11	31	280
退院・転院	418	467	477	344	405	630	581	599	641	658	650	5,870
心理・情緒	1	12	2	7	5	4	4	7	7	6	12	67
治療療養生活	66	64	110	86	80	70	39	80	82	75	65	817
医療費・経済	152	232	234	204	200	220	194	209	225	247	254	2,371
職業・就労	0	0	2	0	0	0	0	0	0	3	0	5
住宅問題	0	1	0	0	0	0	0	1	2	0	5	9
教育問題	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	1
家族問題	13	13	5	3	4	5	18	9	12	8	6	96
日常生活	23	44	49	21	40	35	26	29	27	30	26	350
その他	8	9	13	12	10	3	2	8	6	12	18	101

援助内容別では、「退院・転院援助」が半数を占め、「医療費・経済的援助」が次でいる。

<各科別>

	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
内科	461	497	559	438	445	387	399	390	388	430	467	4,861
精神科	0	1	1	0	3	0	0	0	0	0	0	5
小児科	6	13	14	15	3	8	7	9	9	18	35	137
外科	32	115	98	65	54	47	59	56	55	62	69	712
整形外科	148	133	158	93	155	181	125	187	182	161	147	1,670
脳神経外科	12	16	18	23	36	30	25	18	28	26	24	256
皮膚科	1	6	9	0	1	6	5	14	2	1	0	45
泌尿器科	4	13	13	10	20	20	8	7	11	20	13	139
産婦人科	29	44	20	20	20	13	16	18	33	37	28	278
眼科	12	17	10	21	11	8	2	3	7	5	4	100
耳鼻咽喉科	5	4	5	2	5	9	5	3	11	4	2	55
口腔外科	0	0	2	3	0	0	0	0	1	0	1	7
救命救急	2	16	16	7	16	24	11	14	28	28	33	250
回復期病棟	57	109	99	99	85	119	89	121	108	108	110	1,104
療養病棟	36	60	96	142	91	117	84	83	107	101	108	1,025
緩和ケア	22	30	21	20	25	40	36	51	46	49	26	366

<院内連携>

*退院支援システムを稼働させ、その啓もう啓発に力を注ぎました。しかしながら、退院支援の必要な患者のスクリーニングについては、まだまだ課題が残り、次年度の取り組みへと継続して行っています。
病棟での勉強会の開催、カンファレンスの実施など、病院の支援のながれが少しずつ形となっていきました。

<地域連携>

*地域の関係機関との会議が十分開催できずに、個別に対応していった1年でした。それらの反省を生かし、内部の体制が整備されてきた次年度に地域連携の会議を持ちながら、江南厚生病院としての連携の強化を図っていきます。

<その他>

*病院機能評価受診に向けてのマニュアルの整備や院内のシステムの作成発信を随時すすめてきました。

<今後の課題>

- * SW業務の中では患者家族とのことだけでなく、院内外の課題なども多く発見する機会があります。そうした機会が業務の中であることを大切に捉え、今後も院内外にフィードバックし、相互理解に努めていくことが私たちSWの仕事の一つであると思います。
- * SWの技術の向上のために、相談室内の人材育成のしくみづくりにも取り組んでいく必要があります。次年度は時間を創りだしてでも、教育システムをすこしずつ進めていきたいと思っています。

5. 論文発表

5. 論文発表

内 科

- 1) Clinical characteristics of chronic graft-versus-host disease following umbilical cord blood transplantation for adults
(Sugimoto K) 、 (Narimatsu H) 、 (Kawase T) 、 (Iida H) 、
(Watanabe M) 、 Kohno A、 (Kuwatsuka Y) 、 (Uchida T) 、
(Hamaguchi M) 、 (Terakura S) 、 (Naoe T) 、 (Matsuo K) 、
(Murata M) 、 (Sawa M) 、 (Miyamura K) 、 Morishita Y
Bone Marrow Transplant 41:729-736 2008
- 2) High incidence of graft failure in unrelated cord blood transplantation using a reduced intensity preparative regimen consisting of fludarabine and melphalan
(Narimatsu H) 、 (Watanabe M) 、 Kohno A、 (Sugimoto K) 、
(Kuwatsuka Y) 、 (Uchida T) 、 (Murata M) 、 (Miyamura K) 、
Morishita Y
Bone Marrow Transplant 41:753-756 2008
- 3) Donor cell leukemia after allogeneic peripheral blood stem cell transplantation: a case report and literature review
(Murata M) 、 (Ishikawa Y) 、 (Ohashi H) 、 (Terakura S) 、
Ozeki K、 (Kiyoi H) 、 (Naoe T)
Int J Hematol 88:111-115 2008
- 4) 名古屋 BMT グループにおける臨床研究の現状
河野 彰夫、(宮村 耕一)
臨床血液 49 : 473-479 2008
- 5) 移植合併症—急性GVHD
森下剛久
みんなに役立つ造血細胞移植の基礎と臨床 (下巻) 24-30
平成20年9月 (医薬ジャーナル社)

- 6) Prognostic implication and biological roles of RhoH
in acute myeloid leukaemia
(Iwasaki T) 、 (Katsumi A) 、 (Kiyoi H) 、 (Tanizaki R) 、
(Ishikawa Y) 、 Ozeki K、 (Kobayashi M) 、 (Abe A) 、
(Matsushita T) 、 (Watanabe T) 、 (Amano M) 、 (Kojima T) 、
(Kaibuchi K) 、 (Naoe T)
Eur J Haematol 81:454-460 2008
- 7) hyperacute GVHD と生着症候群
森下剛久
Annual Review 血液 2009 : 43-50 2009
- 8) Early central nervous complications after umbilical cord blood
transplantation for adults
(Narimatsu H) 、 (Miyamura K) 、 (Iida H) 、 (Hamaguchi M) 、
(Uchida T) 、 Morishita Y、
Nagoya Blood and Marrow Transplantation Group (NBMTG)
Biol Blood Marrow Transplant. 15:92-100 2009
- 9) Clinicopathological manifestations and treatment of intestinal
transplant-associated microangiopathy
(Inamoto Y) 、 (Ito M) 、 (Suzuki R) 、 (Nishida T) 、 (Iida H) 、
Kohno A、 (Sawa M) 、 (Murata M) 、 (Nishiwaki S) 、 (Oba T) 、
(Yanada M) 、 (Naoe T) 、 (Ichihashi R) 、 (Fujino M) 、
(Yamaguchi T) 、 Morishita Y、 (Hirabayashi N) 、 (Kodera Y) 、
(Miyamura K)
Bone Marrow Transplant. 2009 Jan 12. [Epub ahead of print]

10) GVHD の鑑別診断と最近の治療

森下剛久

血液・腫瘍科 58: 302-310 2009

11) Psychological and physiological responses accompanying positive emotions elicited on seeing favorite persons

(Matsunaga M) 、(Yamaguchi T) 、Nogimori T、(Konagaya T) 、(Ohira H)

The Journal of Positive Psychology 3(3) 192-201, 2008

12) Associations among central nervous endocrine and immune activities when positive emotions are elicited by looking at a favorite person

(Matsunaga M) 、(Isowa T) 、(Kimura K)、(Miyakoshi M) 、

(Kanayama N) 、(Murakami H) 、(Sato S) 、(Konagawa T) 、

Nogimori T、(Fukuyama S) 、(Shinoda J) 、(Yamada J) 、(Ohira H)

Brain Behavior and Immunity 22(3) 408-417, 2008

小 児 科

1) 「小児呼吸器感染症診療ガイドライン 2007」に基づく

小児の A 群溶血性連鎖球菌咽頭・扁桃炎の抗菌薬療法

尾崎隆男

日本医事新報 No. 4375: C1-C3, 2008

2) マイコプラズマ・ニューモニエ肺炎の診断と治療に関する最新の治見

尾崎隆男、西村直子

感染と抗菌薬 11: 87-91, 2008

3) 小児科患者から分離された Haemophilus influenzae type b の検討

武藤太一郎、西村直子、渡辺直子、安 在根、小山慎郎、尾崎隆男

小児感染免疫 20: 28-32, 2008

4) 水痘

尾崎隆男

小児科 49: 687-693, 2008

- 5) 小児麻疹の臨床像
尾崎隆男
臨床医薬研究協会編集・制作、こどもの感染症の診かた 11、5-7, 2008
- 6) Development of varicella vaccine
(Takahashi M)、(Asano Y)、(Kamiya H)、(Baba K)、Ozaki T、
(Otsuka T)、(Yamanishi K)
J Infect Dis 197 Supple 2: S41-44, 2008
- 7) 心身症児の入院の意義と問題点
加藤奈津子、西村直子、尾崎隆男
小児保健研究 67 : 531-536, 2008
- 8) Five-day oral cefditoren pivoxil versus 10-day oral amoxicillin for
pediatric group A streptococcal pharyngotonsillitis
Ozaki T、Nishimura N、Suzuki M、Narita A、Watanabe N、Ahn J、
Koyama N、Ushida H、Nakane K、Yasuda N、Funahashi K
J Infect Chemother 14: 213-218, 2008
- 9) 当院における5年間のムンプス入院例の検討
西村直子、鈴木道雄、成田 敦、安 在根、荒井直子、小山慎郎、
牛田 肇、尾崎隆男
小児感染免疫 20 : 123-128, 2008
- 10) 小児百日咳のDPTワクチン歴と臨床像
牛田 肇、西村直子、鈴木道雄、成田 敦、渡邊直子、安 在根、小山慎郎、
尾崎隆男
日児誌 112 : 1088-1093, 2008
- 11) Analysis of rotavirus antigenemia and extraintestinal manifestations
in children with rotavirus gastroenteritis
(Sugata K)、(Taniguchi K)、(Yui A)、(Miyake F)、(Suga S)、
(Asano Y)、(Ohashi M)、(Suzuki K)、Nishimura N、Ozaki T、(Yoshikawa T)
Pediatrics 122: 392-397, 2008

- 12) 水痘ワクチンの効果
尾崎隆男
Medical Science Digest 34 : 440-443, 2008
- 13) 小児膿痂疹患者の臨床的および細菌学的検討
鈴木道雄、西村直子、成田 敦、安 在根、荒井直子、小山慎郎、
牛田 肇、尾崎隆男
小児感染免疫 20 : 292-300, 2008
- 14) DNA sequence analysis of varicella-zoster virus gene 62 from subclinical infections in healthy children immunized with the Oka varicella vaccine
(Gomi Y)、 Ozaki T、 Nishimura N、 Narita A、 Suzuki M、 Ahn J、
Watanabe N、 Koyama N、 Ushida H、 Yasuda N、 Nakane K、 Funahashi K、
(Fuke I)、 (Takamizawa A)、 (Ishikawa T)、 (Yamanishi K)、 (Takahashi M)
Vaccine 26: 5627-5632, 2008
- 15) 流行性耳下腺炎
西村直子、尾崎隆男
小児内科 40 : 1157-1160, 2008
- 16) 小児ウイルス性発疹症
尾崎隆男
日皮会誌 118 : 2982-2983, 2008
- 17) 病院内で行う病診連携小児休日診療の取り組み
尾崎隆男
外来小児科 11 : 422-423, 2008

外 科

- 1) 巨大脾粘液嚢腫を合併した腹膜偽粘液腫の1例
林 直美、石樽 清、(渡邊卓哉)、藤岡 憲、(堀場隆雄)、平井 敦
日本臨床外科学会誌 69 巻 8 号 Page2119-2123(2008.08)

- 2) 術前肝動脈塞栓術と門脈塞栓術の併用で完全腫瘍壊死が得られた
巨大肝腫瘍の1例
石田直子、石樽 清、(渡邊卓哉)、藤岡 憲、
(中村陽介)、古田武久、佐々木洋治
日本消化器病学会雑誌 105 卷 8 号 Page1226-1233 (2008. 08)
- 3) 静脈硬化性大腸炎の1切除例
(渡邊卓哉)、石樽 清、藤岡 憲、(堀場隆雄)、平井 敦、伊藤洋一
日本消化器外科学会雑誌 41 卷 9 号 Page1729-1734 (2008. 09)
- 4) 再発盲腸癌に対しベバシツマブ投与中に小腸穿孔をきたした1例
林 直美、石樽 清、山村和生、藤岡 憲、石田直子、加藤公一
日本臨床外科学会誌 69 卷 12 号 Page3173-3176 (2008. 12)
- 5) Intra-operative application of real-time tissue elastography for the
diagnosis of liver tumours
Kato K、(Sugimoto H)、(Kanazumi N)、(Nomoto S)、
(Takeda S)、(Nakao A)
Liver Int. 2008 Nov;28(9):1264-71
- 6) 嚢胞状病変を呈した後腹膜平滑筋腫の1例
加藤公一、(竹田 伸)、(野本周嗣)、(金住直人)、(杉本博行)、(中尾昭公)
日本消化器外科学会雑誌 41 卷 8 号 Page1649-1654 (2008. 08)
- 7) Carcinomatous meningitis secondary to cholangiocarcinoma without other
systemic metastasis
(Okamura Y)、(Harada A)、(Maeda A)、Fujioka A、
(Horiba T)、Ishigure K、Hirai A、Ito Y、
(Uesaka K)
Journal of Hepatobiliary Pancreatic Surgery
Vol15 No.2 P237-P239 2008.4

皮膚科

- 1) 成人の顔面に発生した結節性筋膜炎
半田芳浩、(柴山文代)、安江 敬

皮膚科の臨床 50 ; 779-782, 2008

- 2) 大陰唇に生じた基底細胞癌
馬場義博、河合正博、半田芳浩

Skin Cancer23 ; 390-393, 2008

- 3) タクロリムス軟膏の外用が奏効した亀頭に生じた扁平苔癬
和田林幹央、河合正博、半田芳浩

皮膚科の臨床 51 ; 377-380, 2009

- 4) 糖尿病性浮腫性硬化症
馬場義博、河合正博、半田芳浩

皮膚科の臨床 51 ; 430-431, 2009

眼 科

- 1) 40年以上、同一のPMMA HCLを使用し、角膜内皮細胞が激減した一例
浅野裕美、武藤康司、(櫻井康二)、小嶋丈司、(吉田絢子)、(吉田統彦)

眼科臨床紀要 1巻9号、864-867、2008

歯科口腔外科

- 1) 外傷受診時に発見された小児鼻腔内異物の1例
竹内伸一、市原左知子、安井昭夫、(小谷英二)、(田尻康樹)、(河合達志)

愛知学院大学歯学会誌 46(3) : 369-372 2008

薬 剤 科

- 1) 市販データベースソフトと院内ネットワークを活用した外来がん化学療法管理システムの構築

富田敦和、佐々英也、沖 健次、前田正雄

日本病院薬剤師会雑誌 第44巻 11号 2008年

臨床検査技術科

- 1) T serotypes and antimicrobial susceptibilities of group A streptococcus isolates from pediatric pharyngotonsillitis
Keiji Funahashi、Kazumasa Nakane、Naoko Yasuda、Michio Suzuki、Atushi Narita、Naoko Arai、Jaekun Ahn、Norio Koyama、Hajime Ushida、Naoko Nishimura、Takao Ozaki
Japanese Journal of Infectious Diseases 61: 454-456、2008
- 2) 気道感染症の小児より分離された *Moraxella catarrhalis* の細菌学的検討
中根一匡、舟橋恵二、安田直子、西尾一美、西村直子、尾崎隆男
医学検査 57: 915-920、2008
- 3) 造血細胞移植における経時的破碎赤血球算定の有意性
山田映子、川崎達也、林克彦、左右田昌彦、鈴木敏仁、西尾一美、河野彰夫、森下剛久
医学検査 57: 1144-1148、2008

リハビリテーション科

- 1) 急性期病院における摂食・嚥下リハビリテーションの有効性
松岡真由、中西恭子、渡部啓孝
日本摂食嚥下リハビリテーション学会誌 12(2) 124-134、2008

栄養科

- 1) 嚥下困難食改善の取り組み
深見沙織、朱宮哲明、山田千夏、長谷川京子、杉山一秀、尾崎隆男
日農医誌 57 (2) 83-88 2008

看 護 部

- 1) 便の漏れによりスピリチュアルペインが増強した患者のケアの実際
祖父江正代、岩崎糸江、馬場真子
東海ストーマリハビリテーション研究会誌、28（1）、116-112、2008

- 2) ストーマ・瘻孔ケアに難渋した症例 Closed Suction Wound Drainage による瘻孔管理時の看護の役割
(三輪恵美)、祖父江正代
東海ストーマリハビリテーション研究会誌、28（1）、8-15、2008

- 3) 粉状皮膚保護剤の誤った使用方法によりストーマ周囲皮膚障害が発生した1例
馬場真子、中田陽子、佐東美樹、平野朋美、祖父江正代
東海ストーマリハビリテーション研究会誌、28（1）、73-77、2008

- 4) 創傷治癒に湿潤環境がなぜ必要か？
祖父江正代
道又元裕監修、ケアの根拠 看護の疑問に答える 151 のエビデンス、78、2008

- 5) 特別な医療処置に伴う看護
ドレーン挿入部と胃瘻周囲のケア・ストーマケア・褥瘡ケア・失禁による皮膚障害の予防・フットケアと足病変の管理
祖父江正代
前川厚子編著、在宅医療と訪問看護・介護のコラボレーション
241-276、2009

6. 学会・研究発表会

6. 学会・研究会発表

内 科

- 1) Endoscopic submucosal dissection of gastric tumors before and after introducing the insulation-tipped diathermic knife II and water-jet endoscope in our institution
Y. sasaki、 T. Furuta、 T. Itatsu、 T. Morishima、 K. Kato、 Y. Tominaga
16th United European Gastroenterology Week 20 October、 2008、 Vienna、 Austria
- 2) カテーテルアブレーション治療に難渋した心筋梗塞後心室頻拍の一例
奥村 諭、水谷吉晶、許 聖服、宮垣義美、高田康信、真野謙治、齊藤二三夫
日本循環器学会 第 132 回東海・第 117 回北陸合同地方会
2008 年 11 月 15 日 - 16 日 名古屋
- 3) 骨髄異形成症候群 (MDS) に合併した心臓腫瘍の一例
水谷吉晶、奥村 諭、許 聖服、宮垣義美、高田康信、真野謙治、齊藤二三夫
日本循環器学会 第 132 回東海・第 117 回北陸合同地方会
2008 年 11 月 15 日 - 16 日 名古屋
- 4) 血液内科病棟における抗菌薬サイクリング療法を用いた感染防御の試み
齊藤繁紀、森下剛久、河野彰夫、綿本浩一、島田和之、水野紘樹、
上田格弘、加藤幸男
第 70 回日本血液学会総会 平成 20 年 10 月 10 日 京都
- 5) FLT3 の糖鎖秋色と下流シグナルの関係
(梶口智弘)、尾関和貴、(清井 仁)、(直江知樹)
第 70 回日本血液学会総会 平成 20 年 10 月 10 日 京都
- 6) 末端巨大症経過中に大腸癌と MDS/AML を発症した症例
尾関和貴、齊藤繁紀、上田格弘、水野紘樹、綿本浩一、河野彰夫、
森下剛久、加藤幸男
第 70 回日本血液学会総会 平成 20 年 10 月 11 日 京都

- 7) 急性骨髄性白血病寛解導入療法中に亜急性甲状腺炎を合併した一例
水野紘樹、森下剛久、河野彰夫、綿本浩一、尾関和貴、上田格弘、加藤幸男
第70回日本血液学会総会 平成20年10月11日 京都
- 8) Peripheral T cell lymphoma と鑑別が困難であったウイルス性リンパ節炎
綿本浩一、上田格弘、水野紘樹、尾関和貴、河野彰夫、森下剛久、加藤幸男
第70回日本血液学会総会 平成20年10月12日 京都
- 9) 当院における同種臍帯血移植の成績と検討
水野紘樹、森下剛久、河野彰夫、綿本浩一、尾関和貴、上田格弘、加藤幸男
第31回日本造血細胞移植学会総会 平成21年2月6日 札幌
- 10) 長期透析患者の治療法による予後の違い
－PDファーストは予後に対してよいか－
平松 武幸、小野木健詞、古田 慎司、角田 博信
第53回 日本透析医学会学術集会 神戸市
- 11) Icodextrin ameliorates aortic valve calcification and carotid
plaque growth in incident peritoneal dialysis patients
Takeyuki Hiramatsu, M.D. Mina Kato, M.D. Takeshi Onogi,
M.D. Shinji Furuta, M.D. Yukio Kato, M.D.
第41回 アメリカ腎臓学会 フィラデルフィア
- 12) 交通外傷による大腿骨骨折後に下垂体機能低下症を発症した例
(橋詰万里子)、(高木潤子)、(稲垣知里)、(金平知樹)、
(今井田祐子)、(加藤宏一)、(大竹千生)、
(D o m i n i k a K a n i k o w s k a)、(森 将垣)、野木森 剛
第19回 臨床内分泌代謝Update 平成21年3月13日 東京
- 13) S I A D Hで発見された下垂体腺腫の一例
加藤詩乃、泉田久和、福岡一貴、有吉 陽、野木森 剛
第8回日本内分泌学会東海支部学術集会 平成21年3月28日 岐阜

小児科

1) 尿路感染症の臨床的および細菌学的検討

成田 敦、西村直子、鈴木道雄、荒井直子、安 在根、小山慎郎、
牛田 肇、尾崎隆男

第 243 回日本小児科学会東海地方会 2008 年 5 月 11 日 長久手

2) 予防接種の必要性と課題

—麻疹、風疹、水痘、ムンプスを中心に—

尾崎隆男

小牧市医師会講演会・学術講演 2008 年 5 月 23 日 小牧

3) 病院勤務医と臨床研究

尾崎隆男

第 49 回日本臨床ウイルス学会・会長講演 2008 年 6 月 14-15 日 犬山

4) 当院における MR ワクチン第Ⅱ期接種成績

西村直子、(奥野良信)、(秋山正尊)、鈴木道雄、成田 敦、安 在根、
荒井直子、小山慎郎、牛田 肇、尾崎隆男

第 49 回日本臨床ウイルス学会 2008 年 6 月 14-15 日 犬山

5) MR ワクチン接種者 PBMC 中の麻疹・風疹ウイルス RNA 検出

(五味康行)、尾崎隆男、西村直子、成田 敦、鈴木道雄、安 在根、
荒井直子、小山慎郎、牛田 肇、舟橋恵二、(真鍋貞夫)、(石川豊数)、
(奥野良信)、(上田重晴)

第 49 回日本臨床ウイルス学会 2008 年 6 月 14-15 日 犬山

6) *Acinetobacter baumannii* の市中感染による細菌性髄膜炎の 1 歳健常児

鈴木道雄、西村直子、新川泰子、成田 敦、山本康人、小山慎郎、
牛田 肇、尾崎隆男

第 44 回中部日本小児科学会 2008 年 8 月 24 日 富山

7) 病院内で行う病診連携小児休日診療の取り組み

尾崎隆男

第 18 回日本外来小児科学会・シンポジウム 2008 年 8 月 30-31 日名古屋

- 8) A 群溶血性レンサ球菌感染症
—咽頭炎を中心に—
尾崎隆男
鳥取県西部小児科医会特別講演会 2008年10月8日 米子
- 9) A 群溶血性レンサ球菌感染症
—咽頭炎を中心に—
尾崎隆男
第84回羽島郡メディカルセミナー 2008年10月17日 笠松
- 10) ステロイドが奏功したマイコプラズマ肺炎の検討
新川泰子、西村直子、鈴木道雄、成田 敦、山本康人、小山慎郎、
牛田 肇、尾崎隆男
第244回日本小児科学会東海地方会 2008年10月19日 名古屋
- 11) 水痘
尾崎隆男
第12回日本ワクチン学会・シンポジウム 2008年11月8-9日 熊本
- 12) 水痘ワクチン輸送時の温度変化とウイルス力価への影響
(浅野喜造)、(神谷 齊)、(馬場宏一)、(永井崇雄)、(熊谷卓司)、
尾崎隆男、(白木公康)
第12回日本ワクチン学会 2008年11月8-9日 熊本
- 13) 弱毒麻疹風疹混合ワクチン(ミールビック)の製造販売後臨床試験
(高橋善行)、(浅野喜造)、尾崎隆男、(竹内宏一)、(高橋好生)、
(横山 隆)、(進藤静生)、(芝尾京子)、(小柳英樹)、(入江 伸)、
(石川豊数)、(奥野良信)、(上田重晴)
第12回日本ワクチン学会 2008年11月8-9日 熊本
- 14) プライマリケアにおける抗菌薬の使い方
西村直子
第40回日本小児感染症学会・ミートザエキスパート
2008年11月15-16日 名古屋

- 15) 07-08 シーズンのノロウイルス胃腸炎入院例の臨床像
(ロタウイルス胃腸炎との比較)
荒井直子、(伊藤嘉規)、西村直子、鈴木道雄、成田 敦、小山慎郎、
牛田 肇、(木村 宏)、尾崎隆男
第 40 回日本小児感染症学会 2008 年 11 月 15-16 日 名古屋
- 16) *Acinetobacter baumannii* による細菌性髄膜炎の 1 歳健常児
鈴木道雄、西村直子、新川泰子、成田 敦、山本康人、小山慎郎、
牛田 肇、尾崎隆男
第 40 回日本小児感染症学会 2008 年 11 月 15-16 日 名古屋
- 17) 水痘生ワクチンの施設保管時の温度変化とウイルス力価の検討
(神谷 齊)、(浅野喜造)、(馬場宏一)、(永井崇雄)、
(熊谷卓司)、尾崎隆男
第 40 回日本小児感染症学会 2008 年 11 月 15-16 日 名古屋
- 18) ウイルス血症が遷延する重症水痘男児例の病態の検討
(後藤研誠)、(伊藤嘉規)、尾崎隆男、(木村 宏)
第 40 回日本小児感染症学会 2008 年 11 月 15-16 日 名古屋
- 19) 尿路感染症の臨床的および細菌学的検討
成田 敦、西村直子、新川泰子、鈴木道雄、山本康人、小山慎郎、
牛田 肇、尾崎隆男
第 40 回日本小児感染症学会 2008 年 11 月 15-16 日 名古屋
- 20) 予防接種はなぜ必要か
—高齢者と海外渡航者を中心に—
尾崎隆男
第 26 回健康教育講演会 2008 年 11 月 20 日 武豊
- 21) 水痘ワクチンの安全性と有効性
尾崎隆男
SIBP-BIKEN 合作 12 周年記念慶典 2008 年 11 月 24 日 中華人民共和国・杭州

22) 経過が遷延したワクチン株によるムンプス髄膜炎の1例

鈴木道雄、西村直子、新川泰子、成田 敦、山本康人、小山慎郎、
牛田 肇、尾崎隆男

第245回日本小児科学会東海地方会 2009年2月22日 名古屋

23) 当院におけるMRワクチン第Ⅱ期接種成績

西村直子、(奥野良信)、(秋山正尊)、新川泰子、鈴木道雄、成田 敦、
山本康人、小山慎郎、尾崎隆男

平成20年度新予防接種研究班会議 2009年3月15日 東京

外 科

1) Von Recklinghausen病に合併した空腸GISTの1例

藤岡 憲、石樽 清、林 直美、山村和生、平井 敦、飛永純一、
伊藤洋一

第275回東海外科学会 平成20年4月6日 名古屋

2) 難治性小腸皮膚瘻に対し大腿筋膜有茎皮弁による腹壁再建を施行した1例

林 直美、石樽 清、藤岡 憲、(渡邊卓哉)、飛永純一、平井 敦、
伊藤洋一、(梅本泰孝)

第63回日本消化器外科学会総会 平成20年7月16-18日 北海道

3) ベバシツマブ投与中に小腸穿孔を来した1例

林 直美、石樽 清、山村和生、藤岡 憲、石田直子、加藤公一、
平井 敦、飛永純一、黒田博文

第30回愛知臨床外科学会 平成20年7月21日 名古屋

4) 一般病棟におけるオクトレオチドの使用経験

石樽 清

第2回愛知イレウスフォーラム 平成20年9月20日 名古屋

- 5) 一般病棟で行う“進行・再発癌患者の消化器症状”への対処
～より早期における症状軽減の重要性と一般病棟でできる取り組み～
石樽 清
第46回日本癌治療学会 平成20年10月31日 名古屋
- 6) 術前診断に苦慮した肝門部胆管狭窄の1例
林 直美、石樽 清、石田直子、二宮 豪、山村和生、加藤公一、
平井 敦、飛永純一、黒田博文
日本消化器病学会東海支部第109回例会 平成20年11月22日 名古屋
- 7) 重症急性膵炎より NOMI を来し、救命しえた1例
山村和生、石樽 清、林 直美、石田直子、二宮 豪、加藤公一、
平井 敦、飛永純一、黒田博文、伊藤洋一
日本消化器病学会東海支部第109回例会 平成20年11月22日 名古屋
- 8) 虫垂杯細胞カルチノイド穿孔の1例
林 直美、石樽 清、石田直子、二宮 豪、山村和生、加藤公一、
平井 敦、飛永純一、黒田博文
第31回愛知臨床外科学会 平成21年2月11日 名古屋
- 9) 当院におけるアバスチン投与状況
—CCOG801 臨床試験登録症例の報告
石樽 清
第1回愛知北部消化器がん講演会 平成21年1月30日 江南
- 10) 当院における大腸癌治療の紹介
山村和生、石樽 清、石田直子、林 直美、二宮 豪、加藤公一、
平井 敦、飛永純一、黒田博文、伊藤洋一
第6回尾北医師会病新診連携の会 平成21年3月7日 江南
- 11) SSI 予防対策の検討
林 直美、石樽 清、石田直子、二宮 豪、山村和生、加藤公一、
平井 敦、飛永純一、黒田博文、伊藤洋一
第6回尾北医師会病診連携の会 平成21年3月7日 江南

- 12) 胆管内発育型肝内胆管癌の術後1年を経て膵内胆管に発生した胆管癌の1切除例
加藤公一、(杉本博行)、(金住直人)、(野本周嗣)、(竹田 伸)、(中尾昭)
第63回日本消化器外科学会総会 平成20年7月16-18日 北海道
- 13) 自然史からみた膵管内乳頭粘液性腫瘍(IPMN)の治療法の選択
IPMN手術症例における膵切離断端の病理所見による予後の検討
加藤公一、(竹田 伸)、(野本周嗣)、(金住直人)、
(杉本博行)、(山田 豪)、(中尾昭公)
第108回日本外科学会総会 平成20年5月15-17日 長崎
- 14) 肝門部胆管癌との鑑別診断に難渋した良性胆道狭窄の一例
石樽 清、(渡邊卓哉)
第20回日本肝胆膵外科学会・学術集会 平成20年5月28-30日 山形
- 15) Upside down stomach像を呈した成人食道裂孔ヘルニアの一例
二宮 豪、(谷口健次)、(越川克己)、(加藤毅人)、(鎌田嗣正)、
(武内 大)、(服部憲史)、(間下直樹)、(野田純代)、(横山裕之)、
(和田応樹)、(末永裕之)
第275回東海外科学会 平成20年4月6日
- 16) PROGNOSTIC IMPACT OF PANCREATIC CUT SURFACE STATUS OF RESECTED INTRADUCTAL
PAPILLARY MUCINOUS NEOPLASM OF THE PANCREAS
K Kato、(S Yamada)、(H Sugimoto)、(N Kanazumi)、(S Nomoto)、(S Takeda)、(A Nakao)、
4th Annual Academic Surgical Congress
2008.2.3-6. Fort Myers、 Florida/ USA
- 17) OCTREOTIDE IN THE MANAGEMENT OF MALIGNANT BOWEL OBSTRUCTION
Kiyoshi Ishigure
18th World Congress of the International Association
of Surgeons、 Gastroenterologists and Oncologists
2008.10. 8-10. Istanbul/ Turkey

皮膚科

- 1) タクロリムス軟膏の外用が奏功した亀頭に生じた扁平苔癬
和田林幹央、河合正博、半田芳浩
第 24 回日本臨床皮膚科医会臨床学術大会 2008 年 5 月 24-25 日 東京
- 2) 放射線照射後に多発肺転移を来たした会陰部の verrucous carcinoma
藤沢治樹、河合正博、半田芳浩
第 24 回日本皮膚悪性腫瘍学会学術大会 2008 年 7 月 4-5 日 岐阜
- 3) 大陰唇に生じた基底細胞癌
馬場義博、河合正博、半田芳浩
第 24 回日本皮膚悪性腫瘍学会学術大会 2008 年 7 月 4-5 日 岐阜
- 4) 爪甲下に生じた血管拡張性肉芽腫
廣島光恵、河合正博、半田芳浩
第 245 回日本皮膚科学会東海地方会 2008 年 9 月 15 日 名古屋
- 5) 臍部に生じた異性子宮内膜症
廣島光恵、河合正博、半田芳浩、樋口和宏
第 59 回日本皮膚科学会中部支部学術大会 2008 年 10 月 12-13 日 名古屋

眼科

- 1) 40 年以上、同一の PMMA HCL を使用し、角膜内皮細胞が激減した一例
浅野裕美、武藤康司、(櫻井康二)、小嶋丈司、(吉田絢子)、(吉田統彦)
第 51 回日本コンタクトレンズ学会総会 2008 年 7 月 5 日 福岡

耳鼻咽喉科

1) 上顎癌における粒子線治療の使用経験

大橋 卓、渡部啓孝、千葉真由美

尾北地区耳鼻咽喉科病診連携会 2008年12月4日 名古屋

2) 患者アンケートによる花粉症治療の満足度

大橋 卓

岩倉市医師会講演会 2009年1月15日 岩倉

3) 鼻副鼻腔乳頭腫の治療

大橋 卓

桜山耳鼻咽喉科難治疾患懇話会 2009年3月14日 名古屋

歯科口腔外科

1) 口腔癌に対する浅側頭動脈より超選択的動注化学放射線併用療法の治療経験

安井昭夫、竹内伸一、市原左知子

第53回(社)日本口腔外科学会総会 2008年10月20-21日 徳島

2) 慢性上顎骨髄炎に対する抗菌薬動注療法の治療経験

市原左知子、竹内伸一、安井昭夫

第53回(社)日本口腔外科学会総会 2008年10月20-21日 徳島

麻 酔 科

- 1) オブソクローヌス・ミオクローヌス症候群の麻酔管理経験

水谷 粹、渡辺 博、山本康裕、藤岡奈加子、富永麻里、
赤堀貴彦、安藤侑子、矢内るみな

第6回日本麻酔科学会東海・北陸支部学術集会
平成20年9月13日 岐阜県

- 2) 腹部巨大脂肪肉腫摘出後、左横隔膜障害により

呼吸管理に難渋した1症例

藤岡奈加子、山本康裕、水谷 粹、渡辺 博

第36回日本集中治療医学会学術集会 平成21年2月27日 大阪

薬 剤 科

- 1) 薬剤科主導で行ったレジメンセット登録とその効果

羽田勝彦、藤井知郎、富田敦和、前田正雄、森下憲一

日本医療薬学会 2008年9月20日 札幌

- 2) 当院職員の麻疹、風疹、水痘、ムンプスの職業感染防止対策

大柴 薫、西村直子、安田直子、中根一匡、舟橋恵二、尾崎隆男

日本ワクチン学会学術集会 2008年11月8日 熊本

診療放射線技術科

- 1) MDCT のシネモードを用いた嚥下時喉頭撮影の試み

筆谷 拓、大竹正一郎、渡部啓孝、光岡 孝、吉川秋利

日本放射線技術学会第65回総合学術大会 2008年4月19日 横浜

- 2) CT を用いた腹部内臓脂肪測定における被曝低減の検討
筆谷 拓、伊藤良剛、吉川秋利、大竹正一郎
第 57 回日本農村医学会学術総会 2008 年 11 月 13 日 茨城
- 3) 画像処理を用いた一般撮影画像の自動検像システム構築
～放射線技師の検像業務負担軽減を目指して～
今尾 仁、吉川秋利、古田和久、左右田昌彦、朱宮光輝、森下剛久
第 28 回医療情報学連合大会 2008 年 11 月 22 日 横浜
- 4) マンモグラフィー撮影の現状
武市めぐみ
第 5 回尾張乳癌研究会 2008 年 12 月 9 日 小牧
- 5) MDCT のシネモードを用いた嚥下時喉頭撮影の試み
筆谷 拓、大竹正一郎、渡部啓孝、光岡 孝、吉川秋利
尾西地区放射線技師会総会・研修会 2008 年 3 月 14 日 一宮

臨床検査技術科

- 1) 『日常微生物検査における標準手引書』の活用法
～これからの問題点～
舟橋恵二
第 9 回愛知県医学検査学会 2008 年 5 月 25 日 豊橋
- 2) LAMP 法による百日咳菌迅速検査
安田直子
愛知県臨床衛生検査技師会微生物研究班例会 2008 年 9 月 6 日 名古屋
- 3) 標準予防策と感染経路別予防策
舟橋恵二
愛知県臨床衛生検査技師会微生物研究班基礎講座 2008 年 11 月 2 日 江南

- 4) 当院におけるA群溶血性レンサ球菌の細菌学的検討
 一過去10年における調査成績と比較して一
 舟橋恵二、中根一匡、安田直子、西尾一美、成田 敦、鈴木道雄、
 小山慎郎、牛田 肇、西村直子、尾崎隆男
 第57回日本農村医学会学術総会 2008年11月13-14日 つくば
- 5) ポリープによる成人腸重積の2例
 山野 隆、宮田美香、石川ひろみ、江口和夫、堤 靖彦、春田一行
 第57回日本農村医学会学術総会 2008年11月13-14日 つくば
- 6) 自然尿中に腫瘍細胞を認めた小細胞癌の3例
 住吉尚之、(長坂徹郎)、若松真理、安居 直、横井智彦、西尾一美、
 加藤克幸、福山隆一、中島伸夫、加藤一夫
 第47回日本臨床細胞学会秋期大会 2008年11月14-15日 東京
- 7) 電子カルテと健康管理センターとの連携による院内EHRの実現
 左右田昌彦、朱宮光輝、安藤哲哉、今西忠宏、今尾 仁、片田仁美、
 掛布広行、田村貴子、伊藤洋一、森下剛久
 第28回医療情報学連合大会 2008年11月23日 横浜
- 8) 冬季の小児急性胃腸炎におけるノロウイルスおよびロタウイルス抗原検出状況
 舟橋恵二、中根一匡、安田直子、岩田 泰、後藤武雄、新川泰子、鈴木道雄、
 成田 敦、山本康人、小山慎郎、牛田 肇、西村直子、尾崎隆男、
 (荒井直子)、(伊藤嘉規)
 第12回東海小児感染症研究会 2008年11月29日 名古屋
- 9) HE染色の染色ポイントとアンケート調査のまとめ
 住吉尚之
 愛知県臨床衛生検査技師会病理研究班例会 2009年1月17日 名古屋
- 10) 膵・胆管細胞診における免疫組織化学的染色および
 遺伝子検査の有用性について
 安居 直、福山隆一、千田美歩、河内 誠、若松真理、住吉尚之、
 横井智彦、西尾一美、佐々木洋治、加藤公一、石樽 清、(長坂徹郎)、中島伸夫
 第28回日本臨床細胞学会東海連合会総会 2009年3月7日 名古屋

- 11) 検診で発見された上行結腸脂肪腫の一例

宮田美香

JSS 中部第 8 回地方会 2009 年 3 月 8 日 名古屋

栄 養 科

- 1) ATP ふき取り検査と手洗いチェッカーを用いた衛生教育の有効性

山田千夏 朱宮哲明 深見沙織 尾崎隆男

第 57 回日本農村医学会学術総会 2008 年 11 月 13 日 つくば

- 2) 江南厚生病院における糖尿病療養指導のあり方

朱宮哲明 岩田弘幸 伊藤美香利 重村隼人 加藤里奈 清永啓子

長谷川京子 山田千夏 深見沙織 田中友美 有吉 陽 野木森 剛

第 22 回糖尿病治療研究会 糖尿病患者教育担当者セミナー

2008 年 9 月 28 日 東浦町

看 護 部

- 1) 経管栄養患者の口腔ケア

～唾液腺マッサージを試みて～

高橋知里

第 34 回東海 4 県農村医学会 2008 年 6 月 8 日

- 2) データ・情報に基づく褥瘡対策による医療マネジメントへの参画 (講演)

祖父江正代

第 10 回日本医療マネジメント学会 2008 年 6 月 20-21 日

- 3) 褥瘡発生誘因分析に基づく褥瘡マネジメントに関する研究

祖父江正代、(三輪恵美)、(棚橋幸子)、(堀佐知子)、(前川厚子)

第 10 回日本褥瘡学会 2008 年 8 月 29-30 日

- 1) 新人ストレス調査による評価
～新人看護師のリアリテショクの内容を知る～
日比亜希子
東海北陸地区看護研究学会 2008年10月29-30日

- 5) バスキュラーアクセスカテーテルの固定について
～透明フィルムドレッシング材での大きさの比較・検討～
加藤やよい
第5回尾張北透析セミナー 2008年10月29-30日

- 6) がん患者の倦怠感に対するアロマセラピートリートメントの有効性
毛利文恵
第36回厚生連看護師会研修会 2008年11月8日

- 7) 胃瘻部周囲のスキンケア
～ティッシュこよりを用いて～
仙田安子
第57回日本農村医学会学術総会 2008年11月13-14日

- 8) 無菌室入室中の筋力低下について
武馬麻里子
第57回日本農村医学会学術総会 2008年11月13-14日

- 9) 変則2交替制勤務を導入しての評価
後藤千春
愛知県看護研究学会 2008年11月14日

- 10) 皮膚乾燥の軽減
～アロマオイルを用いたマッサージを導入して～
渡嘉敷なずな
愛知県看護研究学会 2008年11月14日

- 11) 11 機能的健康パターン (M. Gordon) の枠組みを用いた
看護診断を導くための臨床看護分野別データベースの構築
片田仁美
日本医療情報学会 2008 年 11 月 23-24 日
- 12) 30 歳代看護師の仕事に対する満足度と認識に影響する要因
今枝加与
日本看護学会 看護管理 2008 年 10 月 30-31 日
愛知県看護管理研究会講演会・研究発表会 2008 年 12 月 6 日
- 13) ストーマ保有者にみられるスピリチュアルペイン構造
祖父江正代、(前川厚子)、(竹井留美)、馬場真子
第 26 回日本ストーマ・排泄リハビリテーション学会 2009 年 2 月 27-28 日
- 14) 在宅看護学の教科書におけるストーマケアのコンテンツ
(前川厚子)、(竹井留美)、祖父江正代
第 26 回日本ストーマ・排泄リハビリテーション学会 2009 年 2 月 27-28 日
- 15) がん終末期患者の希望をつなぐ褥瘡ケア (講演)
祖父江正代
第 5 回日本褥瘡学会中部地方会 2009 年 3 月 15 日

7. その他

7. その他

会議・委員会の開催状況

20年度

会 議 名	月日・定例等	出席	主 な 協 議 内 容
管理者会議	毎月 第2,3,4水曜 (定例第3水曜)	14名	円滑な病院運営(病院の機能、事業計画・財政計画、予算決算、教育・労務・厚生)
運営検討委員会	毎月 第3金曜	24名	円滑な病院運営(病院運営上の諸問題の検討、部門毎の成績・現況報告、職種間の連携、全職員への周知)
連絡協議会	毎月 第4木曜	49名	病院運営に関する事項の全職員への周知徹底(各種事項の連絡・協議)
医局会	毎月 第1水曜	123名	病院運営に関する事項の診療科への周知徹底(各種事項の連絡・協議)及び診療に関する連絡協議
江南厚生病院運営協議会	年1回	53名	地域の公的医療機関として使命達成(地域の医療・保健・福祉、病院の施設・設備)
器材委員会	年3回 2,4,11月	18名	適正な医療機器・備品購入に関する審議
資材委員会	奇数月 第3火曜	16名	医療材料の購入、管理に関する審議
倫理・治験審査委員会	毎月 第2水曜	17名	治験の適否、治験に関する調査審議、人を対象とする臨床的研究の倫理的配慮に関する審査
医療廃棄物管理委員会	年1回 4月		廃棄物による事故防止、公共の生活環境・公衆衛生の保全・向上(廃棄物処理計画、委託処理)
医療ガス安全管理委員会	年1回	31名	医療ガス設備の安全管理、患者の安全確保
薬事審議委員会	毎月 第1水曜	131名	使用薬剤に関する審議
院内感染対策委員会	毎月 第2月曜	20名	院内感染対策を組織的、積極的に推進、病院衛生管理の徹底(院内感染マニュアルの作成、予防・対策の啓蒙)
安全衛生委員会	毎月	15名	職員の安全と健康の確保(職員の健康障害の防止、健康の保持増進、労災の再発防止等に係る対策)
給食委員会	年4回 3,6,9,12月 第3月曜	23名	食事内容の向上、設備・作業内容の円滑化
医療情報システム委員会	毎月 第3木曜	24名	医療情報システムの円滑な運用(医療情報システムの諸問題、各種情報の提供)
中央手術部運営委員会	随時	20名	手術部の円滑な運営(手術部に関連した問題、関連部門との調整)
防災対策委員会	年1回 4月		防災管理の徹底、災害発生時の被害防止(防災管理の運営・計画、防災訓練の実施)
患者サービス向上委員会	毎月 第2木曜	17名	患者サービスの向上(CSの推進、患者サービスの分析・研究、接客教育)
輸血療法委員会	毎月 第4月曜	13名	適正な輸血療法の実施(輸血療法の適応、血液製剤の選択、事故・副作用・合併症対策)
医療安全委員会	毎月 第3金曜	26名	組織的に医療事故を防止、事故防止に関する教育
褥瘡対策委員会	毎月 第3月曜	12名	褥瘡の根絶に向けた予防・治療に関する効果的、効率的な運営(褥瘡患者・治療状況の把握、予防・治療に関する教育啓蒙)
診療録管理委員会	隔月 第3月曜	14名	診療記録の適正管理、診療録の充実・改善(診療録の運用・管理、診療情報の提供)
院外処方箋推進連絡協議会	奇数月 第3水曜	14名	院外処方箋発行に関する諸問題の検討
人事考課推進委員会	年2回 2,5月	21名	人事考課制度の円滑な運用
広報委員会	年4回 1,4,7,10月	13名	職員・地域住民の相互理解を深めるため、病院運営に関する情報を病院内外に提供(広報誌・チラシ・ホームページ・年報の作成)

会 議 名	月日・定例等	出席	主 な 協 議 内 容
病診連携委員会	年4回 2,5,8,11月 第3 火曜	12名	地域の医療環境の充実・発展(地域の医療機関との円滑な役割分担)
個人情報保護管理委員会	奇数月 第4金曜	25名	個人情報の適切な管理
臨床検査科運営委員会	年4回 2,5,8,11月 第 3金曜	12名	臨床検査の適正な活用、質向上(精度管理、検査項目の導入・廃止、外部委託)
NST委員会	奇数月 第2月曜	16名	栄養管理の充実・改善(NSTの導入・運営)
健康管理検討委員会	毎月 第3木曜	7名	健康管理センター及び健診事業活動に関するの運営・管理の適正化、健診内容の向上
臨床研修管理委員会	不定期	22名	医師の卒前・卒後研修の充実、円滑な運用(医学生卒前臨床実習の調整、研修医採用の意見具申、研修医の教育)
こども虐待連絡委員会	年2回 不定期	7名	こどもの虐待の予防及び早期発見と被虐待児の救済とその家族に対する支援を行う。
化学療法委員会	不定期	17名	がん化学療法が、安全かつ適正に遂行されるよう検討する。
保育所運営委員会	3,6,9,12月	6名	保育所の円滑な運営
退院計画検討委員会	毎月 第3火曜	14名	退院計画に関する現状の分析と問題点の共有化、地域の医療機関や福祉施設の状況を協議する。
ボランティア委員会	年2回以上	9名	ボランティア活動の適切かつ円滑な運営(ボランティア受入れ、ボランティア活動の企画・連絡・調整、運営計画)
地域福祉連絡会議	1,4,7,10月 第3火曜	14名	地域住民の介護サービスの課題を整理し、当院の理念に寄与することを目的とする。
研修医卒後研修委員会	年4回	17名	研修医の意見を取り入れ、研修の内容の充実、各科の受け入れ体制の調整を図る。
医療事故調査対策委員会	毎月 第2,3,4水曜	15名	医療事故防止に向け、そのことについての検討・推進・啓発に関することを協議する。
クリティカル・パス委員会	3,6,9,12月 第4木曜	33名	疾患別パスに対する職員意識高揚、各パスの検閲・開発
試薬審議委員会	随時	7名	検査試薬の認可・管理の適正合理化
糖尿病療養委員会	毎月 第2金曜	20名	糖尿病に関する啓蒙活動を行う。糖尿病療養に関する事項について協議する。
病院機能評価検討委員会	毎月 第4木曜	35名	業務改善ならびに病院機能評価等に関する事項について協議を行う。
コンプライアンス委員会	年2回 不定期	14名	コンプライアンス体制の確立・浸透・定着に関する事項について協議を行う。
救急診療体制検討委員会	随時	17名	救急診療体制の円滑な運用に関する事項について協議を行う。
尾北地域小児救急作業部会	年2回 2,6月	13名	尾北地域小児救急・センター方式の実施規定の策定
図書委員会	年2回 3,9月	13名	図書室の円滑な管理・運営および図書サービスの充実
ICT (インフェクション・コントロールチーム)	毎月 第4水曜	18名	感染予防及び感染防止対策を充実させるための体制の強化と実践的活動の組織的実行

病理解剖報告

(平成20年5月1日～平成21年3月31日)

総件数 14件 (内科13件、泌尿器科1件)

剖検日	依頼科	患者氏名	年齢	性別	臨床診断名
2008/06/02	内科	S. I.	76	男	大腸癌
2008/06/14	内科	S. N.	68	男	悪性胸膜中皮腫
2008/08/04	内科	H. U.	58	男	急性骨髄性白血病
2008/08/20	内科	N. S.	94	男	粘液産生性胆管腫瘍
2008/08/29	内科	T. K.	73	男	急性リンパ性白血病
2008/12/12	内科	H. F.	55	女	急性骨髄性白血病
2009/01/21	内科	T. Z.	56	男	急性骨髄性白血病
2009/02/09	内科	A. M.	81	女	播種性血管内凝固症候群
2009/02/12	内科	T. I.	44	男	肺腺癌
2009/02/20	内科	Y. S.	96	女	肺出血の疑い
2009/02/21	泌尿器科	Y. S.	84	女	右尿管癌
2009/02/25	内科	S. I.	66	女	急性心不全
2009/03/19	内科	M. W.	40	男	リンパ芽球性リンパ腫
2009/03/23	内科	T. S.	61	男	骨髄異形成症候群

平成20年度 愛昭会行事報告

開催月日	行事	参加者
08' 06/20(金)	新入職員歓迎会・職員食堂 18:00～	約400名
	新入職員を迎え懇親会を開催。レストラン「和み」の披露も兼ね、豪華なメニューで歓迎した。	
09/13(土)	球技大会(野球-予選/バレー-予選・決勝) 安城総合運動公園野球場、体育館 野球/2回戦敗退 バレー/準優勝	
	バレー部は決勝まで進み、第1セットを先取したがフルセットの末惜しくも敗退、大健闘、大満足の結果となる。 野球部は投打の力がかみ合わずあえなく敗退した。	
10/04(土)05(日)	職員旅行・三重県/湯ノ山温泉 自己負担¥0-・15名希望	中止
	定員の20名に達せず中止とした。	
10/11(土)12(日)	職員旅行・長野県/戸倉上山田温泉 自己負担¥0-・144名希望	120名
	バス3台にて長野へ。温泉、りんご狩り、善光寺参り、信州そばなどを満喫した。	
10/18(土)19(日)	職員旅行・三重県/湯ノ山温泉 自己負担¥0-・4名希望	中止
	定員の20名に達せず中止とした。	
10/25(土)26(日)	職員旅行・兵庫県/城崎温泉 自己負担¥15,000-・77名希望	65名
	新幹線にて城崎へ。姫路城、生野銀山など観光を楽しみ、城崎では競って温泉めぐりをし美肌効果が靦面に。	
11/01(土)02(日)	職員旅行・岐阜県/飛騨高山温泉 自己負担¥0-・90名希望	58名
	午後からバス2台で高山へ。朝市、陣屋散策や高山名物に舌鼓をうった。	
11/08(土)09(日)	職員旅行・山梨県/石和温泉 自己負担¥0-・228名希望	149名
	バス5台にて山梨へ。ワイン工場、宝石工場の見学やぶどう狩りを楽しんだ。	
11/22(土)23(日)	職員旅行・三重県/浜島温泉 自己負担¥0-・122名希望	92名
	午後からバス3台で伊勢志摩へ。珍しい洞窟の中での昼食やお伊勢参りなどを満喫した。	
12/12(金)	忘年会・名鉄犬山ホテル 18:30～ ※立食形式	618名
	キャパシティの問題から立食形式で開催。例年通りの盛り上がりで親睦を深めた。	
09' 02/07(土)08(日)	職員旅行・長野県/不動温泉 自己負担¥0-又は¥20,000-・90名希望	68名
	毎年恒例の昼神温泉郷へのツアー。名物囲炉裏での串焼はいつ食しても美味。	
02/15(日)	ふぐツアー・福井県/小浜温泉 自己負担¥0-又は¥20,000-・77名希望	65名
	昨年より場所と内容を変更してのふぐ三昧ツアー。養殖ふぐとは思えないほどの味覚を堪能できた。	
03/14(土)	いちご狩り・浜名湖	222名
03/20(金)	いちご狩り・浜名湖	241名
03/28(土)	いちご狩り・浜名湖	222名
	三班あわせてバス20台で恒例のいちご狩りへ。あいにくの天候や高速渋滞が少し残念だったが、日頃サービスできない子供たちにも良いパパ、良いママ、爺ちゃん、婆ちゃんに映ったはず。	

編集後記

平成20年度、江南厚生病院として初めての年報をお届けいたします。日常業務のお忙しいなか、原稿を提出していただきました皆様には心からお礼を申し上げます。広報委員会も新しいメンバー構成となり、はりきっております。病院の規模が大きくなり、各部署の状況が把握しにくくなってきていますが、年報を通して、皆様が病院の状況を容易に理解できるよう委員一同、編集に努力していきたいと考えておりますので今後ともご指導、ご協力をお願いいたします。

平成21年12月吉日
江南厚生病院広報委員会
委員長 野木森 剛

江南厚生病院広報委員会

編集委員

委員長	副院長	野木森 剛
副委員長	医局	木村直美
	薬剤・供給科	牧野 勇
	放射線技術科	古田和久
	臨床検査技術科	中根一匡
	リハビリテーション技術科	勝野正盛
	栄養科	加藤里奈
	看護部	戸谷 弓
		千田奈津子
	地域医療福祉連携室	横井靖忠
	事務局	松原通一
		井上貴幸
		亀山知穂



江南厚生病院年報 (20年度)

第1号

2009年12月1日発行

編集 愛知県厚生連 江南厚生病院広報委員会

発行 愛知県厚生農業協同組合連合会

江南厚生病院長 加藤 幸男

〒483-8704 江南市高屋町大松原 137 番地

電話 0587-51-3333 (代)

FAX 0587-51-3300

<http://www.jaaikosei.or.jp/konan/>

